

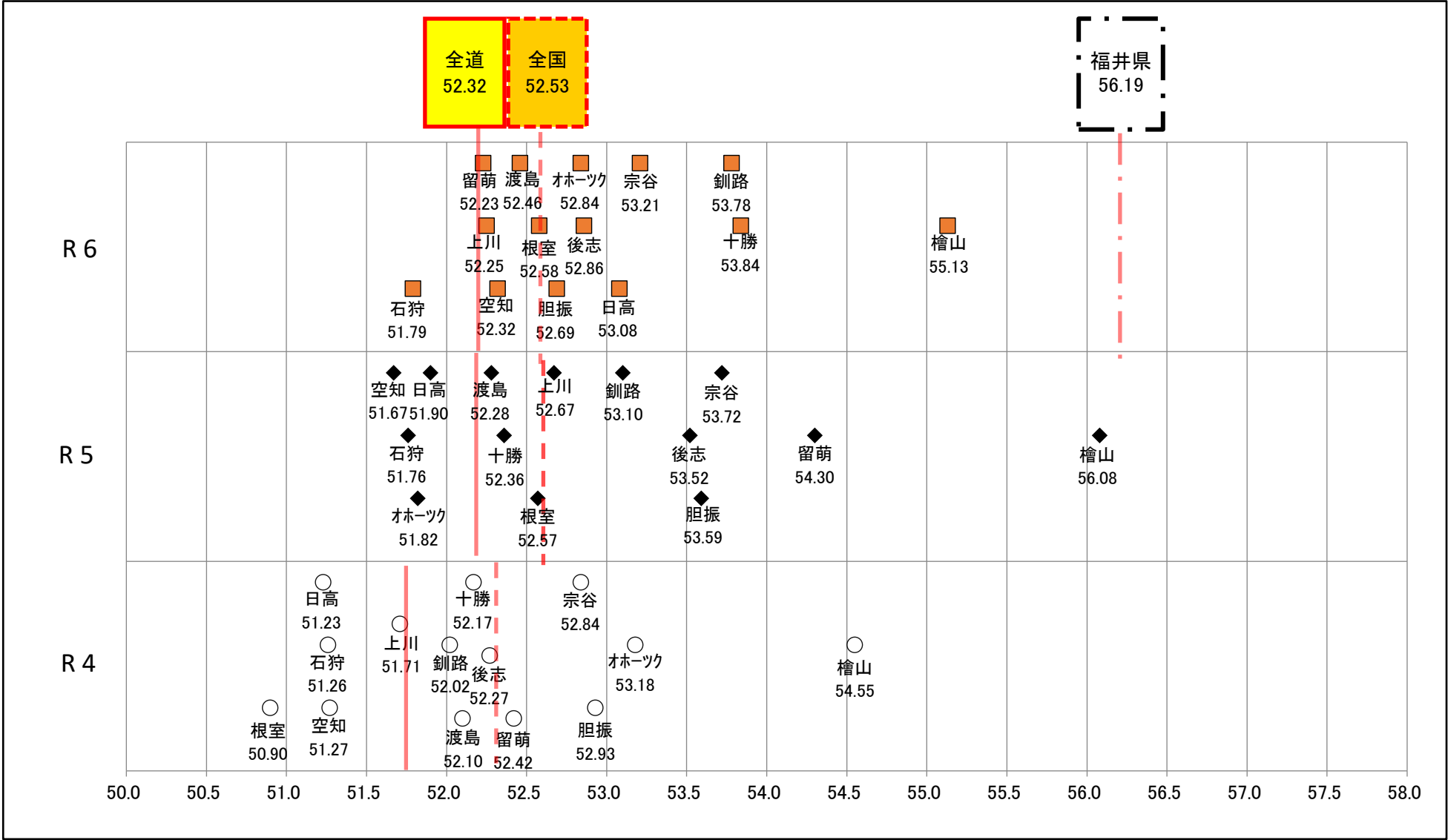
V 各管内の状況

ここでは、令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における各管内の結果を分析し、「管内の体力合計点の分布」「管内の状況、分析及び体力向上策」を掲載しています。

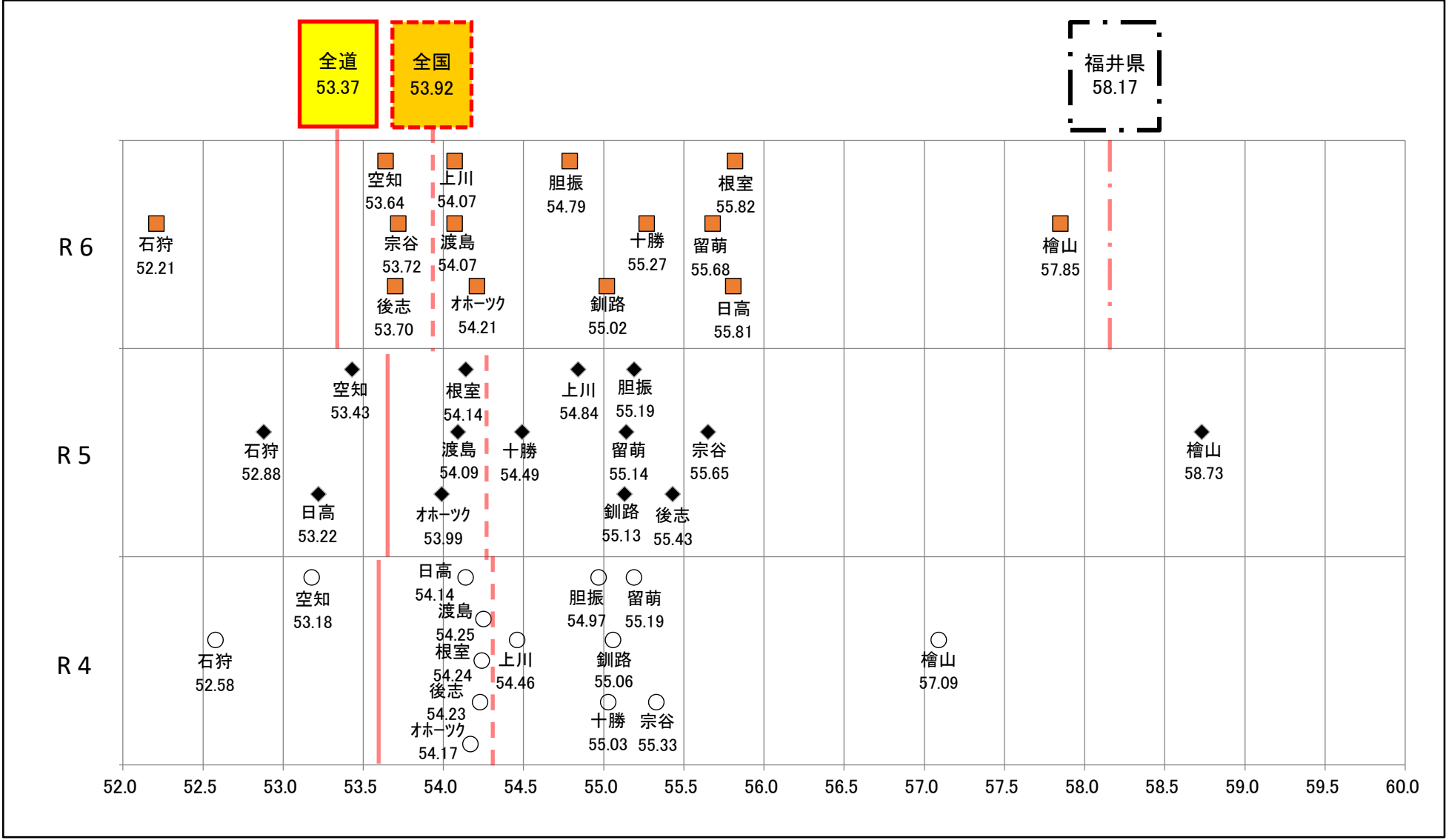
各市町村教育委員会、学校においては、本資料を参考に、各管内の状況や改善の方向性等を把握し、今後の取組を工夫・改善するなど、各地域や学校における取組の更なる充実に向け、御活用ください。

管内の体力合計点の分布

(1) 小学校男子

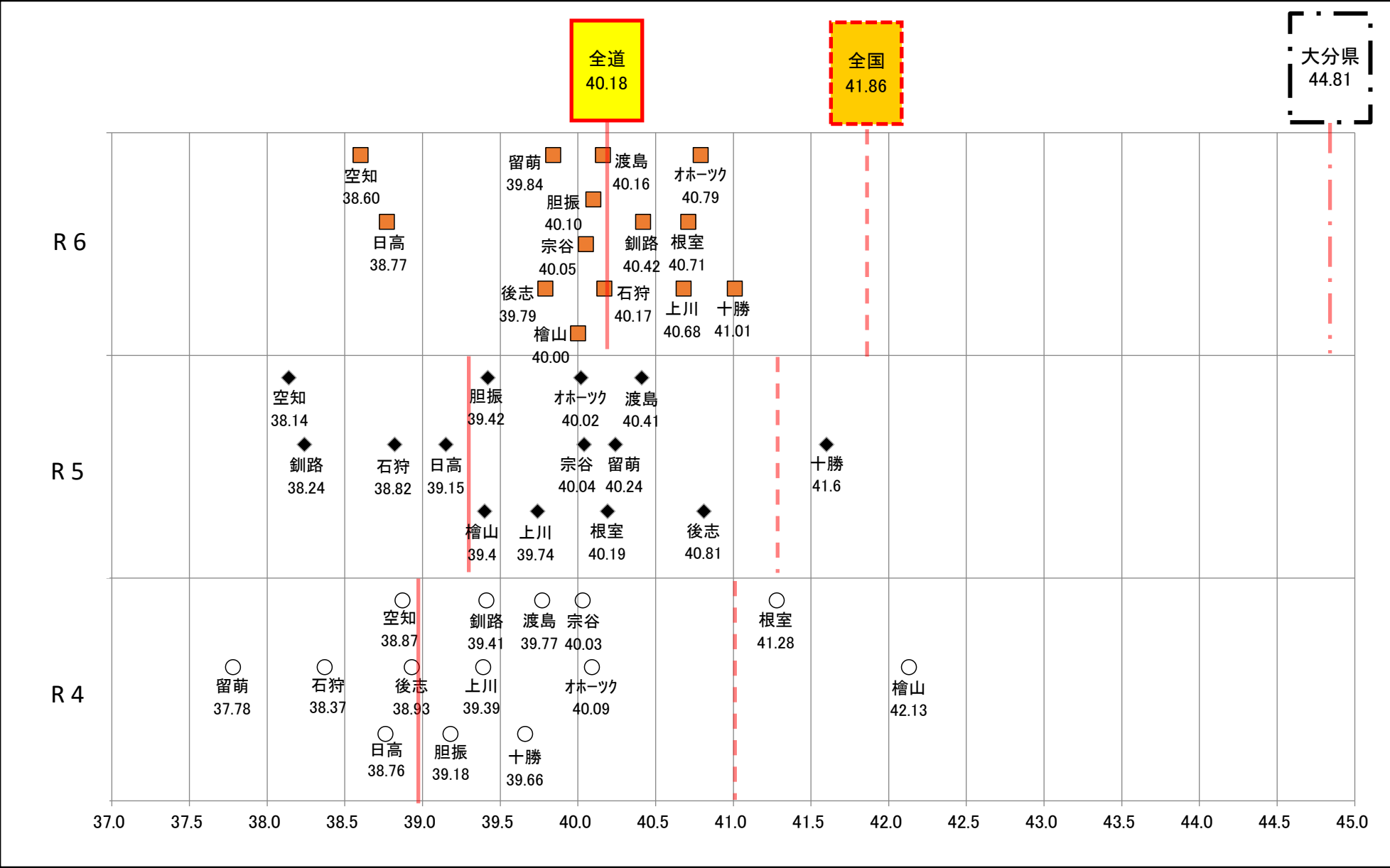


(2) 小学校女子

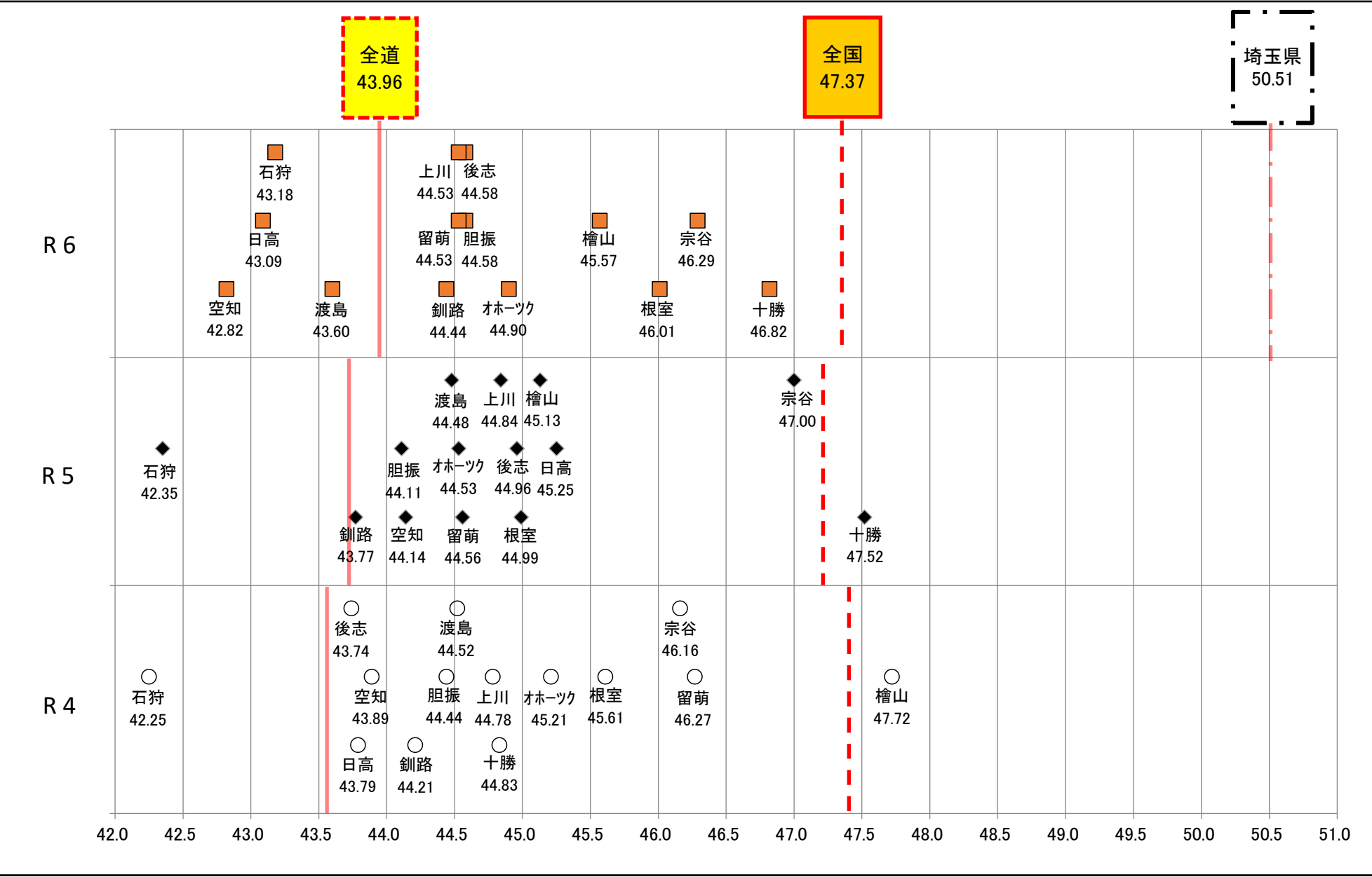


※ は、都道府県の中で、体力合計点が最も高い県

(3) 中学校男子



(4) 中学校女子



※ は、都道府県の中で、体力合計点が最も高い県

空知管内の状況

10市14町

(小学校数:56校 児童数:1,676人、中学校数:37校 生徒数:1,664人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

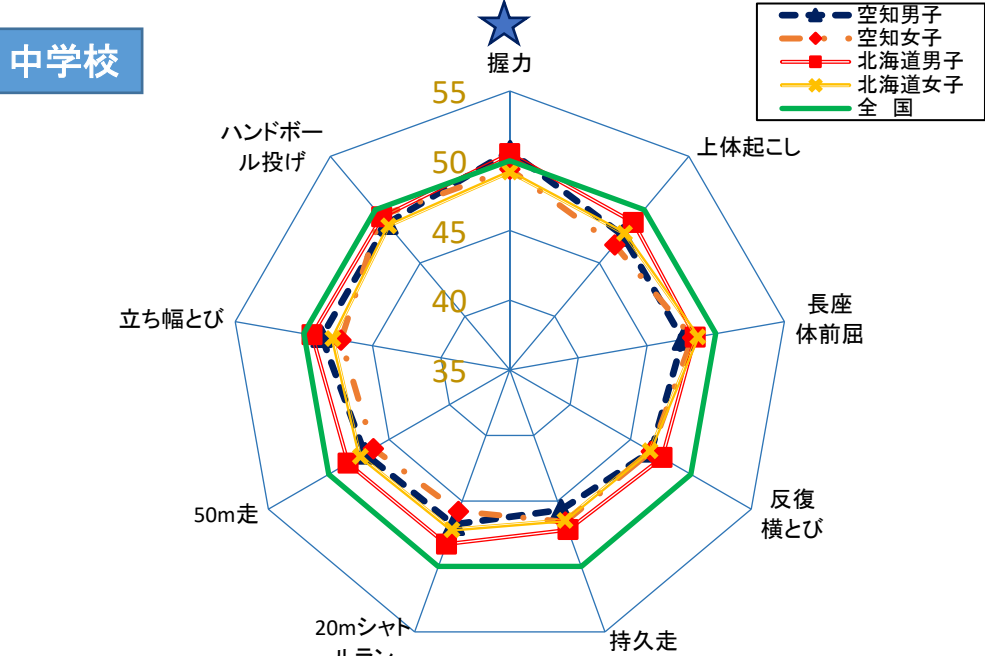
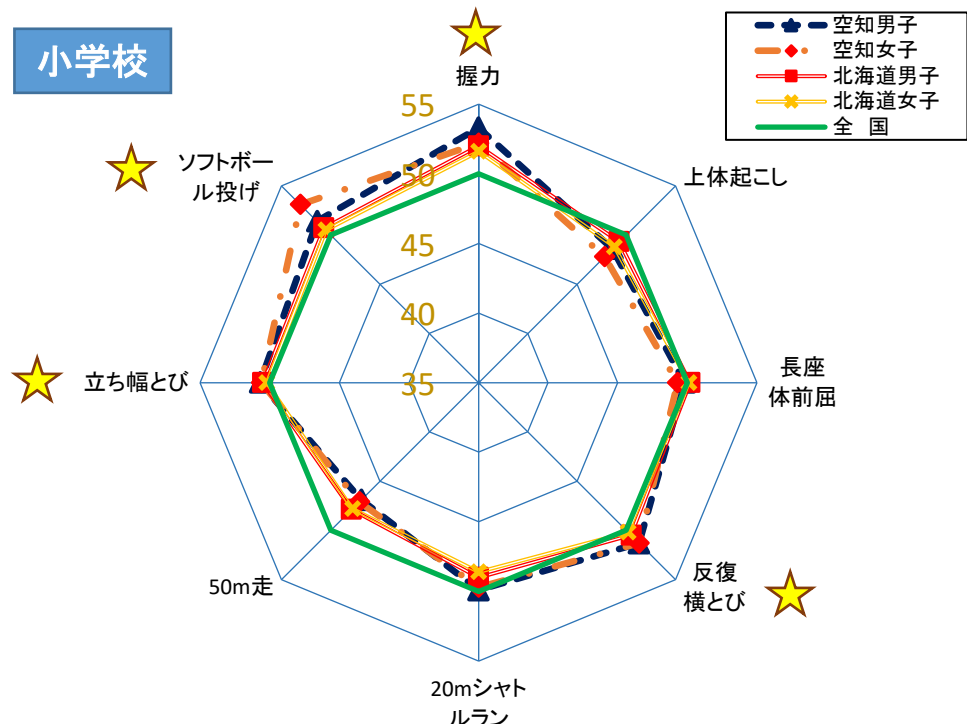
	男子	女子
空知	52.32	53.64
北海道	52.32	53.37
全国	52.53	53.92

○ 中学校

	男子	女子
空知	38.60	42.82
北海道	40.18	43.96
全国	41.86	47.37

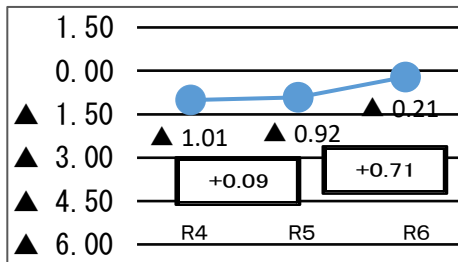
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ★ は男子のみ全国平均以上の種目 ★ は女子のみ全国平均以上の種目

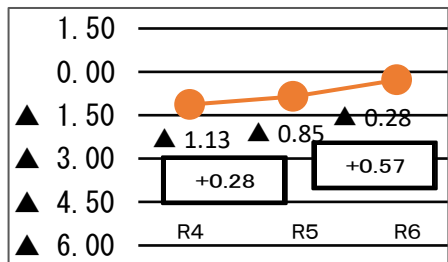


【体力合計点の全国との差とその推移】

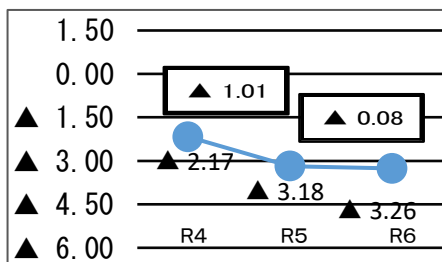
小学校男子



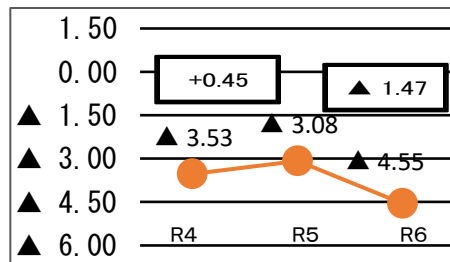
小学校女



中学校男子



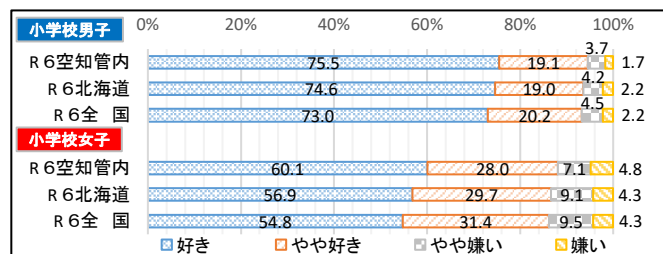
中学校女子



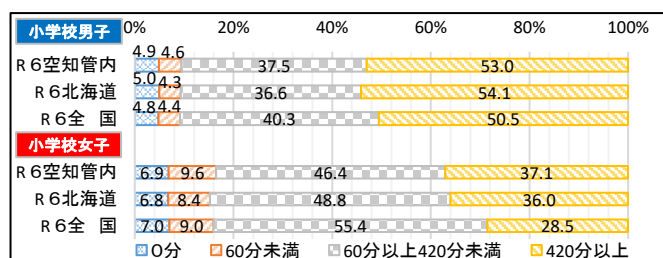
【質問紙調査の状況】

<児童生徒質問紙>

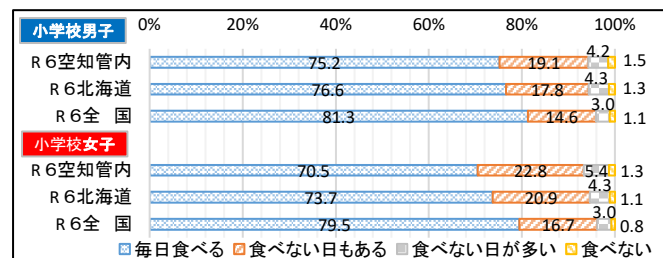
○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



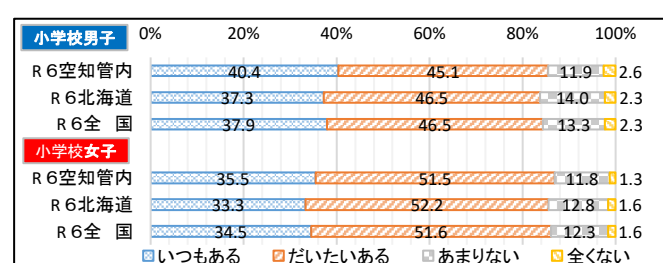
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそどのくらいの時間していますか。



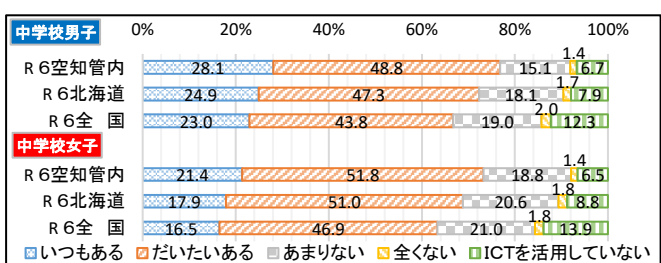
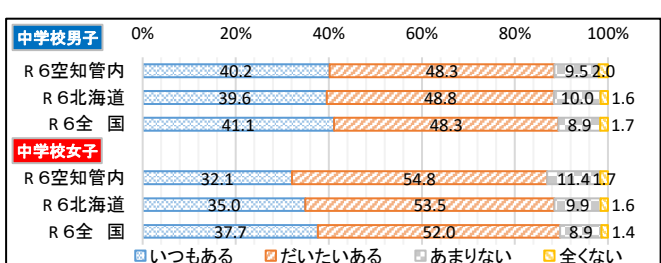
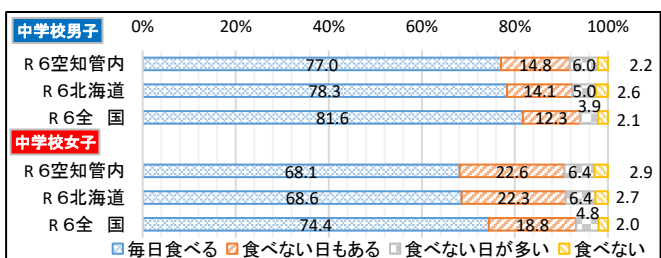
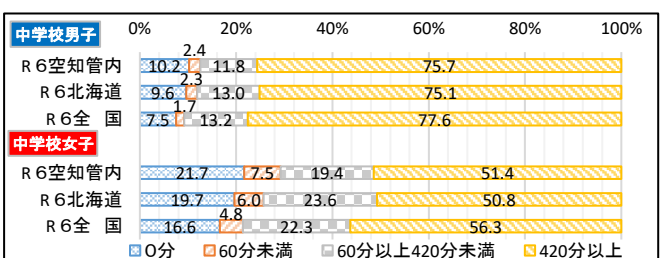
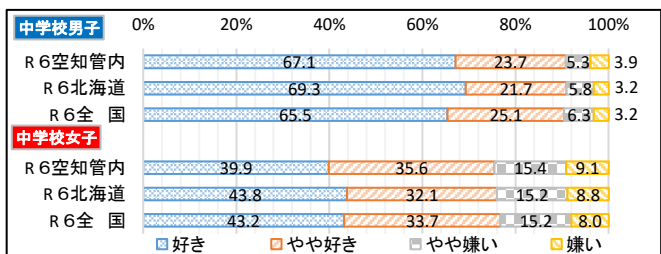
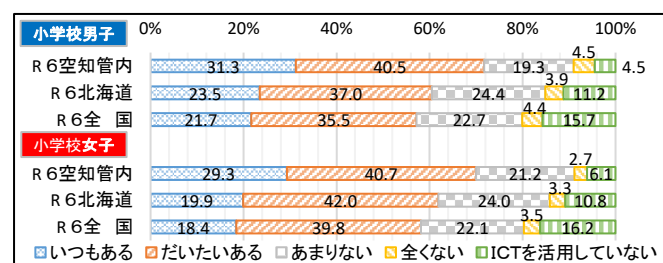
○ 朝食は毎日食べますか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

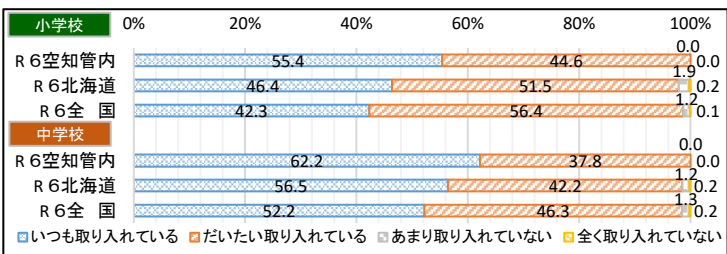


○ 体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

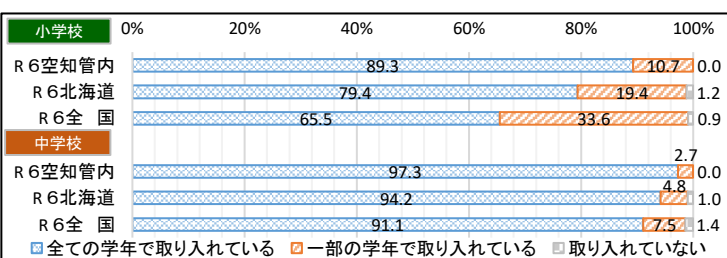


<学校質問紙>

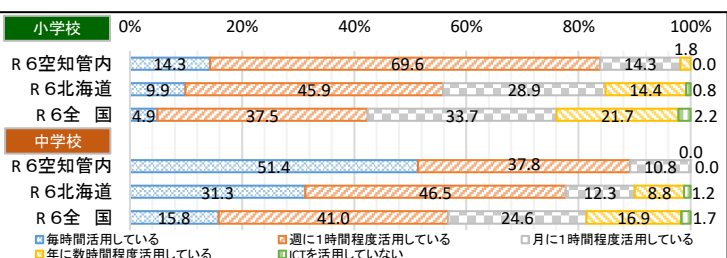
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れていますか。



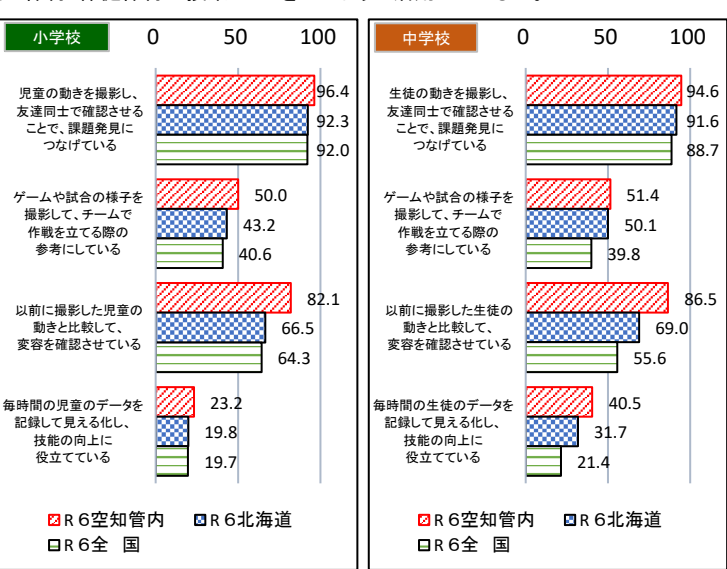
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で話し合う活動を取り入れていますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



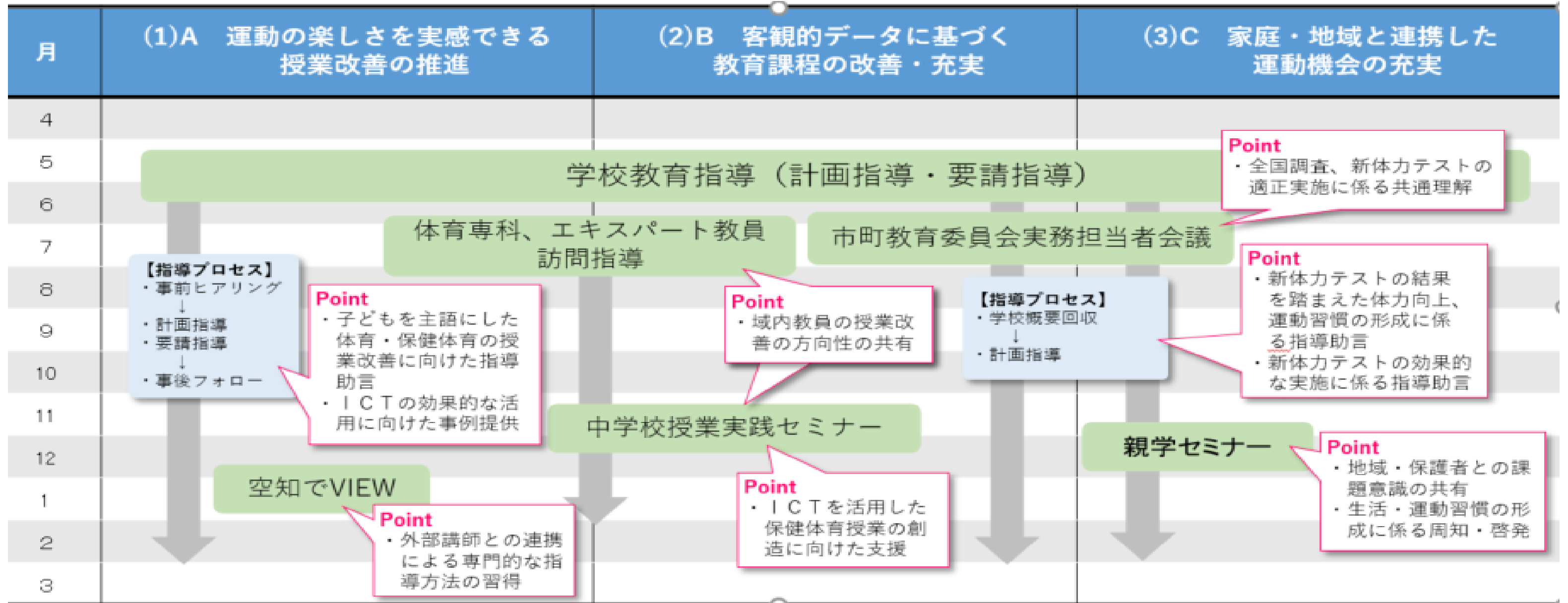
実技調査及び質問紙調査の分析					
＜ 小 学 校 ＞			＜ 中 学 校 ＞		
実技調査	○ 体力合計点は、全国と比較し、男子で0.21ポイント、女子で0.28ポイント下回った。 ○ 各種目の状況は、男女ともに、「握力」「反復横跳び」「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」の種目で、全国平均以上を上回った。 ○ 体力合計点の全国との差とその推移は、令和５年度と比較し、男子で0.71ポイント、女子で0.51ポイント差が縮まった。		実技調査	○ 体力合計点は、全国と比較し、男子で3.26ポイント、女子で4.55ポイント下回った。 ○ 各種目の状況は、男女ともに「握力」の種目で全国平均を上回った。 ○ 体力合計点の全国との差とその推移は、令和５年度と比較し、男子で0.08ポイント、女子で1.47ポイント差が広がった。	
質問紙調査	○ 各学校において、児童の動きをICT機器で撮影し、児童同士で確認させることで、課題発見につなげたり以前に撮影した児童の動きと比較して、変容を確認させたりしたことにより、男女ともにタブレットなどのICTを活用することで、できたり、わかつたりすることがあると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。		質問紙調査	○ 各学校において、生徒の動きをICT機器で撮影し、生徒同士で確認させることで、課題発見につなげたり、以前に撮影した生徒の動きと比較して、変容を確認させたりしたことにより、男女ともにタブレットなどのICTを活用することで、できたり、わかつたりすることがあると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。	

空知管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

【令和５年度 管内課題】※全国体力調査各質問紙結果		
●体育・保健体育の授業の楽しさ 児童：66.5％、生徒：45.9％	●調査結果を踏まえた授業等の工夫改善 小学校：85.5％、中学校78.9％	●放課後や休業日の運動やスポーツの機会 児童：74.5％、生徒：76.3％
(1)A 運動の楽しさを実感できる授業改善の推進	(2)B 客観的データに基づく教育課程の改善・充実	(3)C 家庭・地域と連携した運動機会の充実
●学校教育指導 ①個別最適・協働的な学びの促進 ②ＩＣＴ活用による授業改善の促進 ③体育専科教員等の訪問指導等の実践事例提供 ④道教委各種事業への参加啓発 ●「空知でVIEW」 ①外部講師との連携による独自学習会の実施 ②ＩＣＴ利活用に係る先進事例共有	●学校教育指導・市町教育委員会実務担当者会議 ①批判的思考による授業・体力向上の取組の改善 ②新体力テストの効果的・効率的な実施の促進 ●「親学セミナー」 ①社教班との連携によるセミナー実施 ②家庭に対する運動習慣形成の取組啓発	

2 具体的な取組



3 取組の評価 ※（ ）は目標値

(1)A 運動の楽しさを実感できる授業改善 ①体育・保健体育の授業は楽しい (全国体力・運動能力、運動習慣等調査) (小学校80％、中学校80％) ■小学校男子96％、女子90％ 中学校男子93％、女子84％ ②体育の授業で、ICTを使って学習することで「できたり、わかつたり」することがある (全国体力・運動能力、運動習慣等調査) (小学校80％、中学校80％) ■小学校男子72％、女子70％ 中学校男子77％、女子73％	(2)B 客観的データの基づく教育課程の改善 ①体育の授業以外で、全ての児童生徒の体力・運動能力向上に係る取組を行った (全国体力・運動能力、運動習慣等調査) (小学校100％、中学校100％) ■小学校96％、中学校84％ ②調査結果を踏まえた授業等の工夫を行った (全国体力・運動能力、運動習慣等調査) (小学校100％、中学校100％) ■小学校89％、中学校87％	(3)C 家庭・地域と連携した運動機会の充実 ①卒業した後も、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う (全国体力・運動能力、運動習慣等調査) (小学校80％、中学校80％) ■小学校男子91％、女子87％ 中学校男子86％、女子74％ ②1週間の体育の授業以外の運動やスポーツの時間が1時間未満 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査) (小学校男子５％未満、女子15％未満) (中学校男子10％未満、女子25％未満) ■小学校男子10％、女子17％ 中学校男子13％、女子29％
---	--	---

4 改善に向けた今後の方向性

(1) A 運動の楽しさを実感できる授業改善 各学校におけるICTの活用は進んだが、児童生徒の「できた、わかつた」に十分結び付いていないことから、ＩＣＴを活用した授業改善を図るための研修会を実施し、運動が苦手と感じている児童生徒への対応など個の課題に応じた指導の充実を図り、資質・能力の育成を図る。	(2) B 客観的データに基づく教育課程の改善 各学校における体力向上の取組について、効果的な検証や改善策の構築に課題が見られることから、「体力向上プラン」等に基づく取組について、調査結果等の分析結果を踏まえた内容の検証及び重点化により、各学校におけるカリキュラ・ムマネジメントを促進するよう、学校教育指導訪問等で指導助言する。	(3) C 家庭・地域と連携した運動機会の充実 中学校における保健体育の授業以外での運動習慣が確立されていないことから、社会教育主事等と連携し、望ましい生活習慣や運動習慣の確立に向けた取組を周知するとともに、地域人材を生かした体力向上の取組について好事例を周知し、地域の実態に応じた取組の推進を図る。
--	---	---

石狩管内の状況

6市1町1村

(小学校数:267校 児童数:17,708人、中学校数:140校 生徒数:15,628人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

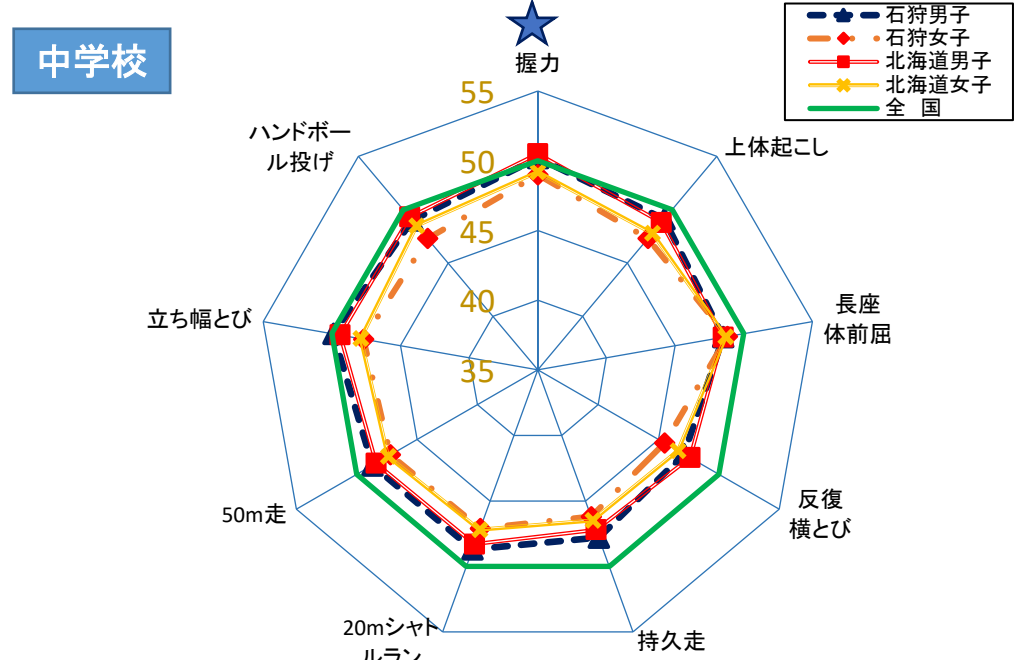
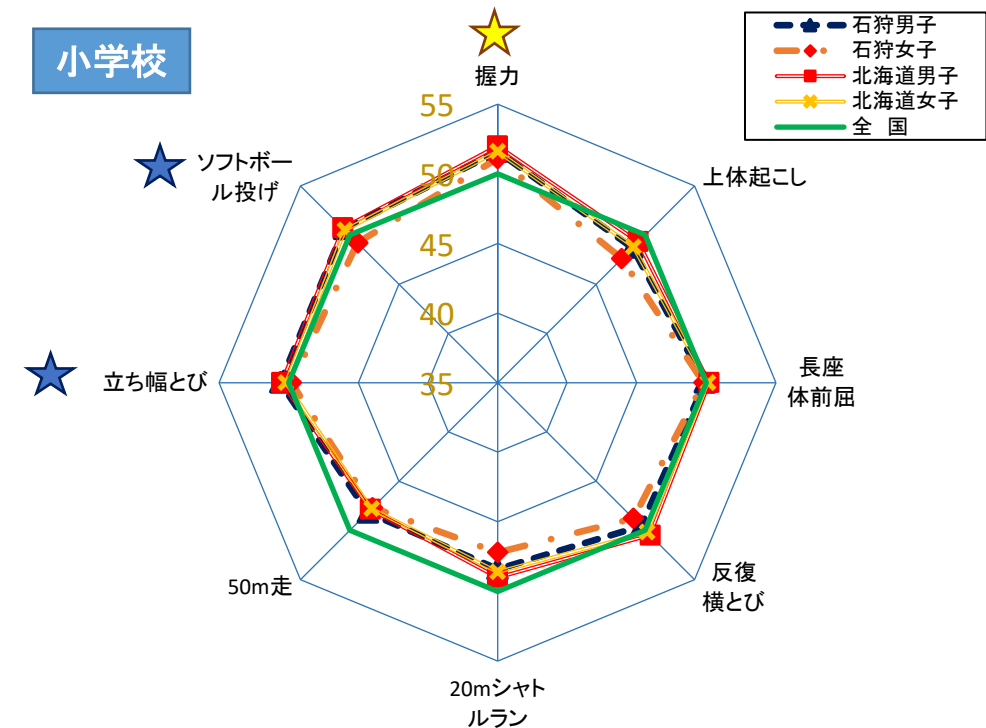
	男子	女子
石 狩	51.79	52.21
北海道	52.32	53.37
全 国	52.53	53.92

○ 中学校

	男子	女子
石 狩	40.17	43.18
北海道	40.18	43.96
全 国	41.86	47.37

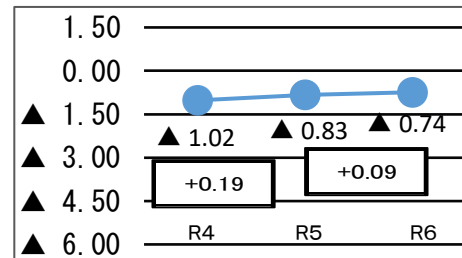
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ★ は男子のみ全国平均以上の種目 ★ は女子のみ全国平均以上の種目

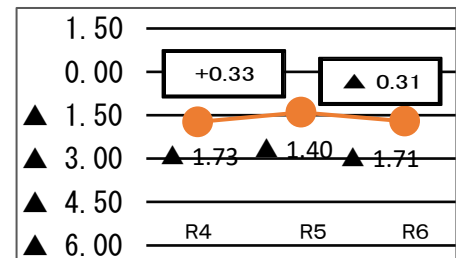


【体力合計点の全国との差とその推移】

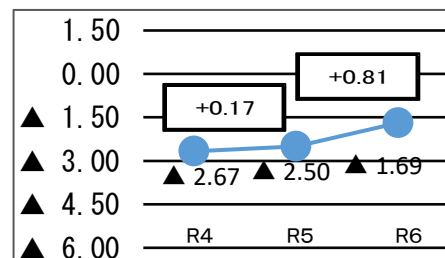
小学校男子



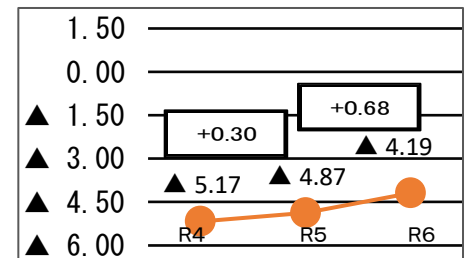
小学校女



中学校男子



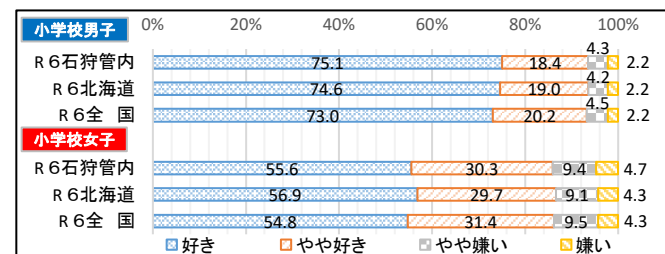
中学校女子



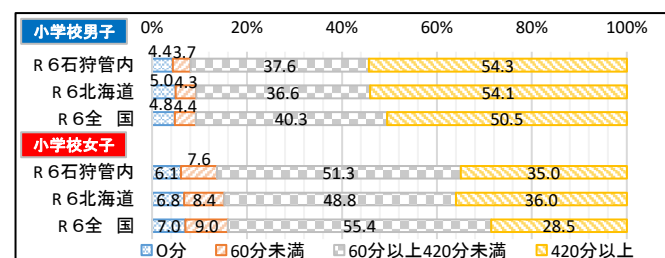
【質問紙調査の状況】

<児童生徒質問紙>

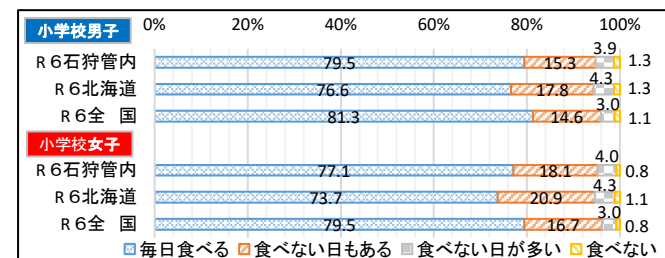
○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



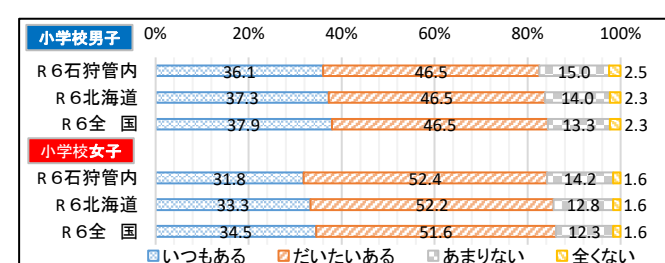
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそどのくらいの時間していますか。



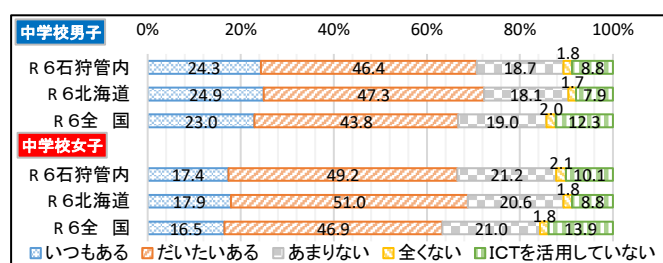
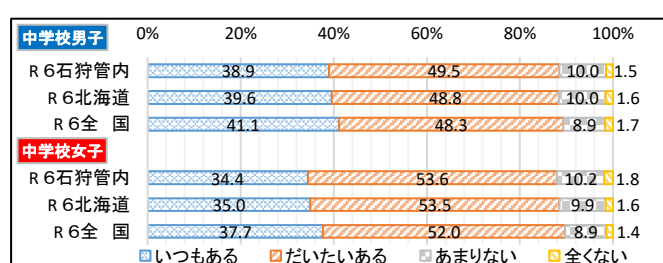
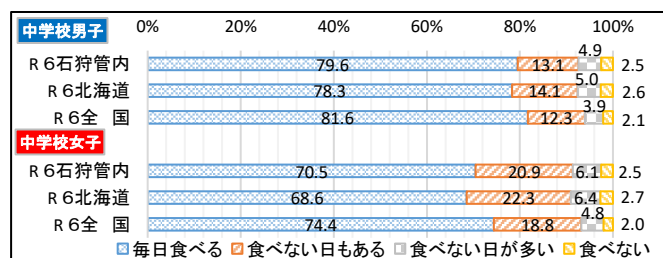
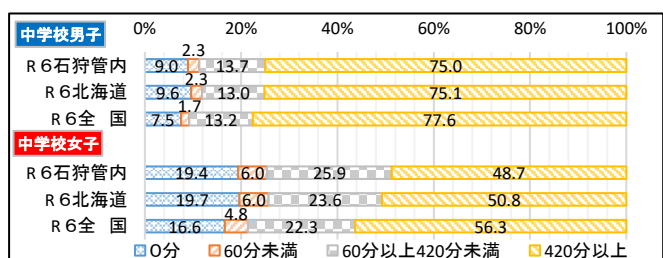
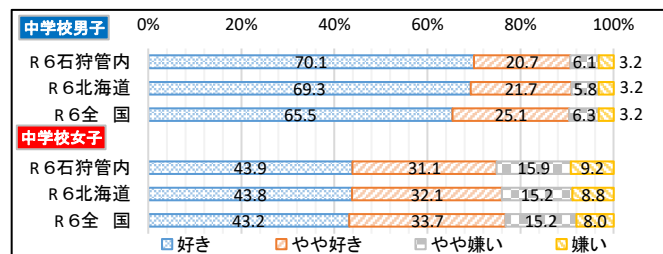
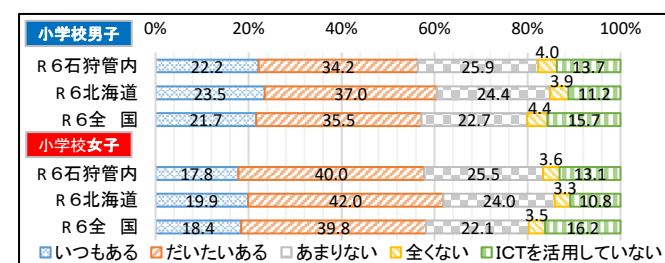
○ 朝食は毎日食べますか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

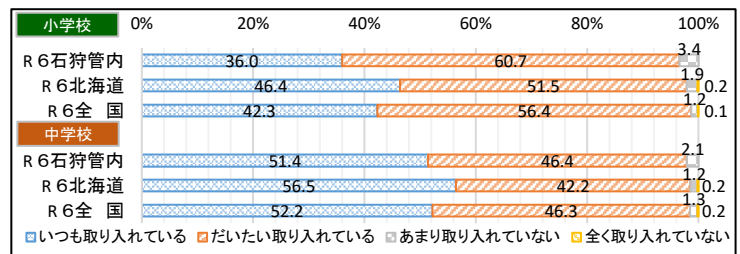


○ 体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

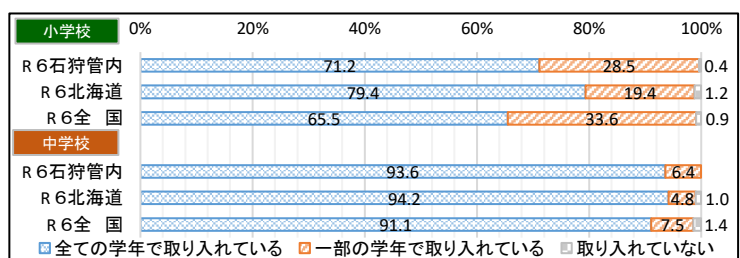


<学校質問紙>

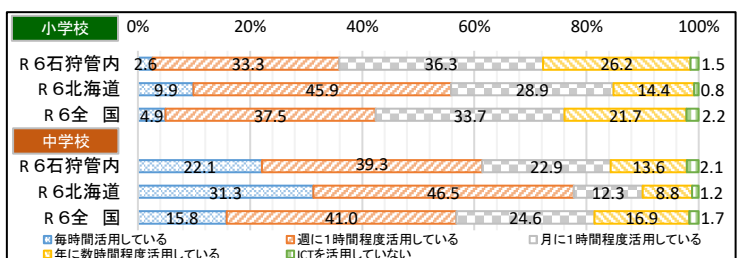
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れていますか。



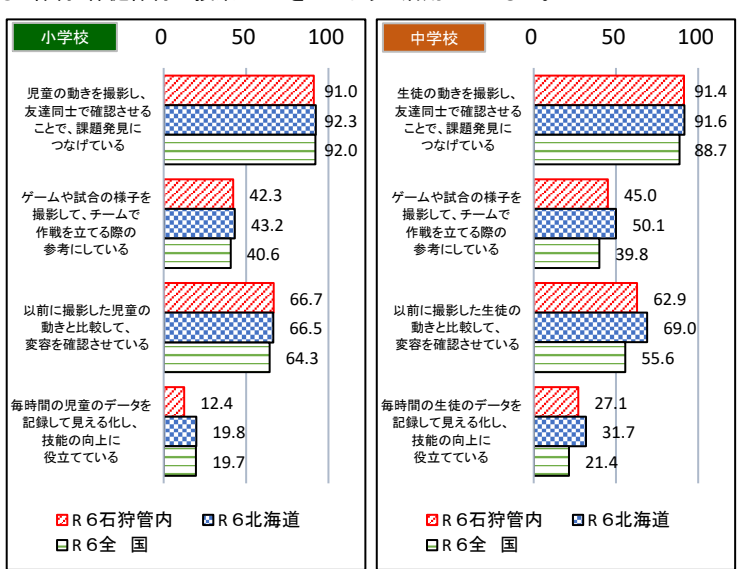
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で話し合う活動を取り入れていますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



実技調査及び質問紙調査の分析

＜ 小 学 校 ＞		＜ 中 学 校 ＞	
実技調査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が0.74ポイント、女子が1.71ポイント低く、課題である。 ○ 体力合計点は、昨年度と比較して、男子は0.09ポイント、全国との差を縮め、女子は0.31ポイント、全国との差が開いた。 ○ 種目別に全国平均以上となったのは、男子は3種目、女子は1種目である。	実技調査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が1.69ポイント、女子が4.19ポイント低く、課題である。 ○ 体力合計点は、昨年度と比較して、男子が0.81ポイント、女子が0.68ポイント、全国との差を縮めた。 ○ 種目別に全国平均以上となったのは、男子の1種目だけであり、課題である。
質問紙調査	○ 「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童の割合は、男子が75.1%であり、全国より2.1ポイント高い。女子が55.6%であり、全国より0.8ポイント高い。 ○ 「体育の授業では、児童同士で話し合う活動を全ての学年で取り入れた」と回答した学校の割合は、71.2%であり、全国より5.7ポイント高い。 ○ 「体育の授業で、ＩＣＴを以前に撮影した児童の動きと比較して、変容を確認させるために活用した」と回答した学校の割合は、66.7%であり、全国より2.4ポイント高い。	質問紙調査	○ 「運動やスポーツをすることが好き」と回答した生徒の割合は、男子が70.1%であり、全国より4.6ポイント高い。女子が43.9%であり、全国より0.7ポイント高い。 ○ 「保健体育の授業で、生徒同士が話し合う活動を全ての学年で取り入れた」と回答した学校の割合は、93.6%であり、全国より2.5ポイント高い。 ○ 「保健体育の授業で、ＩＣＴを毎時間活用した」と回答した学校の割合は、22.1%であり、全国より6.3ポイント高い。

石狩管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1)A 体力向上に向けた検証改善サイクルの確立
□ 新体力テストを全学年・全種目で実施し、全ての児童生徒の体力の状況を把握するとともに、結果分析を踏まえた授業改革や体力向上の取組の充実を図る必要がある。 ・「体力向上プラン」を作成し、児童生徒の実態を踏まえた検証改善サイクルの推進について指導助言 ・児童生徒が自己の運動能力や運動習慣等を適切に把握するとともに、運動習慣等の改善に主体的に取り組むことができるよう、ＩＣＴを活用した個人記録の蓄積や活用について指導助言
(2)B 各学校における体育・保健体育の授業改革
□ 体育・保健体育の授業で身に付けさせたい資質・能力を明確にし、児童生徒が自己の課題の解決に向けて活動する授業改革を推進する必要がある。 ・体育・保健体育の授業における対話を重視した授業改革の充実について指導助言 ・体育・保健体育の授業が楽しいと感ずることができるよう、ＩＣＴを活用し、児童生徒が自身の成長や変容を自覚できる授業改革について指導助言
(3)C 体育専科教員及び体育エキスパート教員と連携した、体力向上に係る組織的・協働的な取組の推進
□ 学校の教育活動全体を通じた児童生徒の体力向上や教員の指導力向上に向けた取組を推進する必要がある。 ・運動機会の創出など、学校の教育活動全体を通じた体力向上への取組について指導助言 ・小学校体育専科教員及びエキスパート教員による訪問指導を通して、体育・保健体育の授業等の充実に向けた指導方法の工夫・改善に関する指導助言

2 具体的な取組

月	(1)A	(2)B	(3)C
4	教育長会議、校長会議、教頭・主幹教諭会議において、体力向上に向けた検証改善サイクル確立について周知・徹底		
5	・体育専科教員及び体育エキスパート教員による訪問指導を通した体育授業への指導助言 ・教育活動全体を通じた体力向上の取組への助言（第1回訪問指導）		
6	・学校教育指導において、体力向上に成果が見られる学校の取組、継続して課題が見られる学校の種目を把握 ・校長会・教頭会幹事研修会において、新体力テストの実施について指導助言 ・各指定事業の実施・進行管理の徹底		
7			
8			
9			
10	中学校体力向上推進教員を活用した、授業力向上を図る研修の実施		
11	・体育専科教員及び体育エキスパート教員による訪問指導を通した体育授業への指導助言 ・教育活動全体を通じた体力向上の取組への助言（第2回訪問指導）		
12			
1	管内教育推進の重点に係る取組の評価、次年度の重点の検討		
2	各指定事業における取組の評価		
3			

3 取組の評価 ※（ ）は目標値

(1)A 体力向上に向けた検証改善サイクルの確立	(2)B 各学校における体育・保健体育の授業改革	(3)C 体育専科教員及び体育エキスパート教員と連携した、体力向上に係る組織的・協働的な取組の推進
①前年度、学年としての体力・運動能力向上の目標設定の状況 (目標値：全小・中学校、義務教育学校100%) ■小：88.9%、中：81.1%、義務：75.0%	①体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりする学習で「できたり、わかったり」する児童生徒の状況 (目標値：全小・中学校、義務教育学校100%) ■小：85.1%、中：91.0%、義務：92.6%	①体育・保健体育の授業以外での、体力・運動能力の向上に係る取組の状況 (目標値：前年度比＋5p) ※前年度 小：90.5%、中78.4%、義務：100% ■小：92.1%、中：62.2%、義務：100%
②調査結果を踏まえた取組の状況 (目標値：全小・中学校、義務教育学校100%) ■小：96.8%、中：86.5%、義務：75.0%	②体育・保健体育の授業で、ＩＣＴを使った学習で「できたり、わかったり」する児童生徒の状況 (目標値：全小・中学校、義務教育学校100%) ■小：62.2%、中：75.6%、義務：88.3%	②調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善を行った学校の状況 (目標値：全小・中学校、義務教育学校100%) ■小：88.9%、中：91.9%、義務：100%

4 改善に向けた今後の方向性

(1) 体力向上に向けた授業改善サイクルの確立	(2) 各学校における体育・保健体育授業の改革	(3) 体育エキスパート教員等と連携した、体力向上に係る組織的・協働的な取組の推進
○ 各学年で体力・運動能力向上の目標を具体的に設定し、児童生徒の現状や課題、進捗状況を把握して改善を図るなど組織的な検証改善サイクルを確立させる必要がある。	○ 児童生徒が、授業でできたり分かったりすることができるよう、身に付けさせたい資質・能力を明確にした学習計画を作成するとともに、児童生徒と共有する等の授業改革を推進する必要がある。	○ 体育エキスパート教員等と連携し、児童生徒の運動機会の創出や日常的に運動に親しむための運動環境づくりの工夫など、授業以外の体力向上の取組を推進する必要がある。
○ 各学年が、新体力テスト等の結果を踏まえ、体力向上に向けた取組の工夫・改善を図る必要がある。	○ 児童生徒が、積極的にＩＣＴを活用し、自己変容を実感し、自己肯定感や挑戦心を育むことができるよう、学習内容に応じた活用方法を工夫する必要がある。	○ 各学校が、調査結果を踏まえて、運動・スポーツが苦手な傾向がある児童生徒に向けた取組や技能の程度に応じた取組の充実を図る必要がある。

後志管内の状況

1市13町6村

(小学校数:56校 児童数:1,272人、中学校数:36校 生徒数:1,207人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

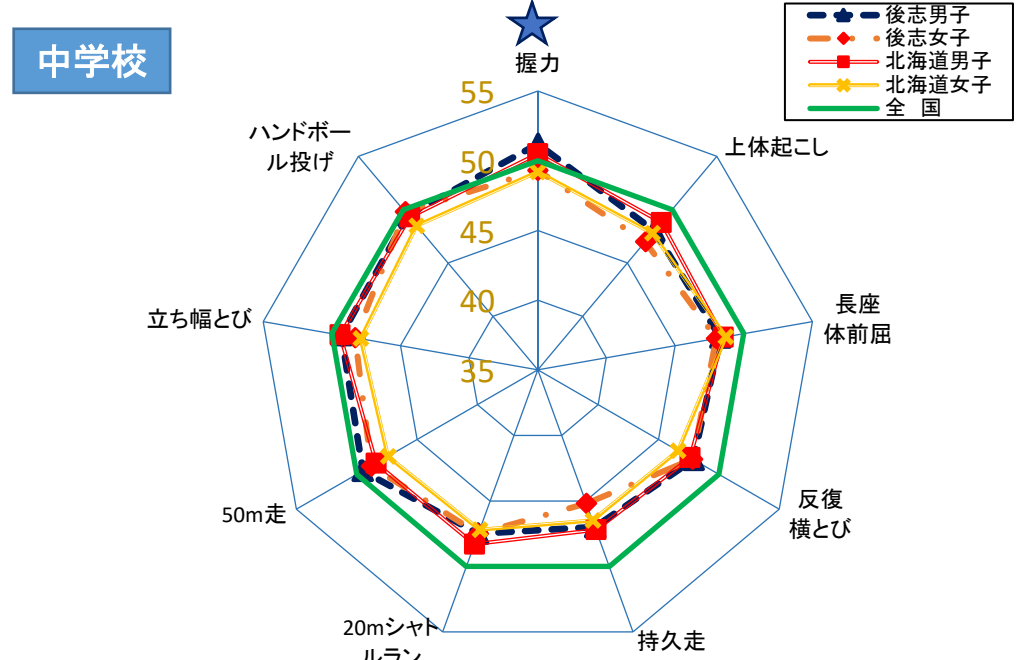
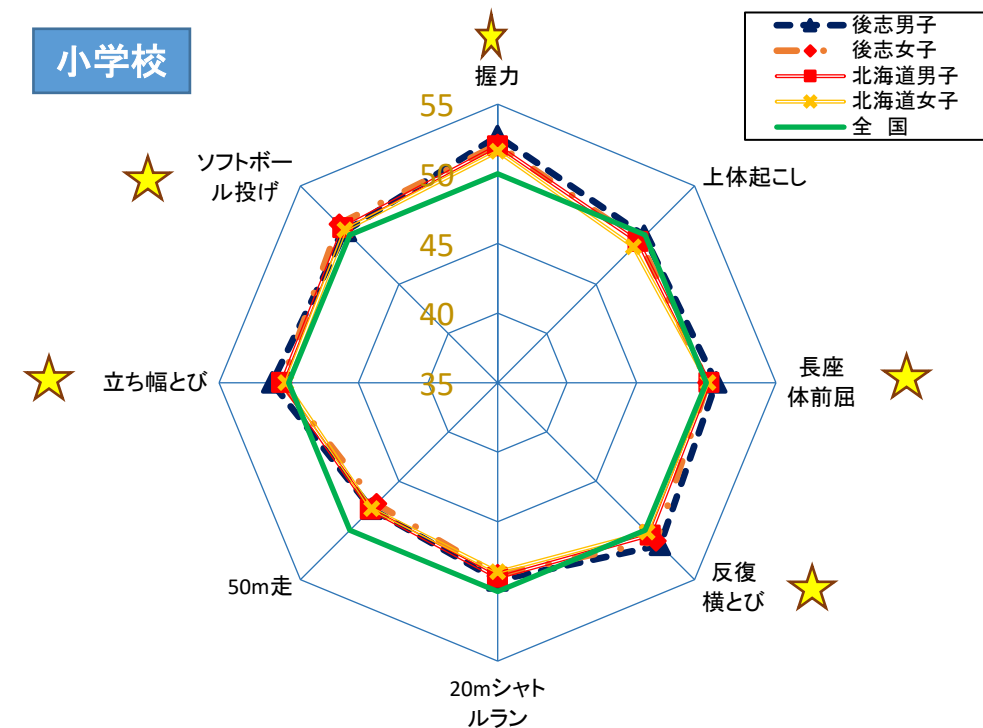
	男子	女子
後志	52.86	53.70
北海道	52.32	53.37
全国	52.53	53.92

○ 中学校

	男子	女子
後志	39.79	44.58
北海道	40.18	43.96
全国	41.86	47.37

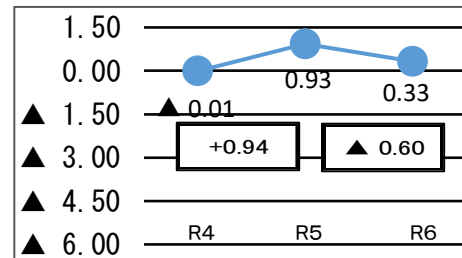
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆は男女ともに全国平均以上の種目 ★は男子のみ全国平均以上の種目 ★は女子のみ全国平均以上の種目

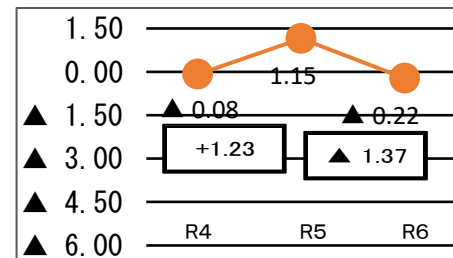


【体力合計点の全国との差とその推移】

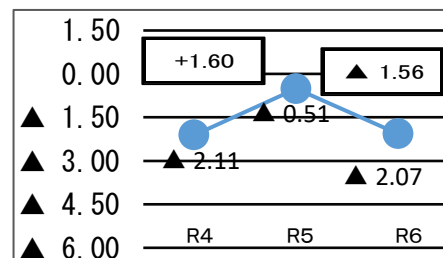
小学校男子



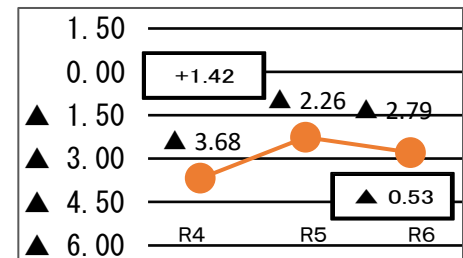
小学校女子



中学校男子



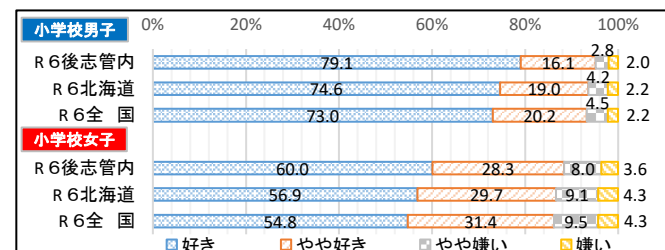
中学校女子



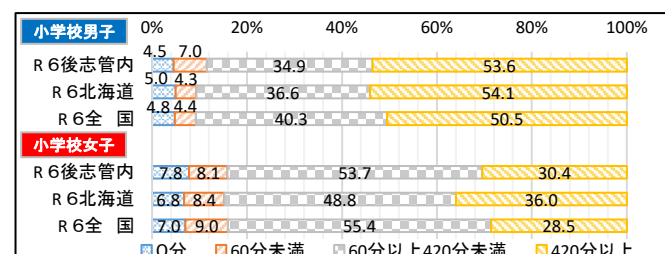
【質問紙調査の状況】

<児童生徒質問紙>

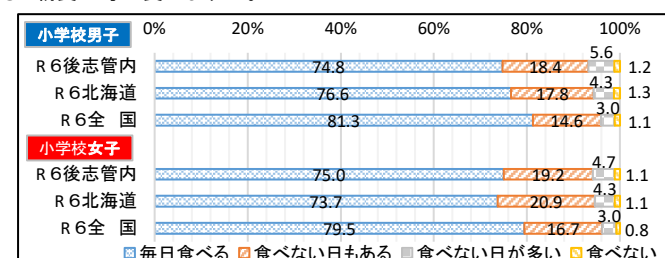
○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



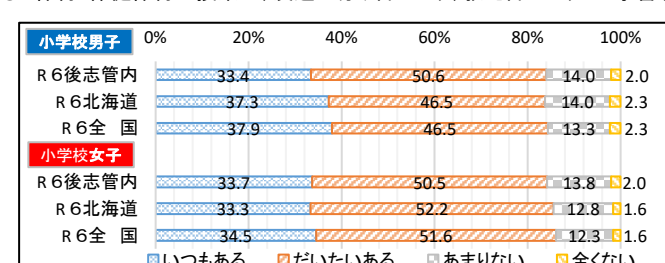
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそどのくらいの時間していますか。



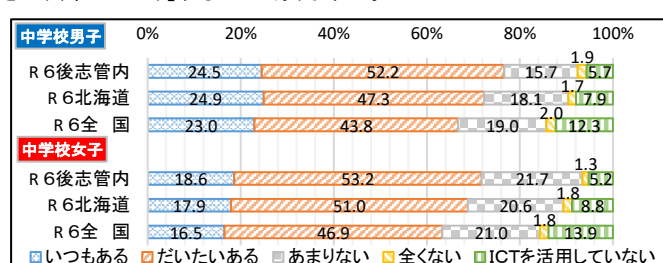
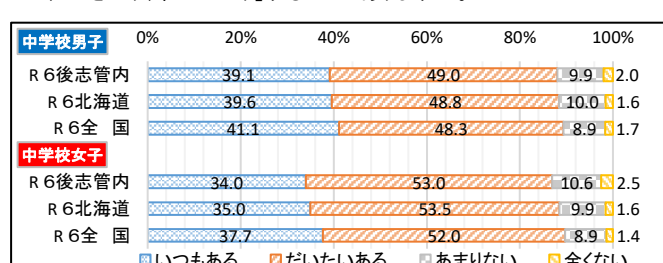
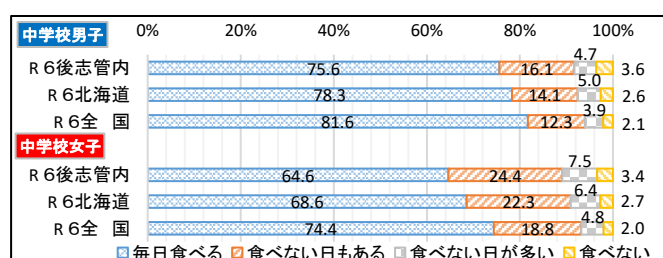
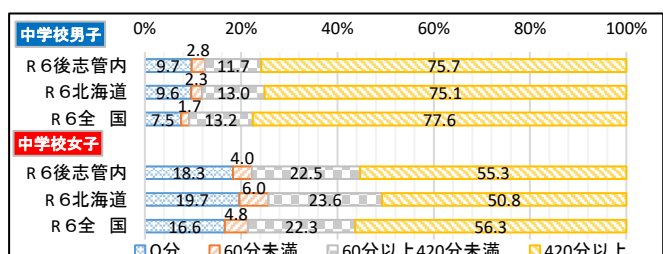
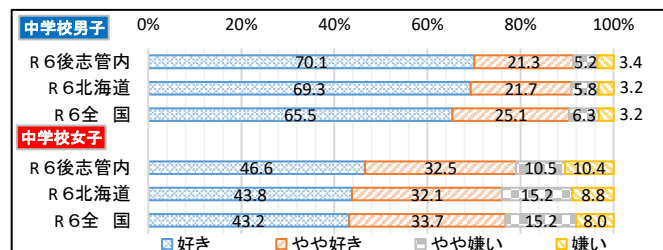
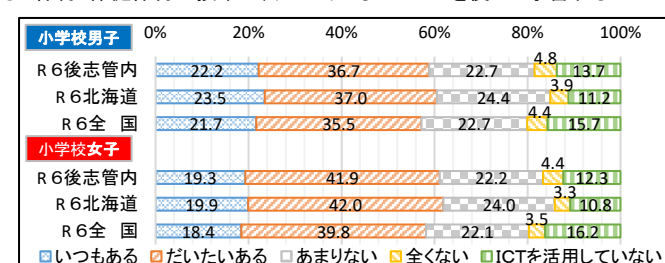
○ 朝食は毎日食べますか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

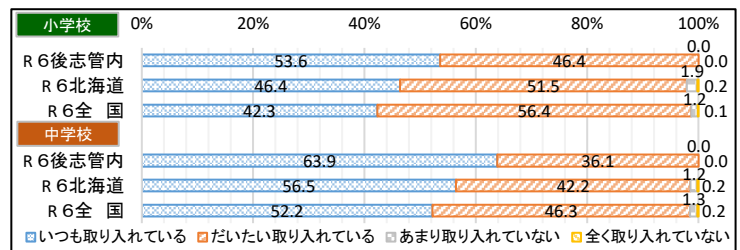


○ 体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

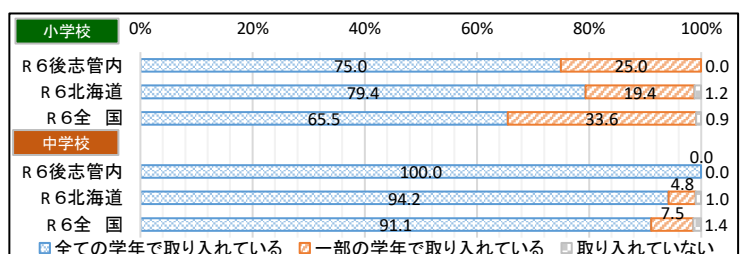


<学校質問紙>

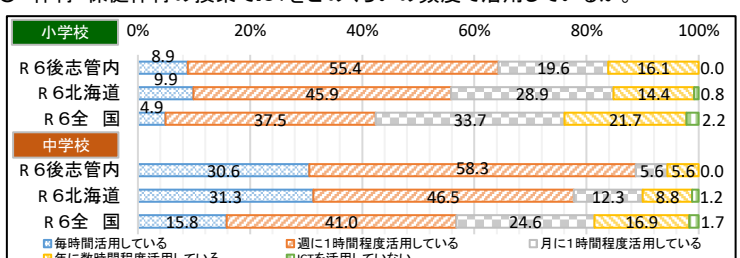
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れていますか。



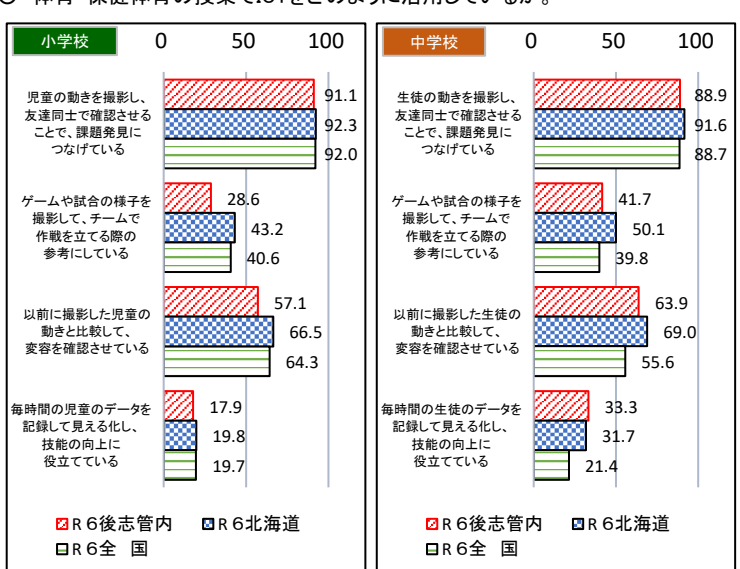
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で話し合う活動を取り入れていますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



実技調査及び質問紙調査の分析					
< 小 学 校 >			< 中 学 校 >		
実技調査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が0.33ポイント高かったが、女子は0.22ポイント低かった。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男女ともに5種目である。		実技調査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が2.07ポイント低く、女子は2.79ポイント低く課題である。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男子が1種目である。	
質問紙調査	○ 体育の授業では、児童同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動をいつも取り入れていると回答した学校の割合は53.6%であり、全国と比べて11.3ポイント高い。 ○ 体育の授業でのICT活用頻度で、週に1時間程度以上活用していると回答した学校の割合は64.3%であり、21.9ポイント高い。 ○ 運動やスポーツをすることが好きという設問において肯定的な回答をした児童の割合が、全国と比べて男子は2.0ポイント、女子は2.1ポイント高い。		質問紙調査	○ 保健体育の授業では、生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動をいつも取り入れていると回答した学校の割合は100%であり、全国と比べて1.5ポイント高い。 ○ 保健体育の授業でのICT活用頻度で、週に1時間程度以上活用していると回答した学校の割合は88.9%であり、32.1ポイント高い。 ○ 運動やスポーツをすることが好きという設問において肯定的な回答をした生徒の割合が、全国と比べて男子は0.8ポイント、女子は2.2ポイント高い。	

後志管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1) 子どもを主語にした授業

■「体育の授業は楽しい」「体育の授業で、進んで学習に参加している」の項目に対して否定的な回答をしている子どもがいる。

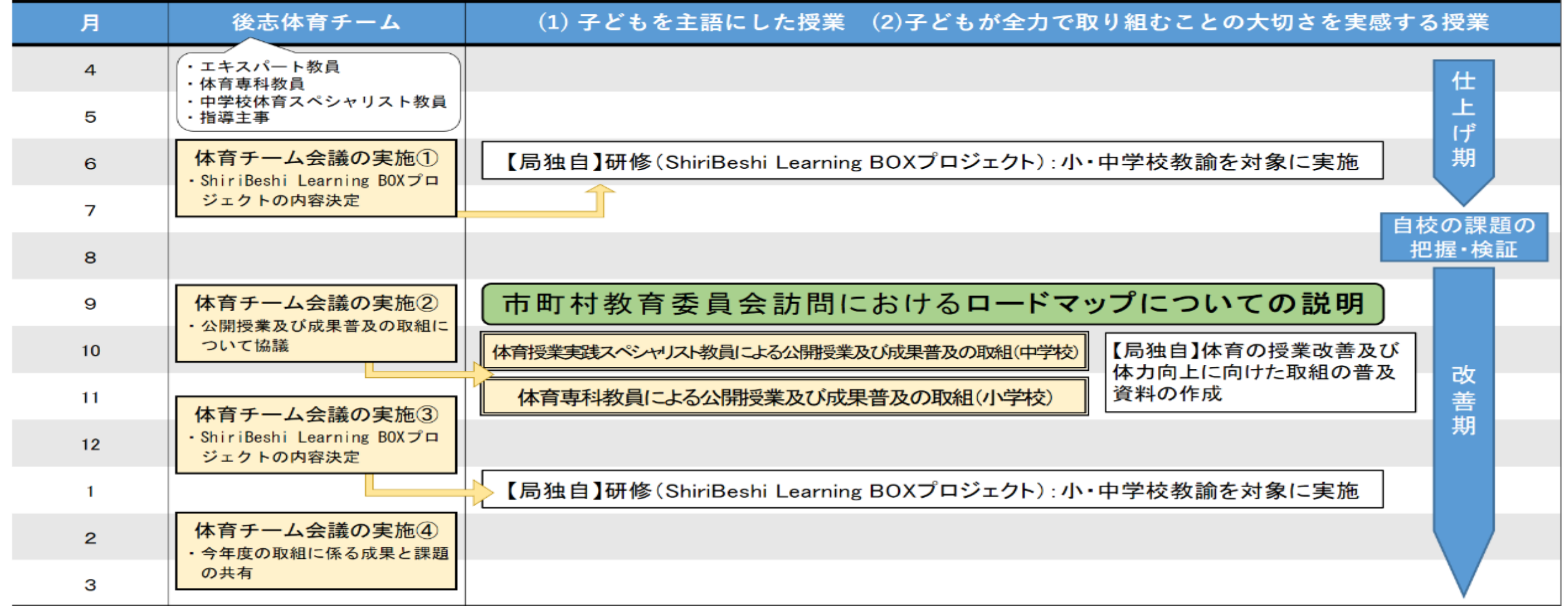
□小学校学習指導要領解説体育編にある「運動が苦手な児童への配慮の例」や中学校学習指導要領解説保健体育編にある「例示」や「行い方の例」などを参考に、「努力を要する」状況と判断される子どもへの支援や運動することの楽しさを実感できるような授業づくりを進める。

(2) 子どもが全力で取り組むことの大切さを実感する授業

■自己目標の設定や自己の成長を実感できる取組に課題がある。

□目標を設定し、意欲的に取り組むとともに、自らの学習活動を振り返り、課題を修正したり、新たに設定したりして、次の学びにつなげることができる授業づくりを進める。

2 具体的な取組



3 取組の評価 ※（ ）は目標値

(1) 子どもを主語にした授業 ①「体育の授業は楽しい」という項目に肯定的回答をしている子ども（目標：小学校100%、中学校100%） ■達成：小学校93.2%、中学校88.7% ②「体育の授業で、進んで学習に参加している」という項目に肯定的回答をしている子ども（目標：小学校100%、中学校100%） ■達成：小学校93.2%、中学校90.6%	(2) 子どもが全力で取り組むことの大切さを実感する授業 ①「体育の授業で、目標を意識した学習で『できたり、わかったり』すること」という項目に肯定的回答をしている子ども（目標：小学校100%、中学校100%） ■達成：小学校83.4%、中学校86.3% ②「体育の授業の最後に、振り返りをする事で『できたり、わかったり』すること」という項目に肯定的回答をしている子ども（目標：小学校100%、中学校100%） ■達成：小学校80.3%、中学校81.5%
---	--

4 改善に向けた今後の方向性

(1) 子どもを主語にした授業 ○ 「努力を要する」状況と判断される子どもへの支援や運動することの楽しさを実感できるような授業づくりができるよう、学習指導要領解説で示されている内容の確認等、学校教育指導等で指導助言する。 ○ 局独自研修（ShiriBeshi Learning BOX）等を通し、主運動につながる準備運動や、その運動を行う目的の共有など、子どもが主体的に取り組むたくなるような授業づくりについて情報提供を行う。	(2) 子どもが全力で取り組むことの大切さを実感する授業 ○ 小学校第1学年から中学校第3学年までの新体力テストの結果をキャリア・パスポートに蓄積したり、道教委の分析ツールを活用したりするなど、子どもが自己の変容を実感できる取組の充実を図ることができるよう、学校教育指導等で指導助言する。 ○ 体育エキスパート教員、体育専科教員、中学校体育授業実践スペシャリスト教員等を講師とした局独自研修（ShiriBeshi Learning BOX）等を通し、子どもが課題を設定し、自らの学習活動を振り返るなど学習過程が充実するための工夫を紹介し、授業改善につなげる。
---	---

胆振管内の状況

4市7町

(小学校数:63校 児童数:2,665人、中学校数:43校 生徒数:2,541人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

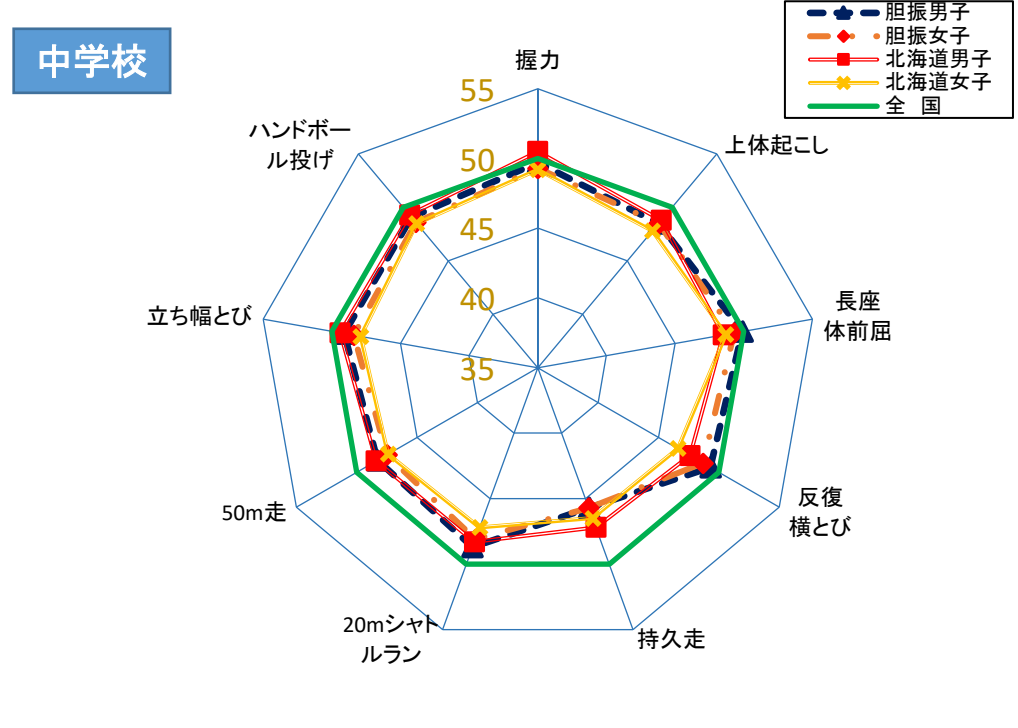
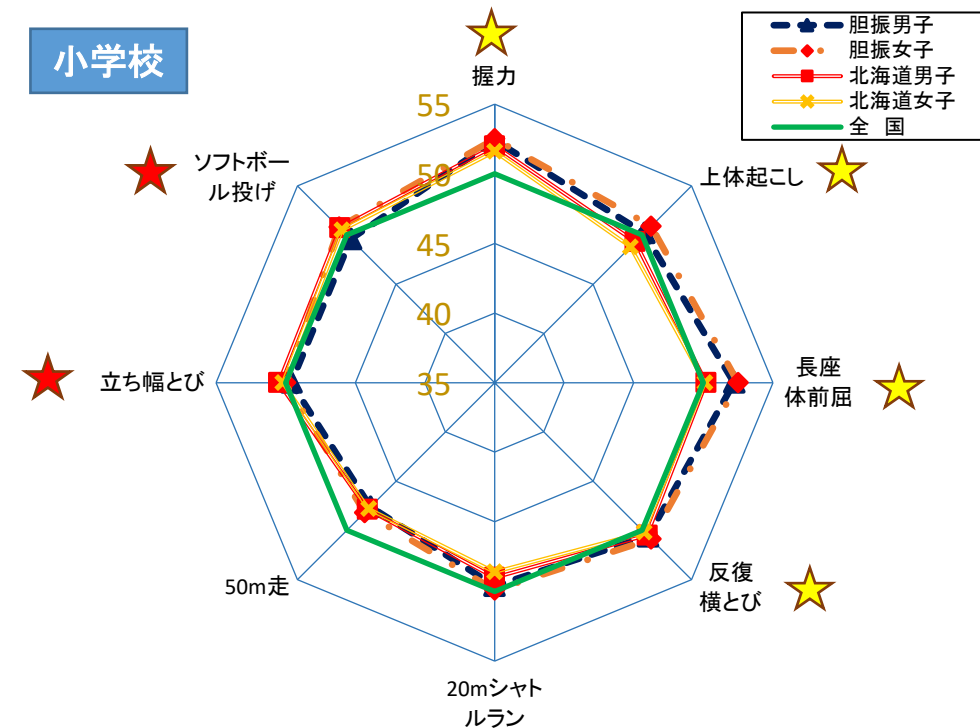
	男子	女子
胆 振	52.69	54.79
北海道	52.32	53.37
全 国	52.53	53.92

○ 中学校

	男子	女子
胆 振	40.10	44.58
北海道	40.18	43.96
全 国	41.86	47.37

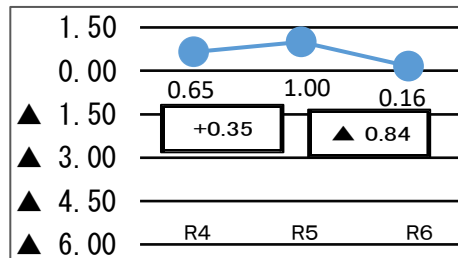
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ★ は男子のみ全国平均以上の種目 ★ は女子のみ全国平均以上の種目

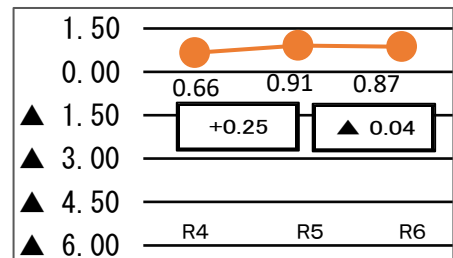


【体力合計点の全国との差とその推移】

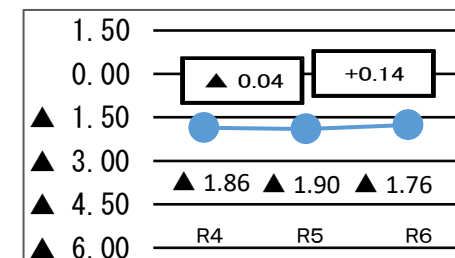
小学校男子



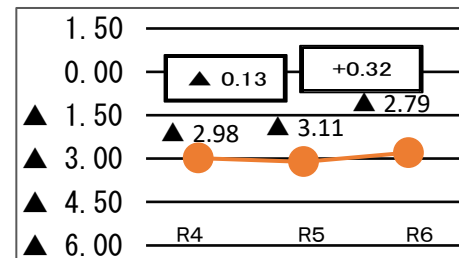
小学校女子



中学校男子



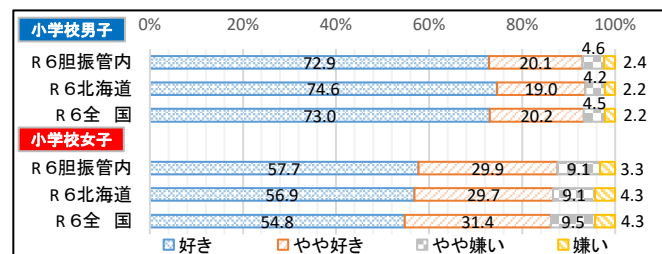
中学校女子



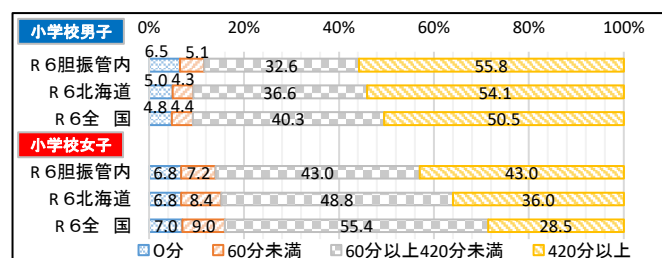
【質問紙調査の状況】

<児童生徒質問紙>

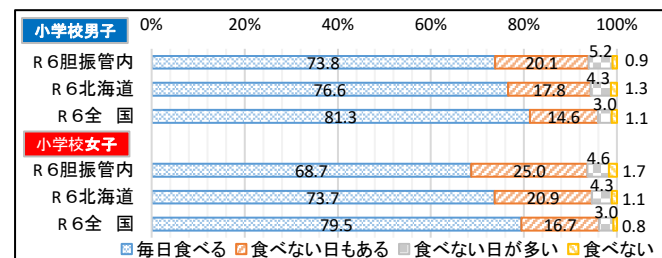
○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



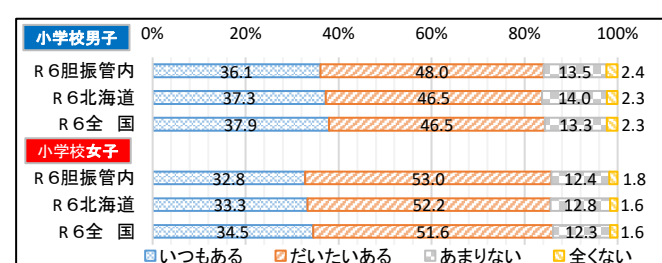
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそどのくらいの時間していますか。



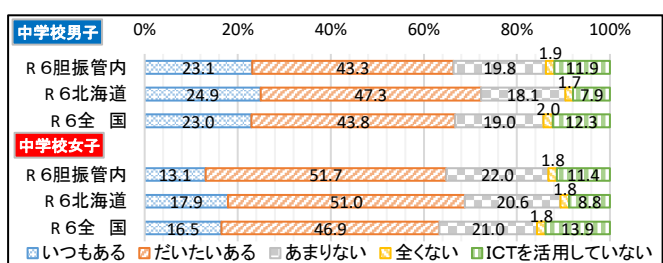
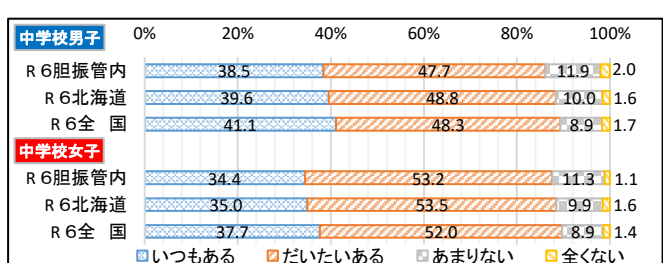
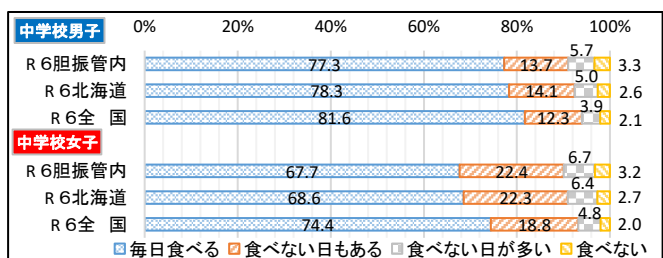
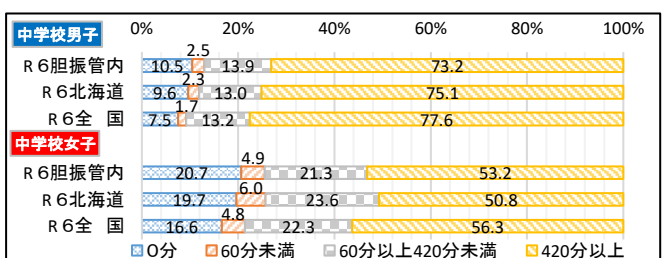
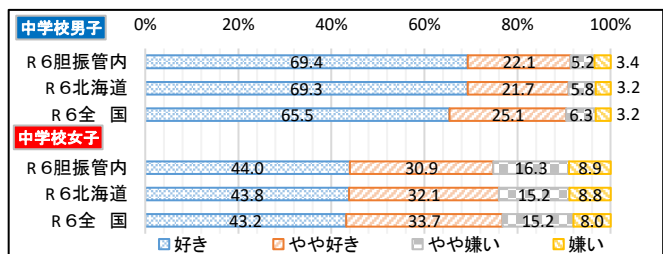
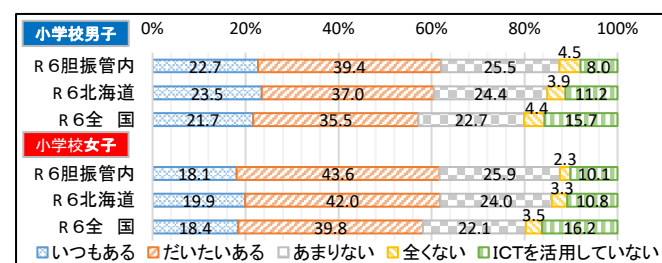
○ 朝食は毎日食べますか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

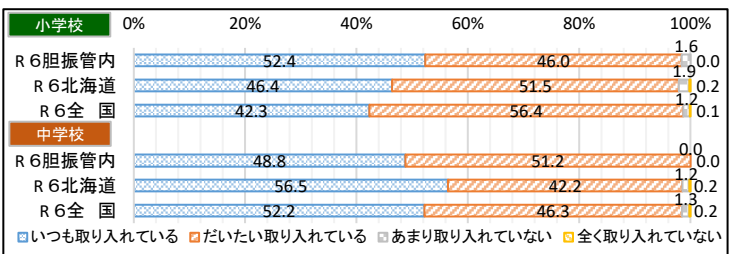


○ 体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

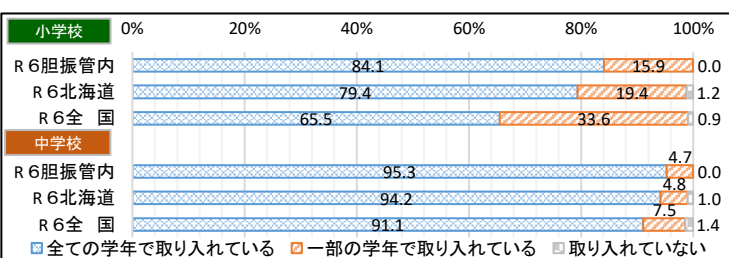


<学校質問紙>

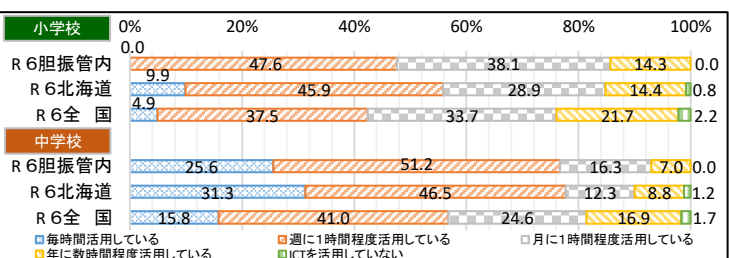
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れていますか。



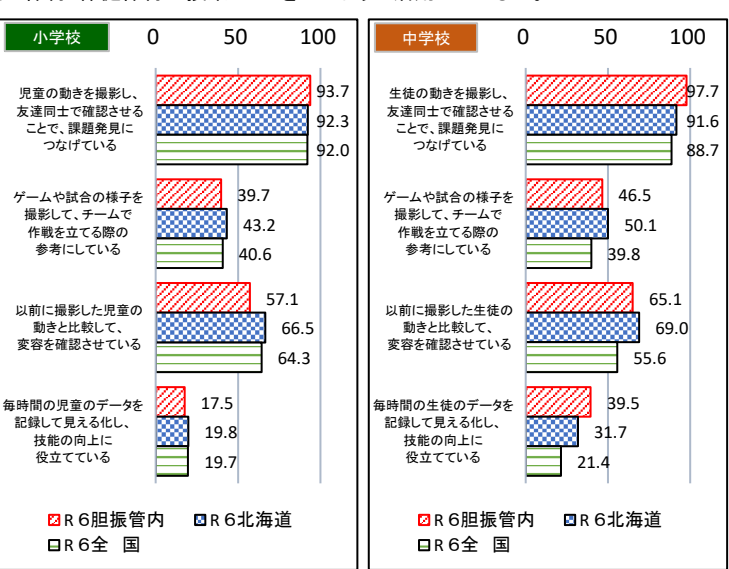
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で話し合う活動を取り入れていますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



実技調査及び質問紙調査の分析			
＜ 小 学 校 ＞		＜ 中 学 校 ＞	
実技調査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が0.16ポイント、女子が0.87ポイント高い。 ○ 種目別で全国以上だったのは、男子が4種目、女子が6種目である。 ○ 体力合計点は、男女ともに継続して全国を上回っている。	実技調査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が1.76ポイント、女子が2.79ポイント低く、課題である。 ○ 種目別では、男女ともに全種目で全国を下回っている。 ○ 体力合計点の全国との差は、昨年度と比較して、男子が0.14ポイント、女子が0.32ポイント縮まった。
質問紙調査	○ 運動やスポーツをすることは好きと回答した児童の割合は、全国と比較して、男子が0.1ポイント低く、女子が2.9ポイント高い。 ○ 体育の授業では、児童同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動をいつも取り入れていると回答した学校の割合は、全国と比較して10.1ポイント上回っているが、体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがいつもあると回答した児童の割合は、全国と比較して、男子が1.8ポイント、女子が1.7ポイント低く、課題である。	質問紙調査	○ 運動やスポーツをすることは好きと回答した生徒の割合は、全国と比較して、男子が3.9ポイント、女子が0.8ポイント高い。 ○ 保健体育の授業でICTを毎時間活用していると回答した学校の割合は、全国と比較して9.8ポイント上回っているが、保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがいつもあると回答した生徒の割合は、全国と比較して、男子は全国と同程度、女子は3.4ポイント低く、課題である。

胆振管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1)A 子どもが自己調整しながら学びを進め、自立した学習者となるための指導方法の確立・共有・活用 ■自己調整力の育成に向けた、教師による指導の工夫・方法を確立し、校内で蓄積・共有し、子どもの状況に応じて応用・発展させながら活用し、更にそれを共有・活用していくことが必要 □育成する資質・能力を明確にした指導とICT環境を適切に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実 □体育専科教員、体育エキスパート教員、スペシャリスト（中学校）による管内への授業実践の紹介及び好事例の普及
(2)B 運動やスポーツに意欲的に取り組む態度の醸成 ■子どもたちが学校はもとより、家庭や地域において、自ら運動・スポーツに取り組んでいこうとする気持ちを高め、取り組んでいく習慣を確立することが必要 □体育・保健体育の授業改善及び新体力テストの活用による自己の体力の現状を踏まえた体力向上の目標設定の推進と運動機会の確保の充実 □体育専科教員、体育エキスパート教員、スペシャリスト（中学校）による管内への授業実践の紹介及び好事例の普及

2 具体的な取組

月	(1)A 子どもが自己調整しながら学びを進め、自立した学習者となるための指導方法の確立・共有・活用	(2)B 運動やスポーツに意欲的に取り組む態度の醸成
4		
5	小学校体力向上等推進 重点校訪問指導	
6	学校訪問における授業改善及びICTの効果的な活用に係る指導助言	学校訪問における新体力テスト等の調査結果を活用した体力向上に向けた取組に係る指導助言及び好事例の収集
7		
8		
9		
10		
11	小学校体力向上等推進 重点校訪問指導	
12	中学校授業実践・改善セミナー	
1	○ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査等の調査結果を活用した、成果と課題の把握・検証 ○ 次年度の管内教育推進の重点の検討	
2		
3		

3 取組の評価 ※（ ）は目標値

(1)A 子どもが自己調整しながら学びを進め、自立した学習者となるための指導方法の確立・共有・活用 ①児童生徒が自己調整しながら学びを進め、自立した学習者となるための指導方法の確立・共有・活用（各学校の自己評価） （小学校90％、中学校95％） ■小学校99％、中学校95％ ②「胆振みんなでICT(令和6年3月)」を活用した校内研修や、ケースを参考にした日常実践（各学校の自己評価） （全小・中学校100％） ■小学校92％、中学校88％	(2)B 運動やスポーツに意欲的に取り組む態度の醸成 ①新体力テスト等の調査結果を活用した、現状分析に基づく明確な体力向上の目標設定と目標達成に向けた具体的な方策の設定 （各学校の自己評価） （全小・中学校100％） ■小学校100％、中学校95％ ②児童生徒が個人の目標を立てたり、振り返ったりして、自己の体力の状況を客観的に把握し、運動への意欲の向上につなげる取組 （各学校の自己評価） （全小・中学校100％） ■全小・中学校100％
---	---

4 改善に向けた今後の方向性

(1)A 子どもが自己調整しながら学びを進め、自立した学習者となるための指導方法の確立・共有・活用 ○ 子どもが学びを自己調整し、自分自身でマネジメントしながら学習を進めていくために、育成する資質・能力を明確にし、授業において全てを子どもに委ねるということではなく、時には積極的に指導性を発揮する場面も大切にするよう学校教育指導訪問等において指導助言する。 ○ 研修会等において、スペシャリスト等の実践を基に、参加者が自身の実践を振り返り、改善を図るための協議を位置付ける。	(2)B 運動やスポーツに意欲的に取り組む態度の醸成 ○ 児童生徒が自己の能力や適性、興味・関心等の体力の現状を踏まえ、体力向上に向けた目標を立て、運動・スポーツに取り組んだり、仲間等と気軽に楽しく運動に参加したりすることができるようにするために、体育・保健体育の授業改善に加え、授業以外での取組の充実を図るよう学校教育指導訪問等において指導助言する。 ○ 体育専科教員及び体育エキスパート教員等の学校における組織的な体力向上に向けた取組の好事例を学校教育指導訪問等において普及する。
--	---

日 高 管 内 の 状 況

7町

(小学校数:22校 児童数:404人、中学校数:15校 生徒数:362人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

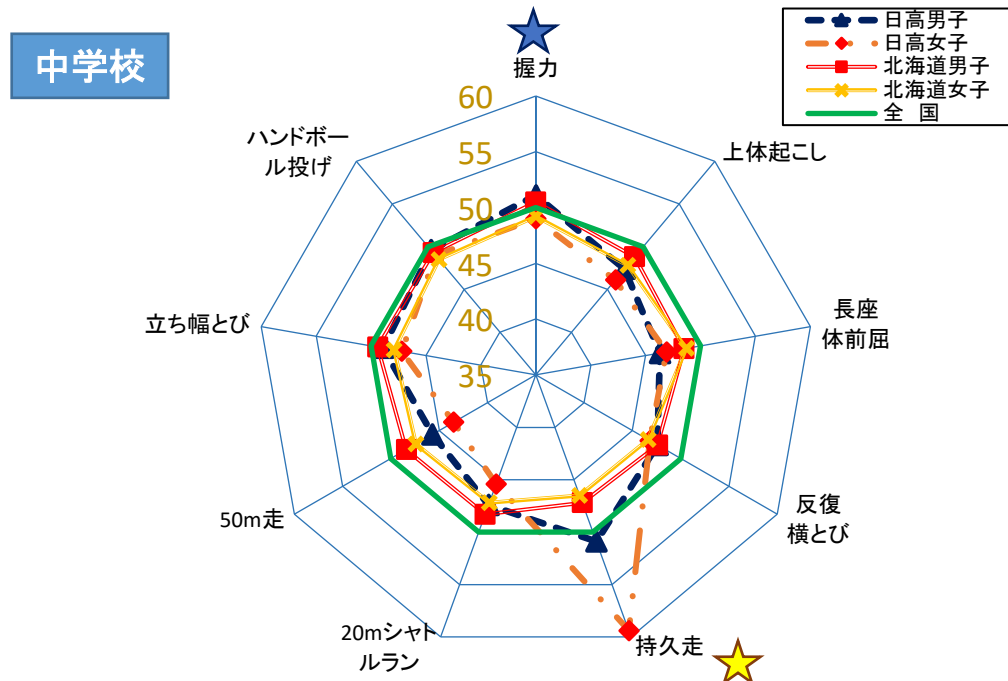
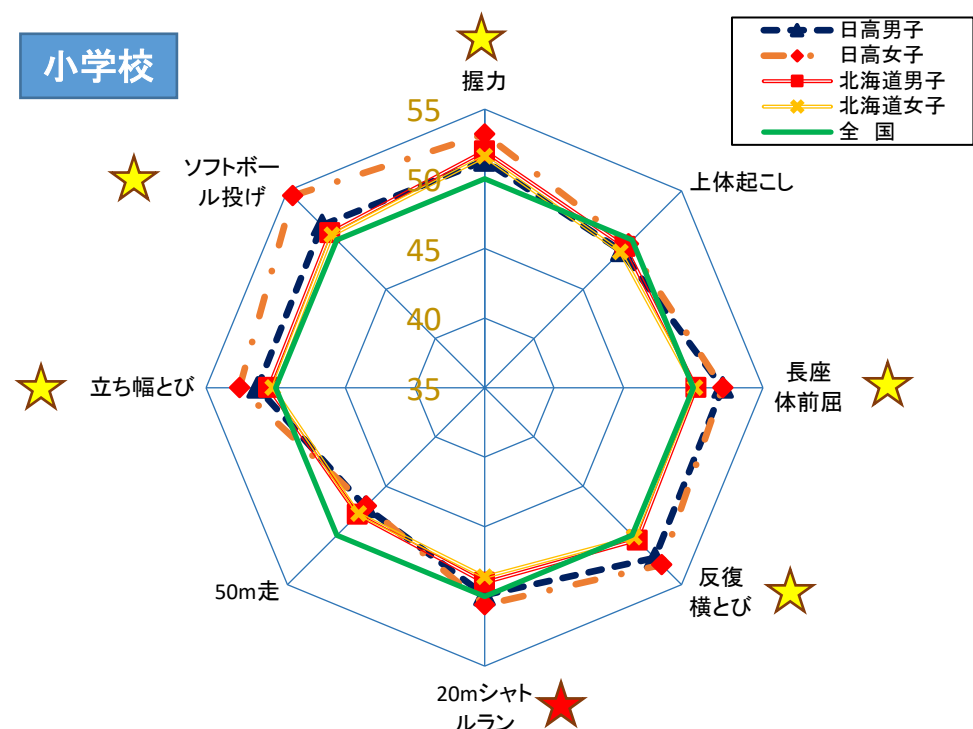
	男 子	女 子
日 高	53.08	55.81
北海道	52.32	53.37
全 国	52.53	53.92

○ 中学校

	男 子	女 子
日 高	38.77	43.09
北海道	40.18	43.96
全 国	41.86	47.37

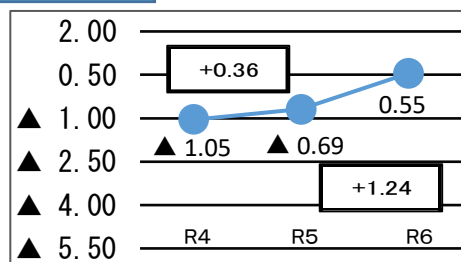
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ★ は男子のみ全国平均以上の種目 ★ は女子のみ全国平均以上の種目

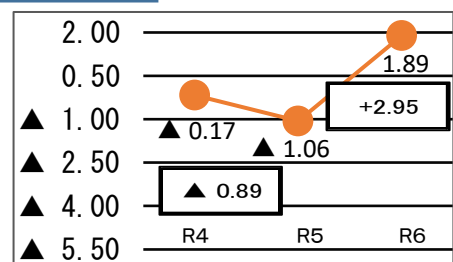


【体力合計点の全国との差とその推移】

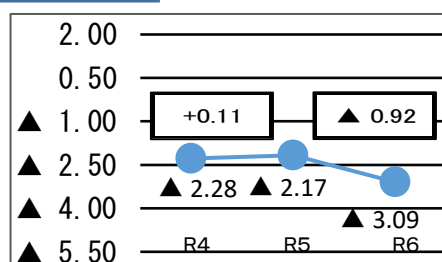
小学校男子



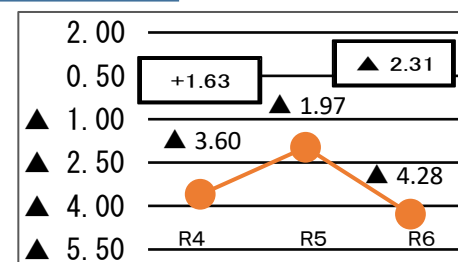
小学校女



中学校男子



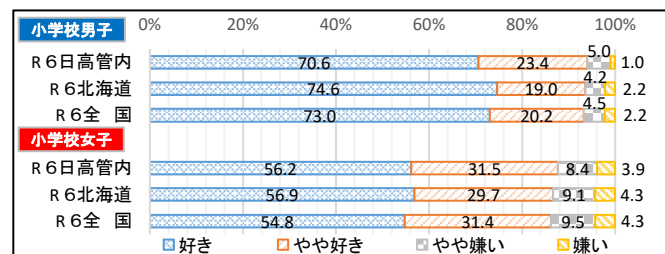
中学校女子



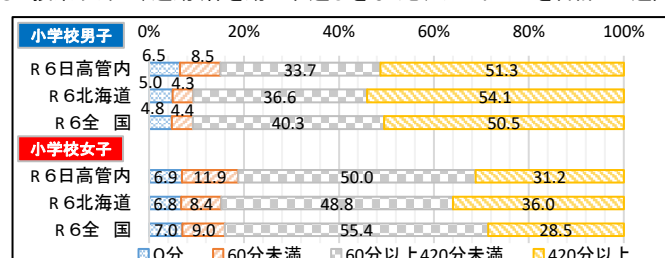
【質問紙調査の状況】

<児童生徒質問紙>

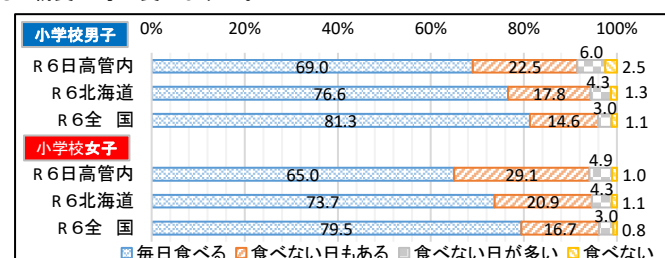
○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



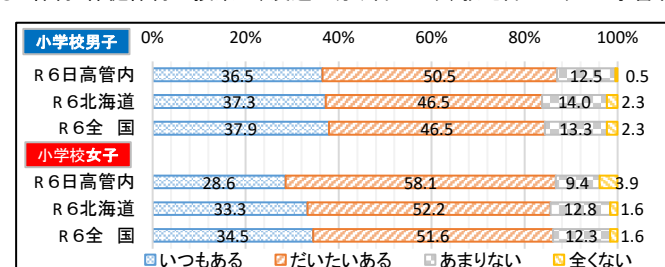
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそどのくらいの時間していますか。



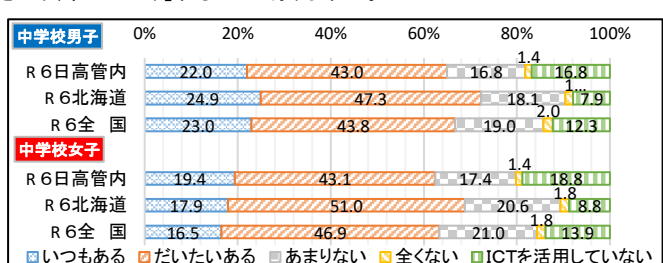
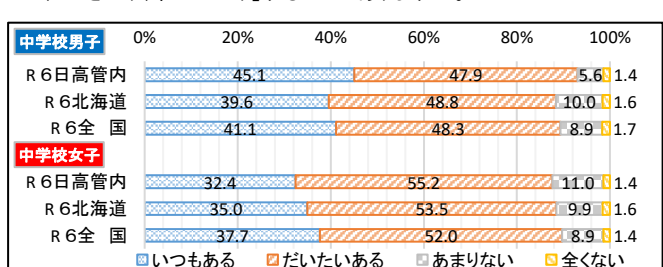
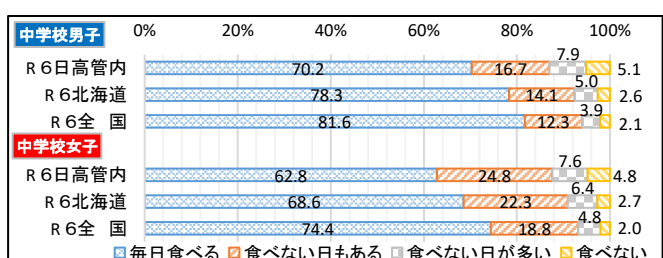
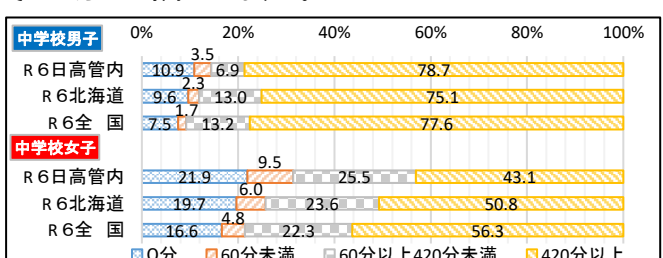
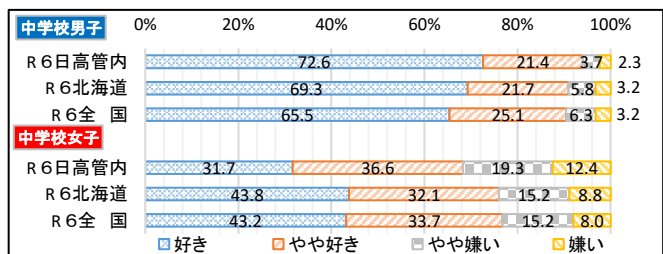
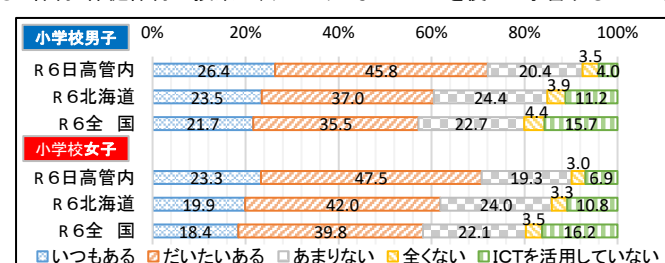
○ 朝食は毎日食べますか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

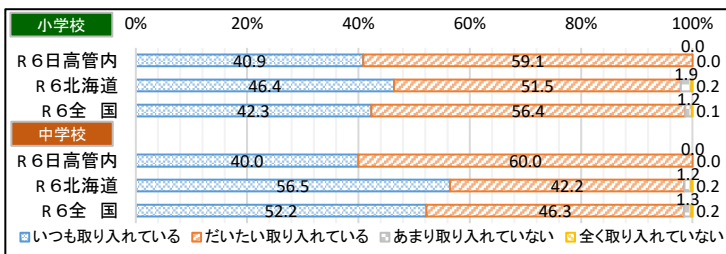


○ 体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

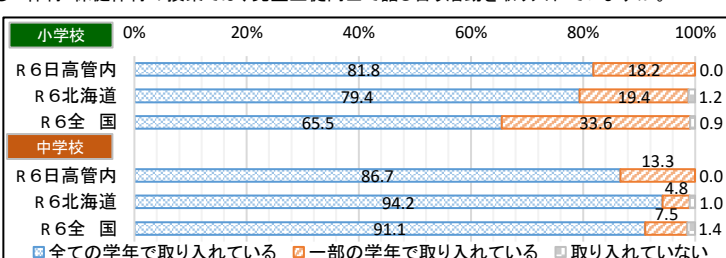


<学校質問紙>

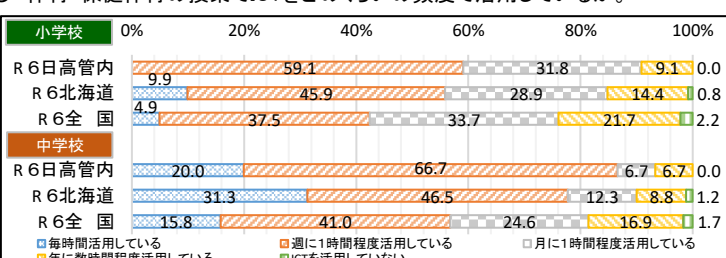
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れていますか。



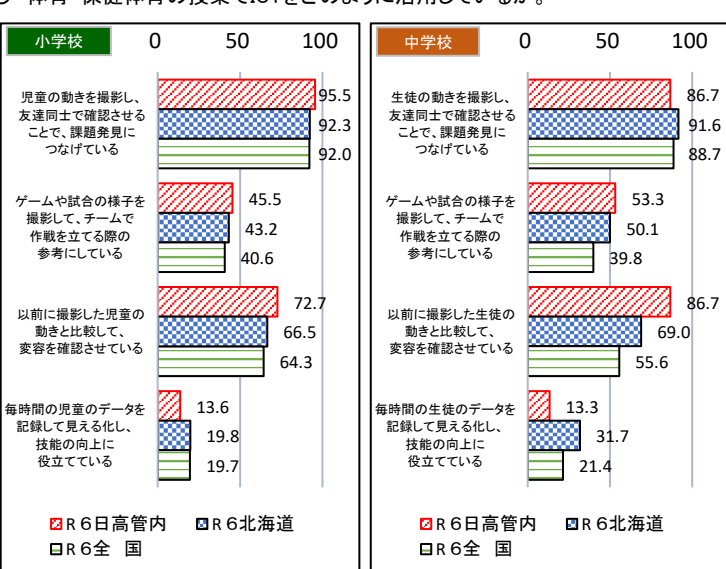
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で話し合う活動を取り入れていますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



実技調査及び質問紙調査の分析

＜ 小 学 校 ＞		＜ 中 学 校 ＞	
実技調査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が0.55ポイント、女子が1.89ポイント上回っている。 ○ 体力合計点は、昨年度と比較して、男子1.24がポイント、女子が2.95ポイント、増加した。 ○ 種目別に全国平均を上回ったのは、男子が5種目、女子が6種目である。	実技調査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が3.09ポイント、女子が4.28ポイント低く、課題である。 ○ 体力合計点は、昨年度と比較して、男子0.92がポイント、女子が2.31ポイント、減少した。 ○ 種目別に全国平均を上回ったのは、男子が2種目、女子が1種目である。
質問紙調査	○ 体育の授業で児童同士で話し合う活動を全ての学年で取り入れていると回答した学校の割合は、全国に比べて16.3ポイント高い。 ○ 体育の授業で、ICTを使った学習で「できたり、わかったりする」ことがいつもであると回答した児童の割合は、全国と比較て、男子は4.7ポイント、女子は4.9ポイント高い。 ○ 体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりする学習で、「できたり、わかったりする」ことがいつもであると回答した児童の割合は、全国と比較して、男子は1.4ポイント、女子は5.9ポイント低く、課題である。	質問紙調査	○ 保健体育の授業でICTを「以前に撮影した生徒の動きと比較して、変容を確認させている」と回答した学校の割合は、全国と比較して、31.1ポイント高い。 ○ 保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりする学習で、「できたり、わかったりする」ことがいつもであると回答した生徒の割合は、全国と比較して、男子は4ポイント高く、女子は5.3ポイント低い。 ○ 保健体育の授業で、ICTを使った学習で「できたり、わかったりする」ことがいつもであると回答した生徒の割合は、全国と比較て、男子は1ポイント低く、女子は2.9ポイント高い。

日高管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1)A 指導と評価の一体化による授業改善
■目標を意識した学習でできたり、わかったりすることがいつもであると回答をした児童生徒の割合に課題が見られることから、目標と評価規準を明確にし、児童生徒に提示するなど授業改善を図る必要がある。 □小学校体育エキスパート教員等が開催する研修会で、指導と評価の一体化について指導助言 □学校教育指導訪問で小学校体育エキスパート教員等による好事例の周知及び体育科・保健体育科の授業改善に係る研修会への参加促進
(2)B 教科の学びの本質に迫るためのICT活用の推進
■体育の授業でICTを使った学習でできたり、わかったりすることがあると回答をした児童生徒の割合に課題が見られることから、ICTを活用した授業改善を図る必要がある。 □体力向上に係る授業実践とICT機器の効果的な活用を組み合わせた「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業改善の取組の推進
(3)C 家庭・地域と連携した望ましい生活習慣の確立
■一週間の総運動時間が60分以下であると回答した児童生徒の割合に課題が見られることから、家庭・地域と連携した体力向上に向けた取組について共通理解を図る必要がある。 □体力向上を含めた望ましい生活習慣の確立について指導助言 □関係課等と連携した児童生徒及び保護者等への体力向上に向けた指導助言及び取組の把握

2 具体的な取組

月	(1)A 指導と評価の一体化による授業改善	(2)B 教科の学びの本質に迫るためのICT活用の推進	(3)C 家庭・地域と連携した望ましい生活習慣の確立
4	小学校体育エキスパート教員・中学校体育授業改善推進教員との連携 主体的、対話的で深い学びの実現に向けた教育局指導主事による指導助言（通年）		
5	・学校経営指導における指導と評価の一元に係る指導資料に基づいた指導助言 ・学校教育指導（1次訪問）における体力向上の取組の現状分析に基づく、数値目標の設定について指導助言	・学校教育指導（1次訪問）及び町教育委員会主催の研修会等における体育科・保健体育科の授業でのICT機器の効果的な活用について指導助言	・学校教育指導（1次訪問）等における家庭・地域と連携した望ましい生活習慣・運動習慣の確立について指導助言
6	第1回北海道体力向上推進会議		
7	小学校体育エキスパート教員、中学校体力向上推進教員による体力向上に係る取組事例の普及		
8	・学校教育指導（2次訪問）における体力向上の取組の現状分析に基づく、数値目標の設定及び指導資料に基づいた、指導助言	・学校教育指導（2次訪問）における体育・保健体育科の授業でのICT機器の効果的な活用について指導助言	・学校教育指導（2次訪問）等における家庭・地域と連携した望ましい生活習慣・運動習慣の確立について指導助言
9			
10	第2回北海道体力向上推進会議		
11	小学校体育エキスパート教員による授業公開、研修会の実施、中学校体育授業改善推進教員による中学校授業実践セミナー開催		
12			
1	日高管内教育推進の重点に基づく、体力向上に係る取組の評価		
2	第3回北海道体力向上推進会議		
3			

3 取組の評価

(1)A 指導と評価の一体化による授業改善	(2)B 教科の学びの本質に迫るためのICT活用の推進	(3)C 家庭・地域と連携した望ましい生活習慣の確立
①指導と評価の一体化による授業改善について学校全体で組織的に進めることができたと回答した学校の割合（管内教育推進の重点） □現 状…小29.2% 中13.3% □目 標…小50% 中40% ■達成値…小45.4% 中33.3% ②研修会に参加した教員が、自校へ研修内容をよく還元していると回答した割合（全国体力・運動能力、運動習慣等調査） □現 状…小8.3% 中20% □目 標…小30% 中50% ■達成値…小13.6% 中20%	○ 体育科・保健体育科の授業において、ICTを日常的に活用している学校の割合（全国体力・運動能力、運動習慣等調査学校質問紙結果） □現 状…小50% 中73.3% □目 標…小65% 中80% ■達成値…小59.1% 中86.7%	①体育の授業以外の一週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合（全国体力・運動能力、運動習慣等調査児童・生徒質問紙結果） □現 状…小19.7% 中20% □目 標…小15% 中15% ■達成値…小16.9% 中21.2% ②家庭に対して運動やスポーツの行事への参加を促した割合（全国体力・運動能力、運動習慣等調査学校質問紙結果） □現 状…小29.2% 中0% □目 標…小50% 中30% ■達成値…小45.5% 中61.5%

4 改善に向けた今後の方向性

(1) A 指導と評価の一体化による授業改善	(2) B 教科の学びの本質に迫るためのICT活用の推進	(3) C 家庭・地域と連携した望ましい生活習慣の確立
○ 指導と評価の一体化による授業改善について組織的に進めることができたと回答した学校の割合は増加したが、目標を意識した学習で「できたりわかったりする」と回答した児童生徒の割合に課題があるため、学校教育指導訪問や、エキスパート教員の巡回及び訪問指導等で、児童生徒と目標を共有した授業改善を図るよう指導助言する必要がある。	○ 体育科・保健体育科の授業において、ICTを日常的に活用している学校の割合は増加しているが、児童生徒の「わかった」「できた」につながる活用となっていないことから、学校教育指導訪問等でICTを効果的に活用した授業改善を図るよう指導助言する必要がある。	○ 体育の授業以外の運動習慣が確立されていないことから、社会教育主事と連携し、望ましい生活習慣や運動習慣の確立のための情報提供を行うとともに、体育エキスパート教員の訪問指導等を活用し、日常的な体力向上の取組について好事例の提供を行うなど、学校や地域に応じて指導助言する必要がある。

渡島管内の状況

2市9町

(小学校数:76校 児童数:2,323人、中学校数:40校 生徒数:2,134人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

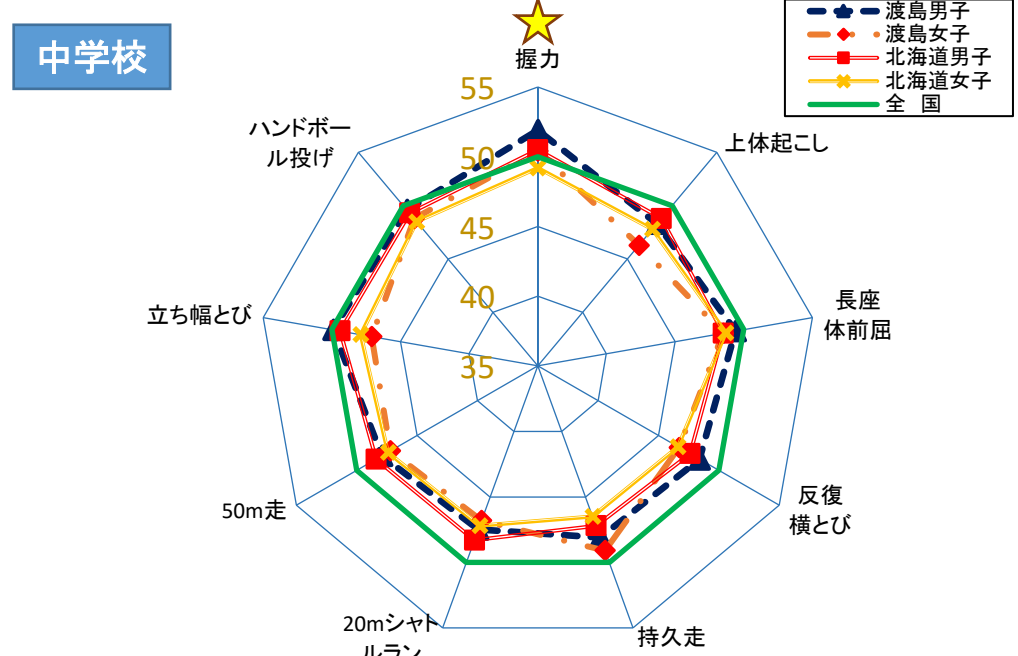
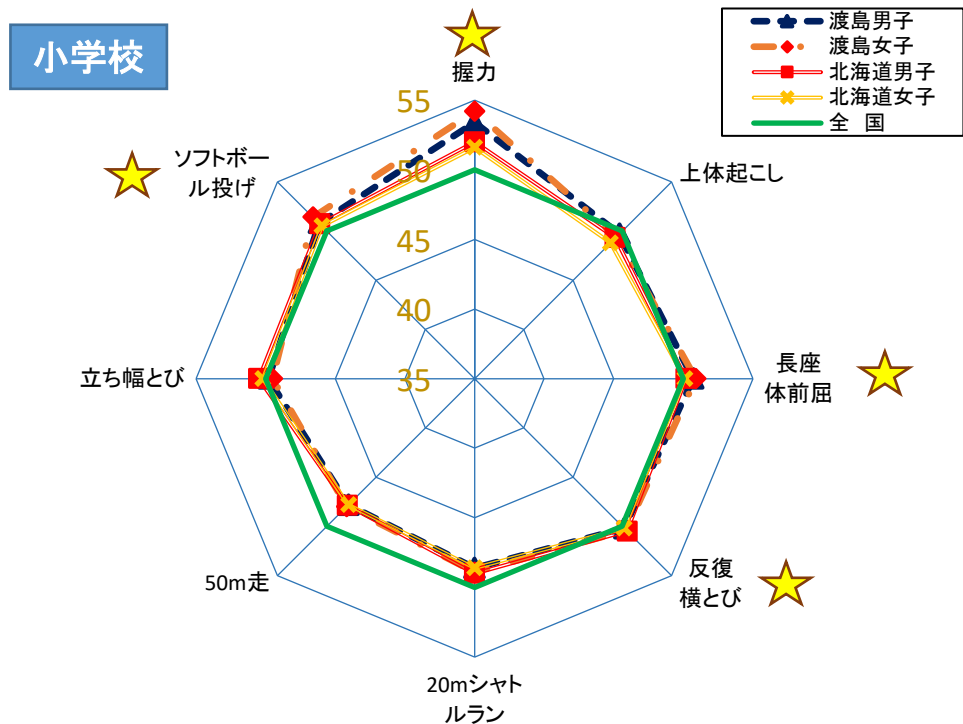
	男子	女子
渡島	52.46	54.07
北海道	52.32	53.37
全国	52.53	53.92

○ 中学校

	男子	女子
渡島	40.16	43.60
北海道	40.18	43.96
全国	41.86	47.37

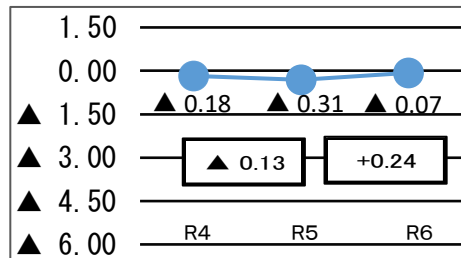
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ★ は男子のみ全国平均以上の種目 ★ は女子のみ全国平均以上の種目

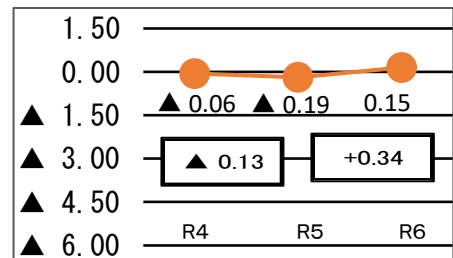


【体力合計点の全国との差とその推移】

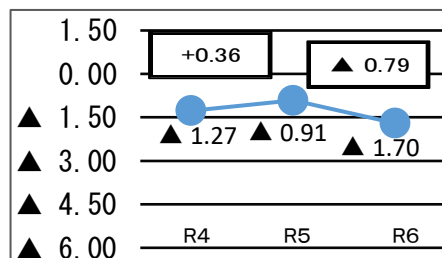
小学校男子



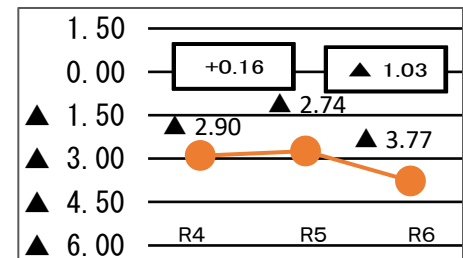
小学校女子



中学校男子



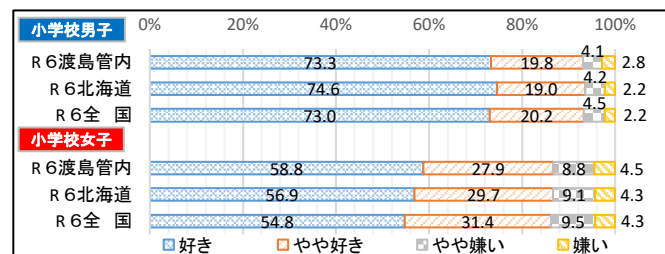
中学校女子



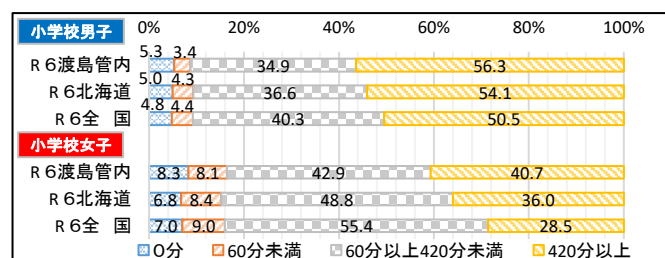
【質問紙調査の状況】

<児童生徒質問紙>

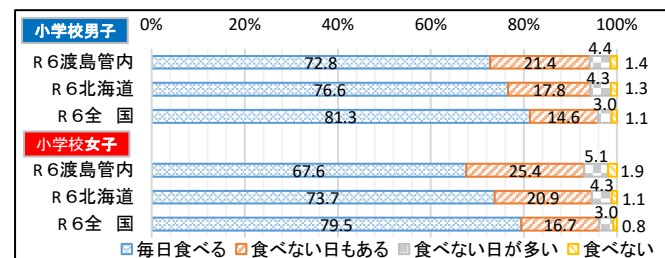
○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



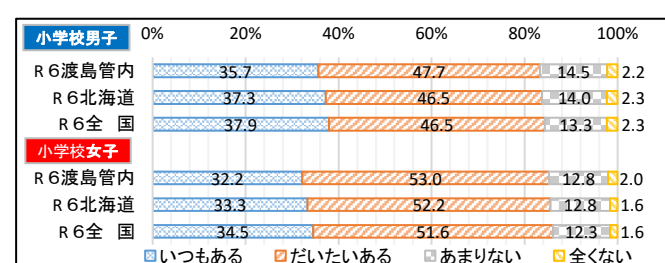
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそどのくらいの時間していますか。



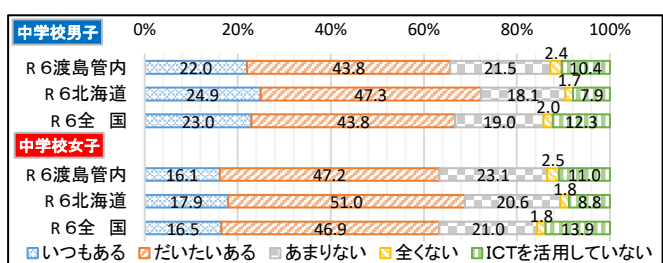
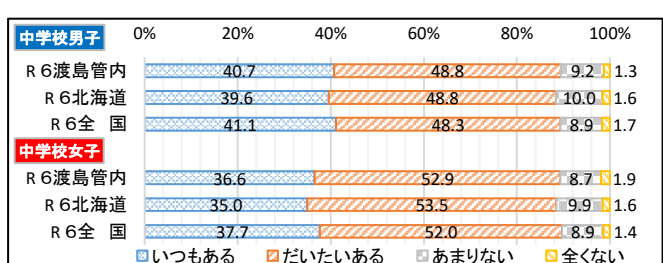
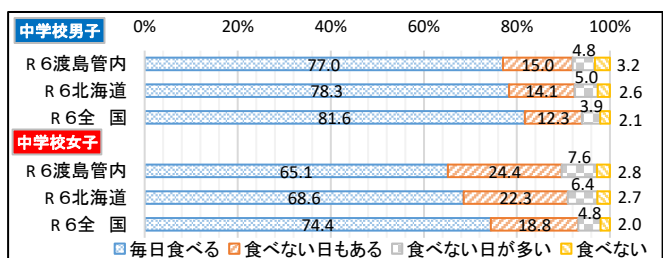
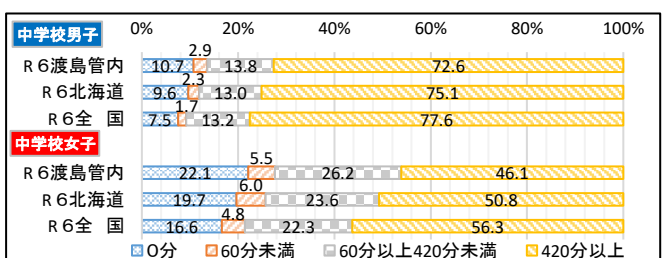
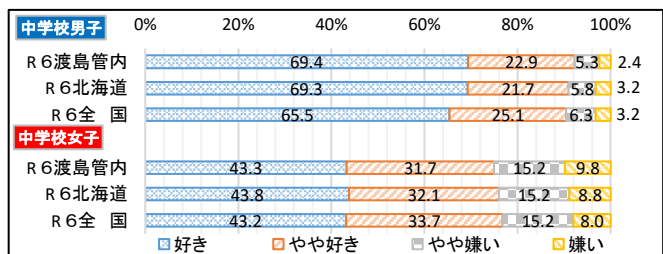
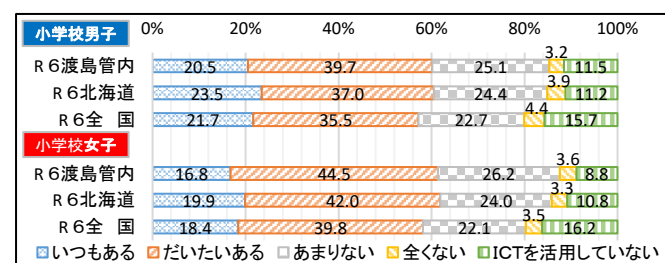
○ 朝食は毎日食べますか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

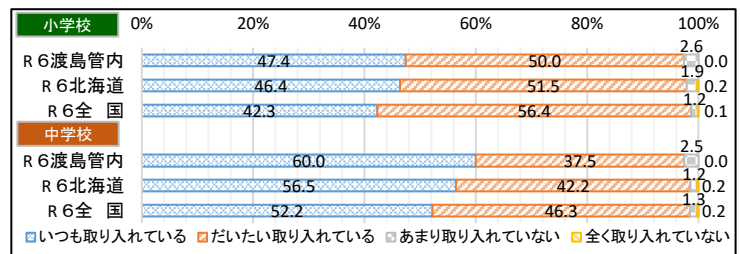


○ 体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

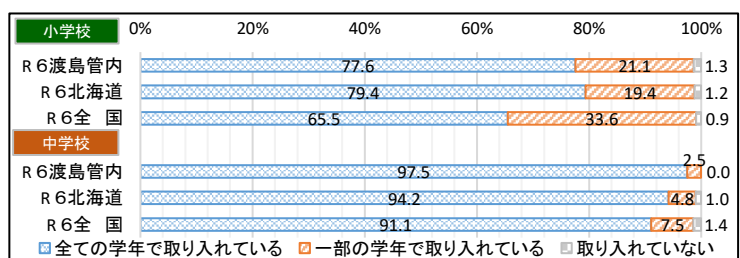


<学校質問紙>

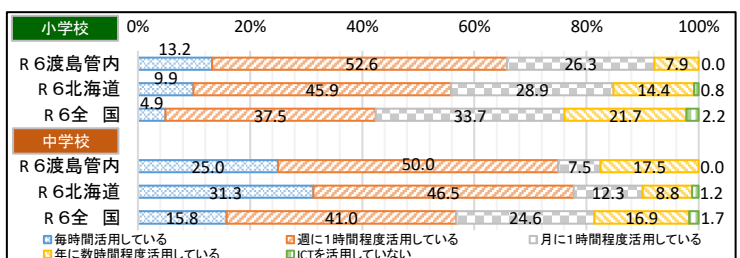
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れていますか。



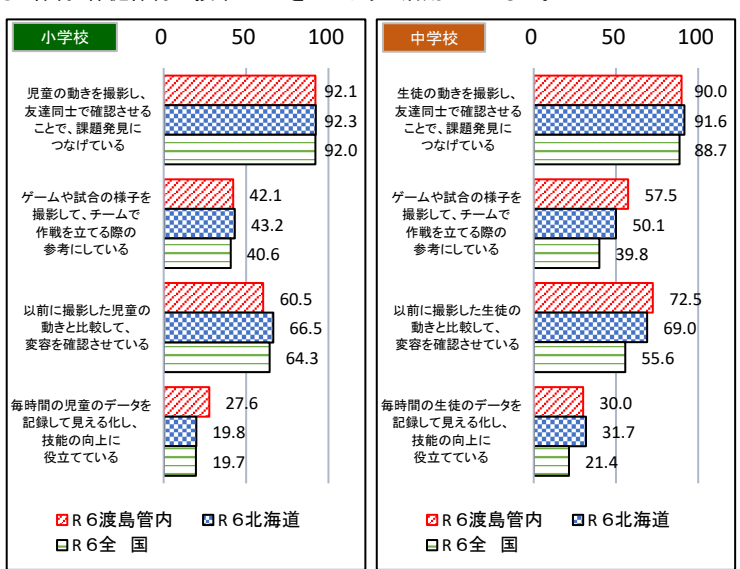
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で話し合う活動を取り入れていますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



実技調査及び質問紙調査の分析					
＜ 小 学 校 ＞			＜ 中 学 校 ＞		
実 技 調 査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が0.07ポイント低く、女子が0.15ポイント高い。 ○ 種目別に全国を上回ったのは、男女共に握力、長座体前屈、反復横とび、ソフトボール投げの4種目である。 ○ 体力合計点は、R5調査から、男子が0.24ポイント、女子が0.34ポイント上昇している。		実 技 調 査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が1.70ポイント、女子が3.77ポイント低い。 ○ 種目別に全国を上回ったのは、男女共に握力の1種目である。 ○ 体力合計点は、R5調査から、男子は0.79ポイント、女子は1.03ポイント下降している。	
質 問 紙 調 査	○ 運動やスポーツをすることは好きであると回答した児童の割合は、男子が73.3%であり、全国より0.3ポイント高く、女子が58.8%であり、全国より4.0ポイント高い。 ○ 体育の授業では、児童同士が助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れている学校の割合は、47.4%であり、全国より5.1ポイント高い。 ○ 体育の授業でICTを毎時間活用している学校の割合は、13.2%であり、全国より8.3ポイント高い。		質 問 紙 調 査	○ 運動やスポーツをすることは好きであると回答した生徒の割合は、男子が69.4%であり、全国より3.9ポイント高く、女子が43.3%であり、全国より0.1%高い。 ○ 保健体育の授業では、生徒同士で話し合う活動を取り入れている学校の割合は、97.5%であり、全国より6.4%高い。 ○ 保健体育の授業でICTを活用して、以前に撮影した生徒の動きと比較して、変容を確認させている学校の割合は、72.5%であり、全国より16.9ポイント高い。	

渡島管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1)A 検証改善サイクルの確立	☐ 児童生徒一人一人の体力向上に係る課題設定及び課題解決の更なる充実を図るため、体力向上に向けた短期間での検証改善サイクルを推進する。 ☐ 新体力テストの結果を活用した授業等の工夫・改善を図るため、全学年の年間指導計画に新体力テストの全種目実施を位置付けるとともに、児童生徒の実態を継続的に把握して学校全体の課題を分析し、体力・運動能力の向上を図る授業の構築を図る。
(2)B 体育・保健体育の授業改善	☐ 資質・能力をバランスよく育成するため、指導内容の明確化・重点化を図った計画に基づき、ICTをより一層効果的に活用した授業実践を促していく。 ☐ 体育専科教員活用事業、小学校体力向上等推進重点校の訪問指導、中学校体力向上推進事業における取組を、各学校の授業改善に直結する効果的な実践事例として普及する。
(3)C 望ましい生活習慣、運動習慣の確立	☐ 健康の三原則である「運動」「食事」「睡眠」の大切さを理解させることができるよう、栄養教諭、養護教諭と連携した生活習慣及び運動習慣の改善に向けた授業づくりを推進する。 ☐ 体育の授業以外における運動機会の創出のため、小学校体育専科教員及び中学校体育授業改善推進教員、社会教育指導班と連携し、学校、家庭、地域が一体となった取組を推進する。

2 具体的な取組

月	(1)A 検証改善サイクルの確立	(2)B 体育・保健体育科の授業改善	(3)C 望ましい生活習慣、運動習慣の確立
4			
5	・学校教育指導における指導助言 ① 児童生徒の体力・運動能力についての実態把握に基づいた目標を学年別に設定することについての指導助言 ② 全学年の年間計画に新体力テストの全種目実施を位置付けるとともに、児童生徒の実態を継続的に把握して学校全体の課題を分析し、体力・運動能力の向上を図る授業等の工夫・改善を推進する取組についての指導助言	・学校教育指導における指導助言 ① ICTを効果的に活用した授業改善についての指導助言 ② 授業の目標を示す活動及び振り返り活動を取り入れた授業についての指導助言 ・小学校体育専科教員及び小学校体育エキスパート教員の重点校の訪問指導による継続的な指導助言や支援	・学校教育指導における指導助言 ① 健康の三原則の大切さを理解させることができるよう、栄養教諭、養護教諭を中心とした生活習慣及び運動習慣の改善を図る授業の構築を普及 ② 体育の授業以外の運動機会の設定についての指導助言
6			
7			
8			・どさん子元気アップチャレンジについて各市町教育委員会へ周知
9	・学校教育指導における指導助言 ① 新体力テストの結果を活用した体力向上策の検証改善状況の把握及び指導助言 ② 新体力テストの結果分析を生かした教育課程の改善に向けた指導助言 ③ 短期間での検証改善サイクルの実践に向けた指導助言	・学校教育指導における指導助言 ① ICTを効果的に活用した授業改善についての指導助言 ② 授業の目標を示す活動及び振り返り活動を取り入れた授業についての指導助言 ・小学校体育専科教員及び小学校体育エキスパート教員の重点校の訪問指導による継続的な指導助言や支援 ・中学校体育授業改善推進教員による中学校授業実践・改善セミナーの実施及び参加の呼びかけ	
10			・健康教育推進研究協議会への積極的な参加の呼びかけ
11			・どさん子体力強調月間について各市町教育委員会へ周知
12			・渡島PTA連合研究大会及び子どもの望ましい生活習慣・学習習慣定着事業における望ましい生活習慣に係る情報提供 ・冬期間の望ましい生活習慣・運動習慣の確立に向けた学校への指導助言
1			
2	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析及び体力向上策の検証改善に向けた指導助言 ・管内指導主事研修会において、体力向上に係る取組の改善に向けた指導助言	・小学校体育専科教員及びエキスパート教員、中学校体育授業改善推進教員を活用した授業改善の事例を管内に周知	
3			

3 取組の評価 ※（ ）は目標値

(1)A 検証改善サイクルの確立	(2)B 体育・保健体育の授業改善	(3)C 望ましい生活習慣、運動習慣の確立
①全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「調査結果を踏まえた取組をしている」と回答する学校の割合。（小・中学校ともに100%） ■小学校98.7% 中学校95.0%	①全国体力・運動能力、習慣等調査において、「体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童に示す活動」や「振り返り活動」をいつも取り入れている学校の割合。（小・中学校ともに80%） ■授業の目標 小学校67.1% 中学校72.5% 振り返り活動 小学校46.1% 中学校72.5%	①全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「調査結果を踏まえた取組として、家庭や保護者へ働きかけを行った」と回答する学校の割合。（小学校60%、中学校50%） ■小学校61.3% 中学校39.5%
②全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「調査結果を踏まえ授業改善に取り組んだ」と回答する学校の割合。（小・中学校ともに100%） ■小学校88.0% 中学校97.4%	②全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「体育授業及び保健体育授業でICTを週1時間程度以上活用している」と回答する学校の割合。（小・中学校ともに65%） ■小学校65.8% 中学校75.0%	②全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「調査結果を踏まえた取組として、体育（保健体育）の授業以外で取組を行った」と回答する学校の割合。（小学校70%、中学校50%） ■小学校66.7% 中学校34.2%

4 改善に向けた今後の方向性

(1)A 検証改善サイクルの確立	(2)B 体育・保健体育の授業改善	(3)C 望ましい生活習慣、運動習慣の確立
○ 調査結果を踏まえた授業改善を図るため、新体力テストを全学年で全種目実施するとともに、その結果を活用した全体計画及び体力向上プランの作成を働き掛ける必要がある。 ○ 児童生徒一人一人の体力向上に係る課題設定及び課題解決の更なる充実を図るため、新体力テストの結果を踏まえた検証改善サイクルを行うよう各種会議等で働き掛けるとともに、学校教育指導訪問において指導助言する必要がある。	○ 授業の「できた」、「分かった」という成功体験を積み重ねられる授業の実施に向けて、児童生徒が課題を選択・決定する場面や振り返る場面を位置付けるとともに、自らの課題を解決する教材・教具の工夫の好事例を管内に普及する必要がある。 ○ 小学校体育専科教員・体育エキスパート教員の訪問指導の成果や中学校体育推進教員による授業実践・改善セミナーでの取組を広く管内に普及する必要がある。	○ 養護教諭や栄養教諭、家庭と連携した望ましい生活習慣・運動習慣の確立に向けた取組を充実させるため、児童生徒が自らの生活を調整しながら改善することができる取組の好事例を管内に普及する必要がある。 ○ 自校の体力、運動能力の課題を踏まえた体育の授業以外における運動の機会の創出に向けて、組織的・計画的に取組を進めるよう学校教育指導訪問において指導助言する必要がある。

檜山管内の状況

7町

(小学校数:17校 児童数:187人、中学校数:10校 生徒数:196人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

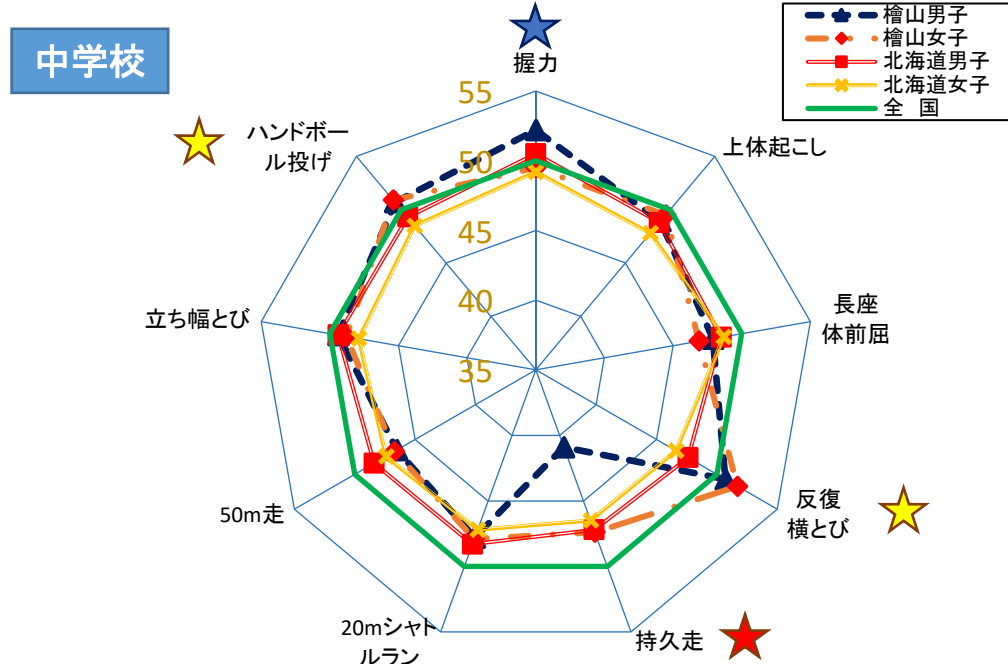
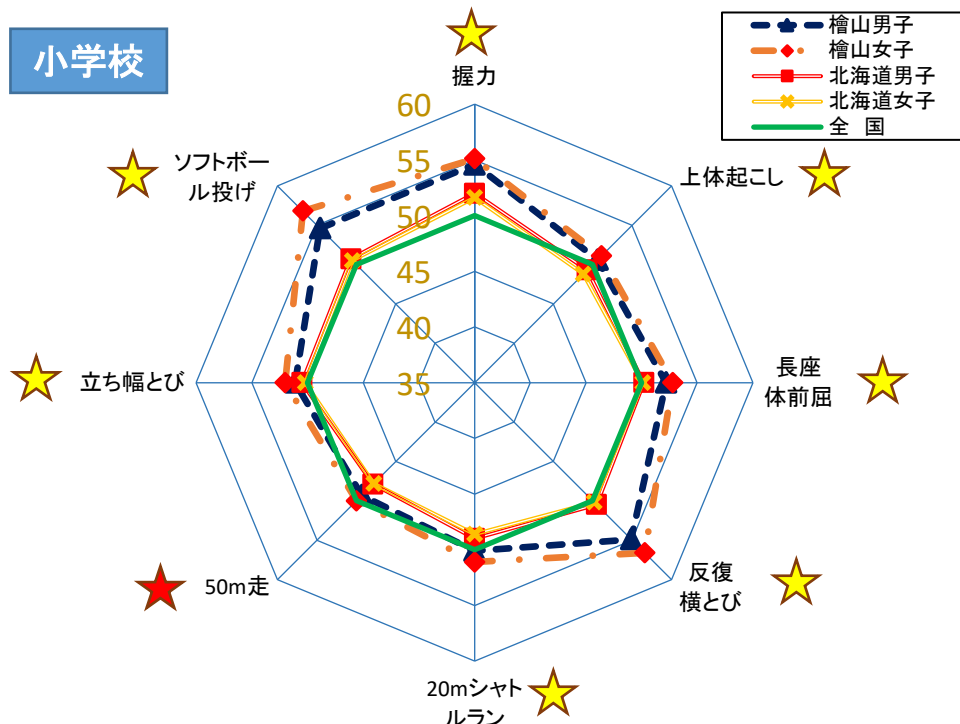
	男子	女子
檜山	55.13	57.85
北海道	52.85	54.32
全国	52.53	53.92

○ 中学校

	男子	女子
檜山	40.00	45.57
北海道	40.49	44.93
全国	41.86	47.37

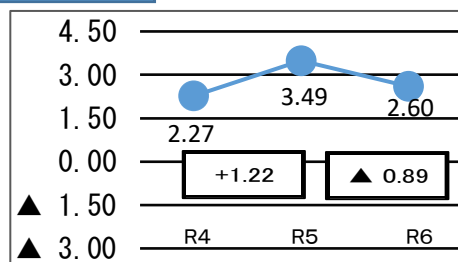
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ★ は男子のみ全国平均以上の種目 ★ は女子のみ全国平均以上の種目

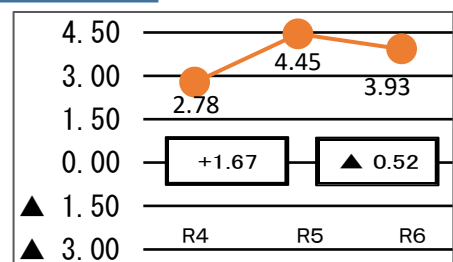


【体力合計点の全国との差とその推移】

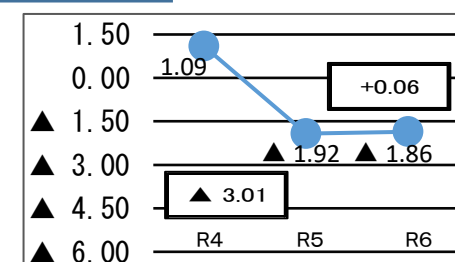
小学校男子



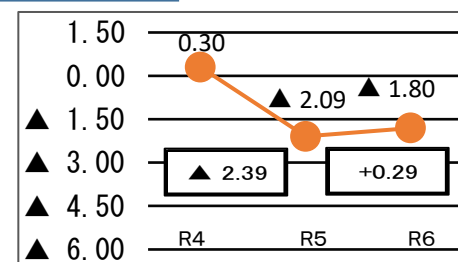
小学校女子



中学校男子



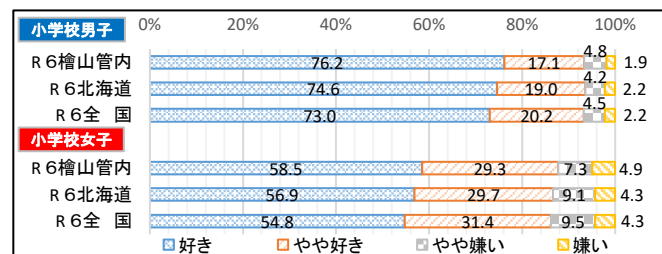
中学校女子



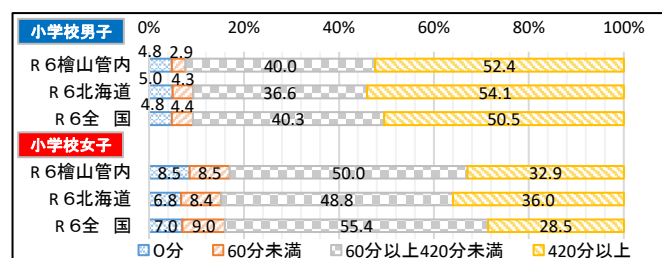
【質問紙調査の状況】

<児童生徒質問紙>

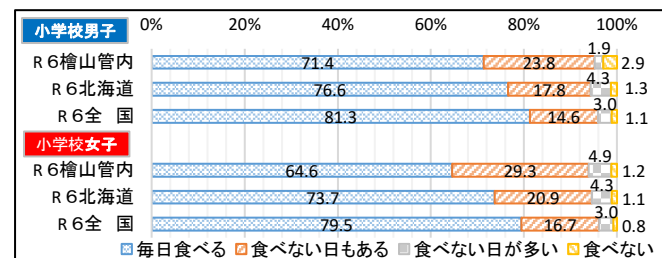
○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



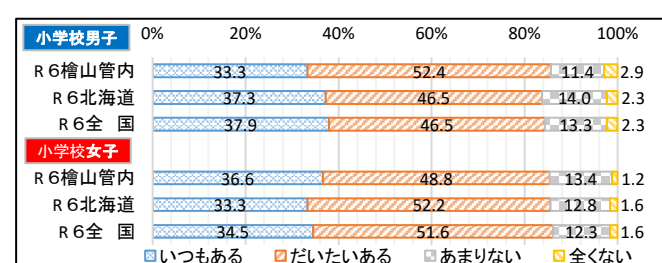
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間おおよそのくらの時間していますか。



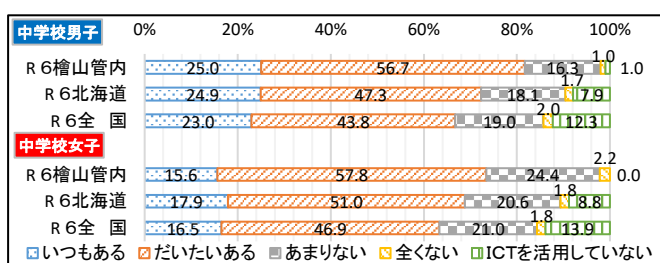
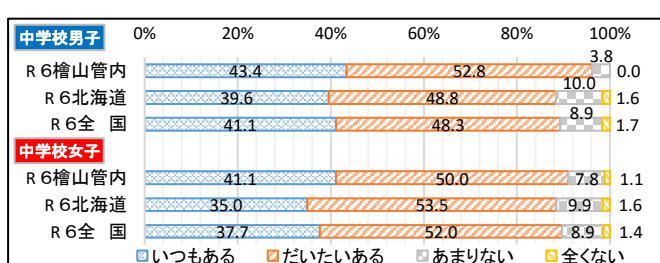
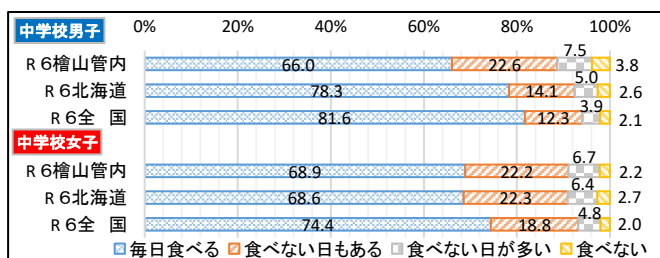
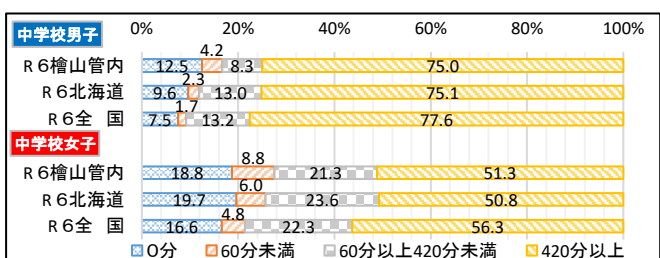
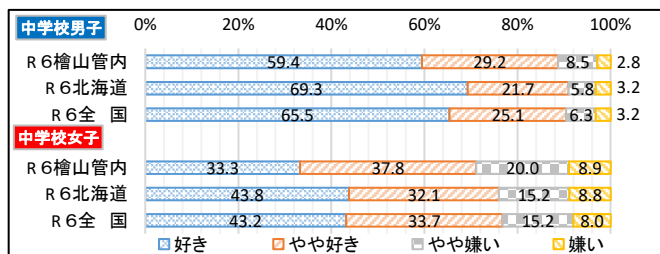
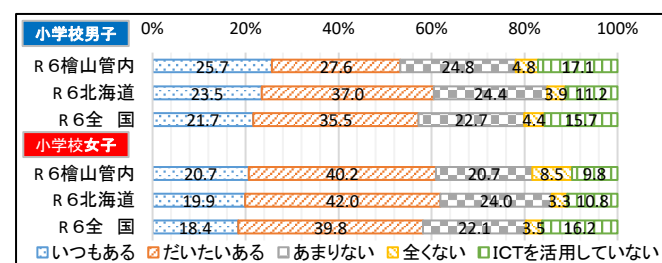
○ 朝食は毎日食べますか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

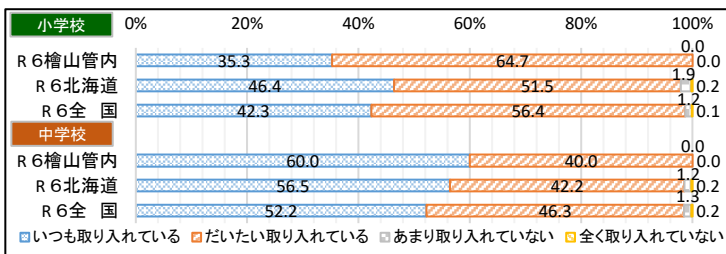


○ 体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

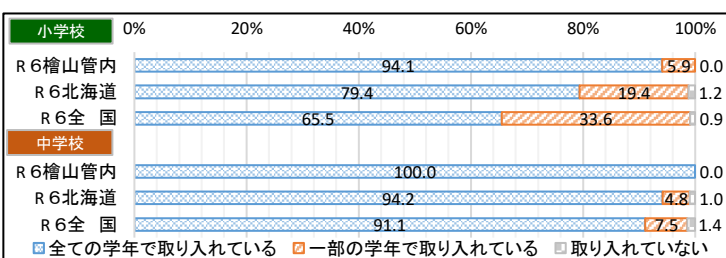


<学校質問紙>

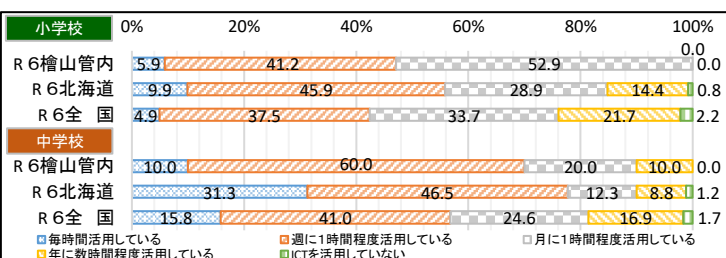
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れていますか。



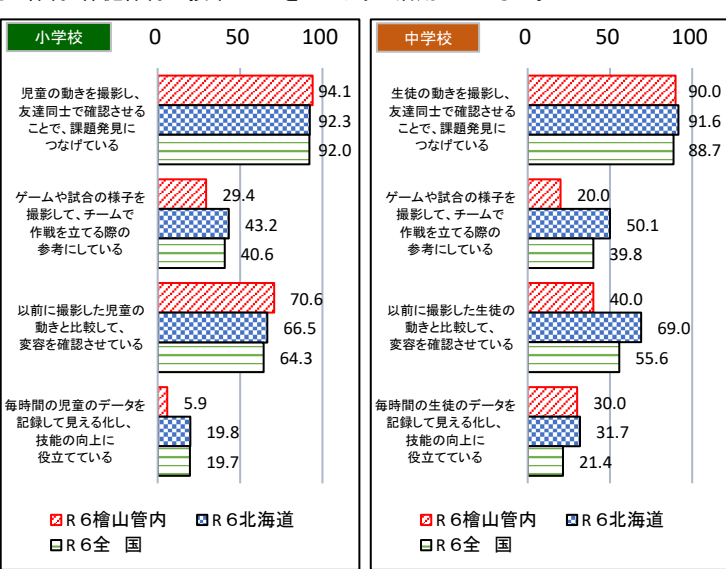
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で話し合う活動を取り入れていますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



実技調査及び質問紙調査の分析

＜ 小 学 校 ＞		＜ 中 学 校 ＞	
実技調査	○ 体力合計点ポイントは、全国と比較して、男子で2.60ポイント、女子で3.93ポイント上回った。 ○ 各種目のT得点は、男子では8種目中7種目、女子では全種目で全国及び全道を上回った。	実技調査	○ 体力合計点ポイントは、全国と比較して、男子で1.86ポイント、女子で1.80ポイント下回った。 ○ 各種目のT得点は、男女ともに反復横跳びとハンドボール投げで、全国及び全道を上回った。
質問紙調査	○ 「体育の授業では、児童同士で話し合う活動を全ての学年で取り入れている」と回答した学校の割合が、全国を28.6ポイント、全道を14.7ポイント上回った。 ○ 「体育の授業は楽しい」と肯定的に回答した児童の割合が男子で0.6ポイント、女子で2.7ポイント、全道及び全国を上回った。	質問紙調査	○ 「保健体育の授業では、生徒同士で話し合う活動を全ての学年で取り入れている」と回答した学校の割合が、全国を8.9ポイント、全道を5.8ポイント上回った。 ○ 「保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、『できたり、わかったり』することがある」と肯定的に回答した割合が、男子で14.9ポイント、女子で10.0ポイント全国及び全道を上回った。

檜山管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

- (1)A 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るための、これまでの実践とICTとのベストミックス
- ・ 当日撮影した動きと以前に撮影した動きを比較し、児童生徒が技能向上や自己の変容を自覚できるようにするなどICTを活用した具体的な改善策を用いた事例の共有が図られるよう指導助言する。
- (2)B 体力・運動能力の向上に向けた、運動習慣の定着
- ・ 体育・保健体育科の授業で運動やスポーツが苦手な児童生徒への取組や技能の程度に応じた取組を行い、児童生徒が「できた」「わかった」を実感できるようにすることで、運動に興味をもち、授業以外でも自主的に運動する習慣の定着が図られるよう指導助言する。
- (3)C 教職員一人一人の専門性向上に向けた、町や校種の枠を超え互いに高め合う研修機会の充実
- ・ 中学校体力向上推進教員による「中学校授業実践・改善セミナー」等の実施や管内の専科教員やエキスパート教員を講師とした「学び合いプロジェクト」の実施により研修の機会の充実を図り、教員の授業力向上と管内の体育授業の質の向上を図る。

2 具体的な取組

月	(1)A 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るための、これまでの実践とICTとのベストミックス	(2)B 体力・運動能力の向上に向けた、運動習慣の定着	(3)C 教職員一人一人の専門性の向上に向けた、町や校種の枠を超え互いに高め合う研修機会の充実	
4				
5	学校教育指導訪問【計画】（遠隔）	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施	オール檜山「学び合い」プロジェクト	
6				
7	学校教育指導訪問【計画】（訪問）			①体力テストの実施に向けて
8				
9				
10				
11				
12		R6 体力調査の結果の分析、管内結果の作成	②できた・わかったを実感する授業づくり	
1	学校教育指導訪問【要請】（遠隔・訪問）			
2	どさん子元気アップチャレンジ	③調査結果を踏まえた改善		
3				

3 取組の評価（達成値の記号：○目標値を達成、△目標値は非達成だが、昨年度より向上、▲目標値が非達成で、昨年度よりも低下）

(1)A 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を図るための、これまでの実践とICTとのベストミックス	(2)B 体力・運動能力の向上に向けた、運動習慣の定着	(3)C 教職員一人一人の専門性の向上に向けた、町や校種の枠を超え互いに高め合う研修機会の充実
①以前に撮影した児童生徒の動きを比較し、変容を確認させる 現状（小学校 76.5%、中学校20.0%） 目標（小学校100.0%、中学校100.0%） 達成値（小学校▲70.6%、中学校△40.0%）	①自主的に運動したいと思う 現状（小学校57.2%、中学校51.5%） 目標（小学校65.0%、中学校55.0%） 達成値（小学校△64.7%、中学校▲41.8%）	①体育の授業は楽しい 現状（小学校69.2%、中学校50.8%） 目標（小学校75.0%、中学校55.0%） 達成値（小学校▲67.9%、中学校▲46.4%）
②体育の授業でのICT活用頻度(週に1回以上) 現状（小学校 53.0%、中学校 30.0%） 目標（小学校100.0%、中学校100.0%） 達成値（小学校▲47.1%、中学校△70.0%）	②運動やスポーツが苦手な児童生徒への取組や技能の程度に応じた取組をしている 現状（小学校88.2%、中学校80.0%） 目標（小学校100.0%、中学校100.0%） 達成値（小学校○100.0%、中学校○100.0%）	②校内外の研修会によく参加している 現状（小学校 23.5%、中学校 10.0%） 目標（小学校100.0%、中学校100.0%） 達成値（小学校△29.4%、中学校△40.0%）

4 改善に向けた今後の方向性

(1)A 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を図るための、これまでの実践とICTとのベストミックス	(2) B 体力・運動能力の向上に向けた、運動習慣の定着	(3) C 教職員一人一人の専門性の向上に向けた、町や校種の枠を超え互いに高め合う研修機会の充実
・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実に向け、エキスパート教員の巡回等により授業改善を図る。 ・ 「体力向上充実セミナー」における講義・協議を通して、教員の各学校の実情に応じたICT活用能力の向上を図る。	・ 中学校以降も運動に親しみながら生活できるよう、「どさん子元気アップチャレンジ」の実施を促すなどし、児童生徒の自主性に基づいた運動習慣の形成を図る。 ・ 学校訪問に社会教育指導班主査が同行し、地域資源について情報提供するなど、町の実情に応じた運動習慣の拡充を図る。	・ 児童生徒が「楽しい」を実感できる授業づくりに向け、教育局による「学び合いプロジェクト」において、「具体的な授業改善方法」について研修を実施するとともに、オンラインで他管内からの参加者とも協議することにより、教職員一人一人の専門性の向上を図る。

上川管内の状況

4市17町2村

(小学校数:108校 児童数:3,348人、中学校数:58校 生徒数:3,117人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

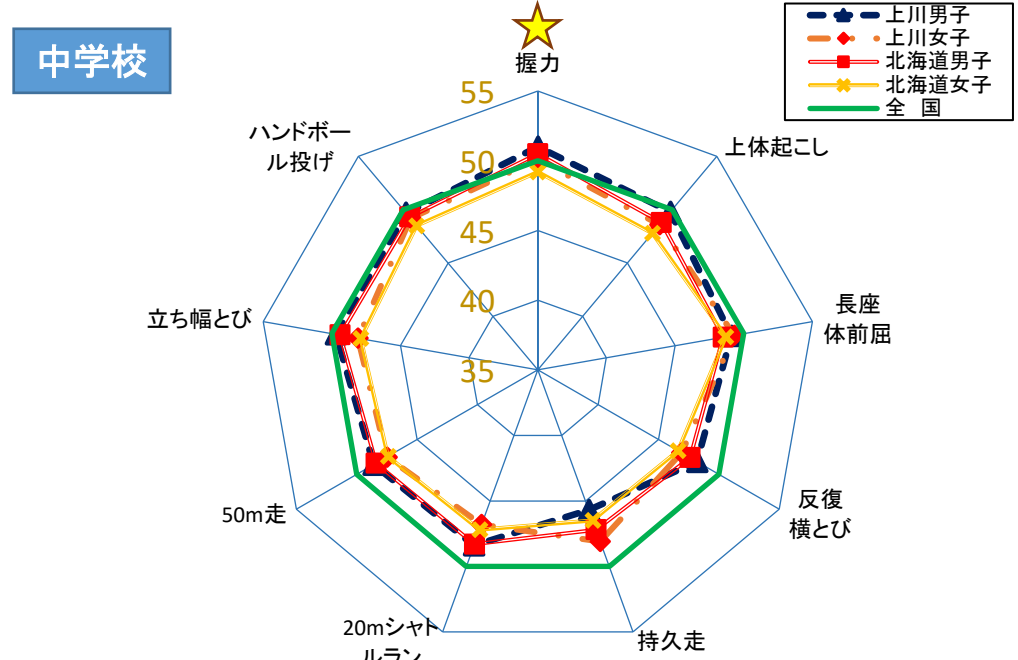
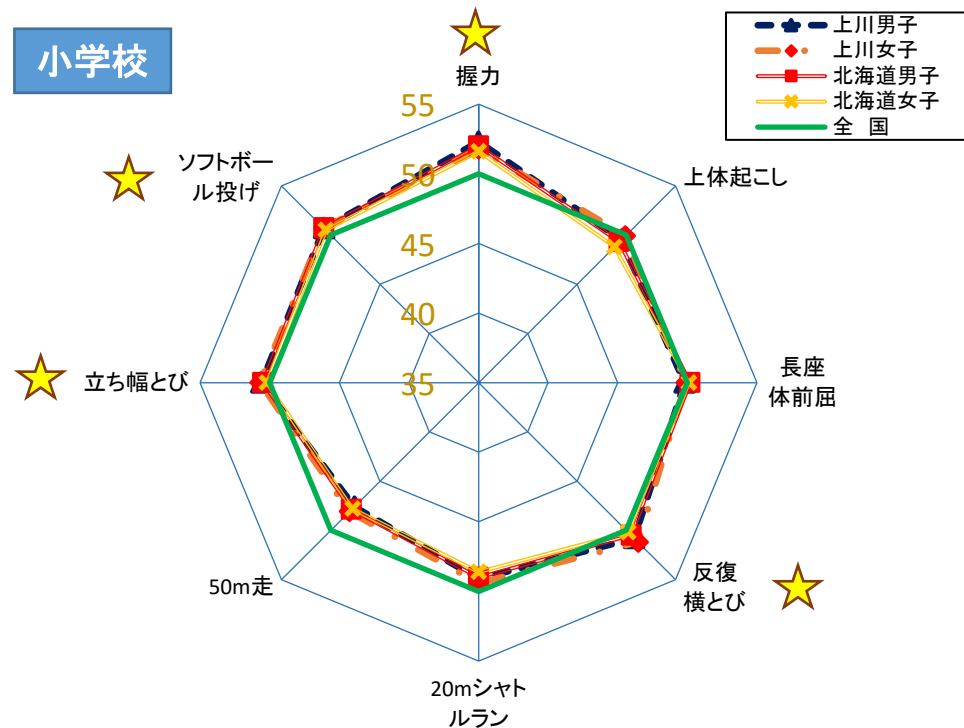
	男 子	女 子
上 川	52.25	54.07
北海道	52.32	53.37
全 国	52.53	53.92

○ 中学校

	男 子	女 子
上 川	40.68	44.53
北海道	40.18	43.96
全 国	41.86	47.37

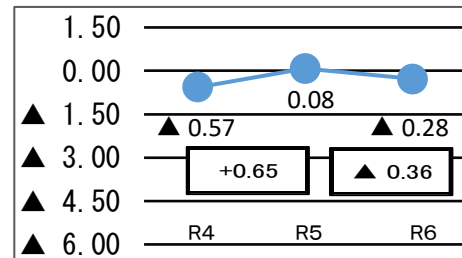
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ★ は男子のみ全国平均以上の種目 ★ は女子のみ全国平均以上の種目

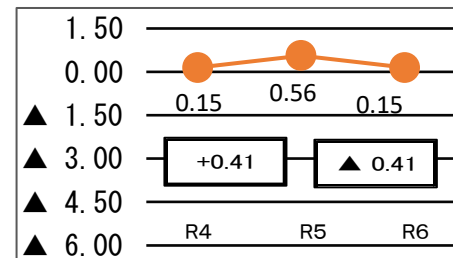


【体力合計点の全国との差とその推移】

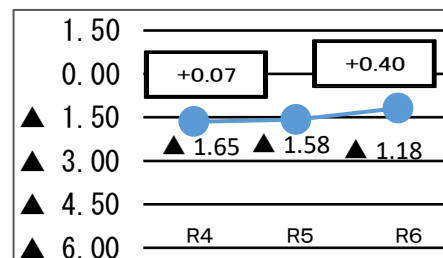
小学校男子



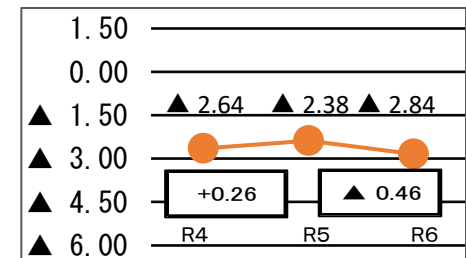
小学校女



中学校男子



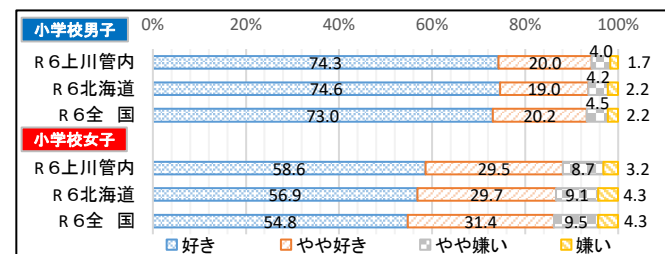
中学校女子



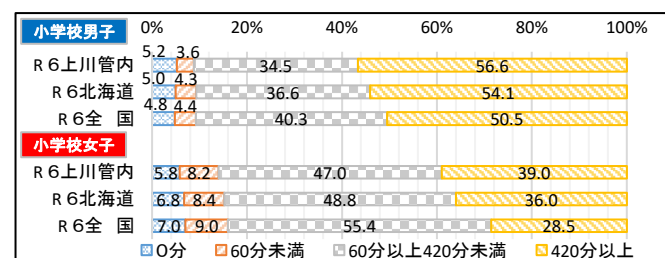
【質問紙調査の状況】

<児童生徒質問紙>

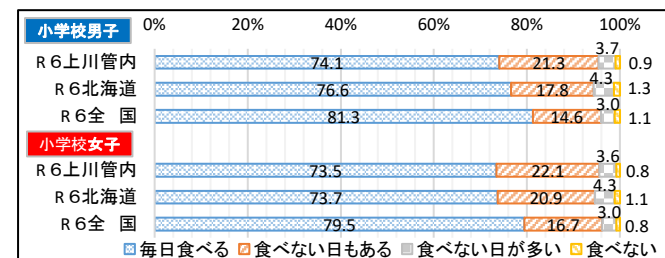
○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



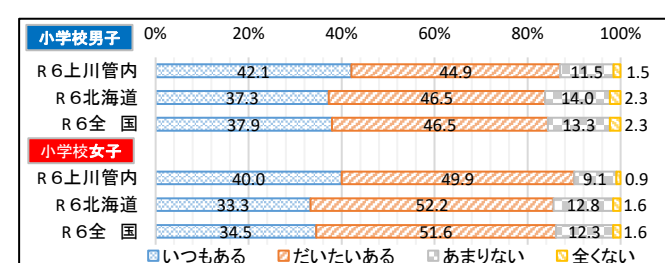
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそどのくらいの時間していますか。



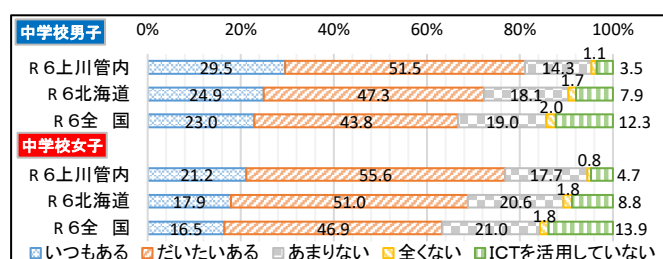
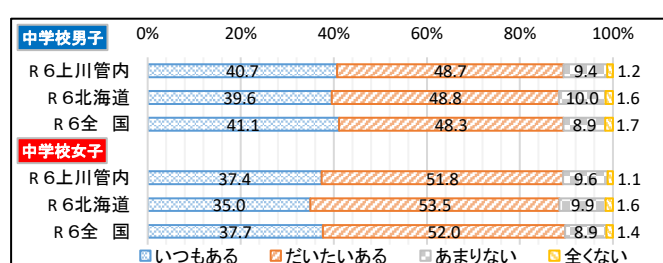
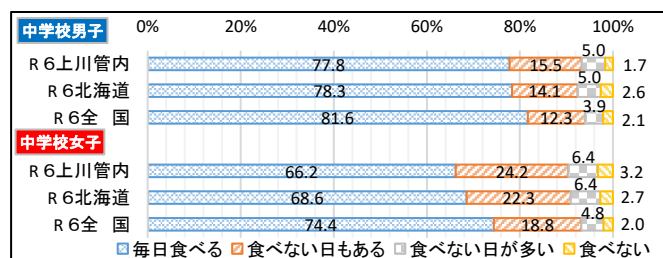
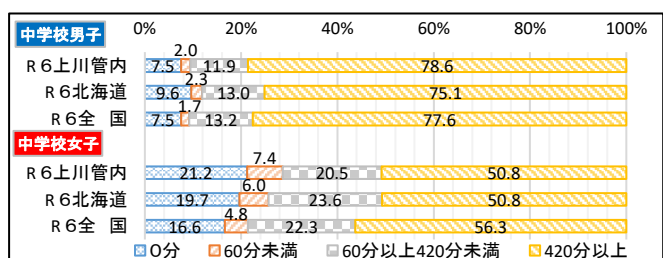
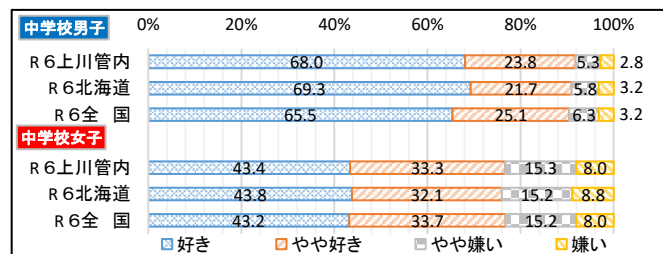
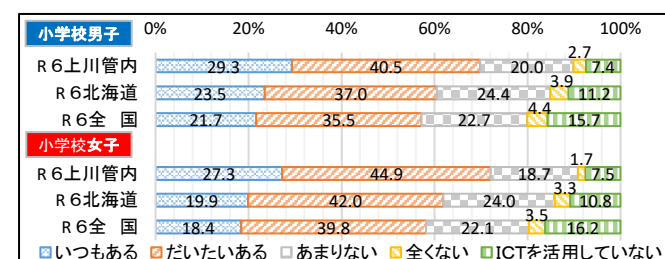
○ 朝食は毎日食べますか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

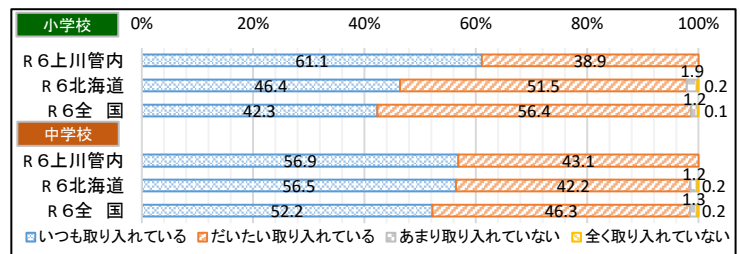


○ 体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

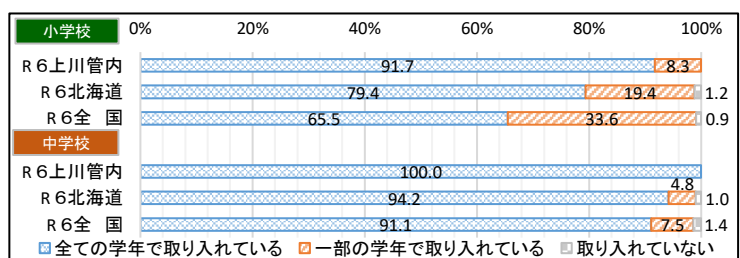


<学校質問紙>

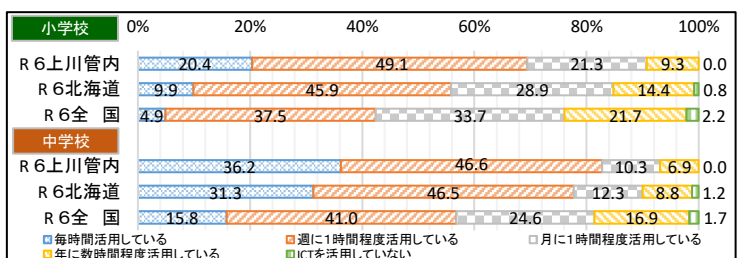
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れていますか。



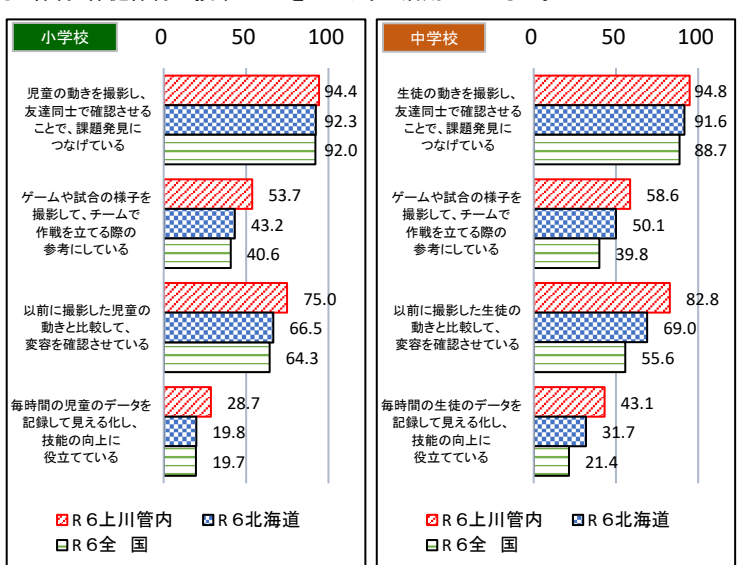
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で話し合う活動を取り入れていますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



実技調査及び質問紙調査の分析			
＜ 小 学 校 ＞		＜ 中 学 校 ＞	
実技調査	○ 多くの学校において、体育授業以外で、児童の体力・運動能力の向上に係る取組を全ての児童に対して行ったことにより、女子の体力合計点が全国平均を0.15ポイント上回ったと考えられる。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男女ともに4種目である。	実技調査	○ 多くの学校において、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえた取組を行ったことにより、体力合計点の全国平均との差が、男子で0.4ポイント縮まったと考えられる。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男女ともに1種目である。
質問紙調査	○ 多くの学校において、体育の授業で児童同士が、助け合い、役割を果たす活動を取り入れたことにより、「体育の授業で友達と助け合ったり教え合ったりする学習で『できたり、わかったり』することがいつもある」と回答した児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。	質問紙調査	○ 多くの学校において、保健体育の授業でＩＣＴを効果的に活用したことにより、「保健体育の授業でタブレットなどのICTを使って学習することで『できたり、わかったり』することがいつもある」と回答した生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。

上川管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1)A 各学校の課題や児童生徒の実態を踏まえた体力向上の取組
■ 「運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向がある児童生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っていない」と回答した小学校が5.4%あることから学校の課題に応じた取組を推進する必要がある。
□ 「体力向上プラン」に基づく取組について、調査 結果等の分析結果を踏まえた取組内容の検証及び重点化により、各学校におけるカリキュラムマネジメントを促進するよう、学校教育指導訪問で指導助言する。
(2)B 「わかる、できる」を実感できる体育・保健体育授業の改善・充実
■ 「体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、できたり、わかったりすることがいつもある」と回答した中学校女子が32.3%であることから、主体的・対話的で深い学びと個別最適・協働的な学びの一体的な充実を図るなど授業改善を行う必要がある。
□ 児童生徒全員が授業において、「できた・わかった」と実感できるよう、ICTを適切に活用しながら自他の変容に気付くことができる工夫をする等、協働的な学びの充実など質の高い体育・保健体育の授業普及を目指した研修会を行う。

2 具体的な取組

月	(1) A 各学校の課題や児童生徒の実態を踏まえた体力向上の取組	(2) B 「わかる、できる」を実感できる体育・保健体育授業の改善・充実
4	管内教育推進の重点「上川まなびフォーカス」の重点共有	
5		
6	学校教育指導訪問における指導助言	学校教育指導訪問における指導助言
7	「上川管内小学校体力向上等推進サポート事業」・体育専科教員及び体育エキスパート教員によるサポート校への訪問指導	
8		
9	体育専科・エキスパート教員配置校訪問	体育専科・エキスパート教員配置校訪問
10	「上川管内小学校体力向上等推進サポート事業」・体育専科教員、体育エキスパート教員及び中学校体育授業改善推進教員による実践交流	
11	「上川管内中学校授業実践セミナー」・生徒が主体的に取り組む体育授業の公開・保健体育の授業改善に係る演習・協議	
12		
1	令和6年度体力向上推進事業に係る実践概要及び実践動画の普及	
2	管内授業改革担当者協議会・ICTを活用した授業改善	
3	管内教育推進の重点「上川まなびフォーカス」評価	

3 取組の評価 ※（ ）は目標値

(1)A 各学校の課題や児童生徒の実態を踏まえた体力向上の取組	(2)B 「わかる、できる」を実感できる体育・保健体育授業の改善・充実
①令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえた取組 〈全国体力・運動能力、運動習慣等調査〉 (小100%、中100%) ■小学校98.1%、中学校94.8%	①体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで「できたり、わかったり」することがある 〈全国体力・運動能力、運動習慣等調査〉 (小90%、中90%) ■小学校男子87%、女子89.9%、中学校男子89.4%、女子89.2%
②運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好き 〈全国体力・運動能力、運動習慣等調査〉 (小90%、中90%) ■小学校男子94.3%、女子88.1%、中学校男子91.8%、女子76.7%	②体育の授業におけるICTの活用について週に1時間以上活用している 〈全国体力・運動能力、運動習慣等調査〉 (小80%、中90%) ■小学校69.5%、中学校82.8%

4 改善に向けた今後の方向性

○ 各学校の課題を明確にした「体力向上プラン」に基づく検証改善サイクルの確立に関する参考資料の周知と学校教育指導訪問における指導助言 ○ 運動をすることが好きな児童生徒を育成する取組及び能力差に応じた体育、保健体育の授業実践に関する取組事例の周知並びに学校教育指導訪問における指導助言	○ 管内体育専科及びエキスパート教員によるICTを効果的に活用した児童生徒が「できる・わかる」を実感できる授業実践動画の普及 ○ 管内の体育専科教員及びエキスパート教員の情報交流会を行い、管内の体力向上に係る課題について分析を行うとともに、体育、保健体育授業における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業改善に係る研修会の実施
---	--

留萌管内の状況

1市6町1村

(小学校数:17校 児童数:252人、中学校数:11校 生徒数:248人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

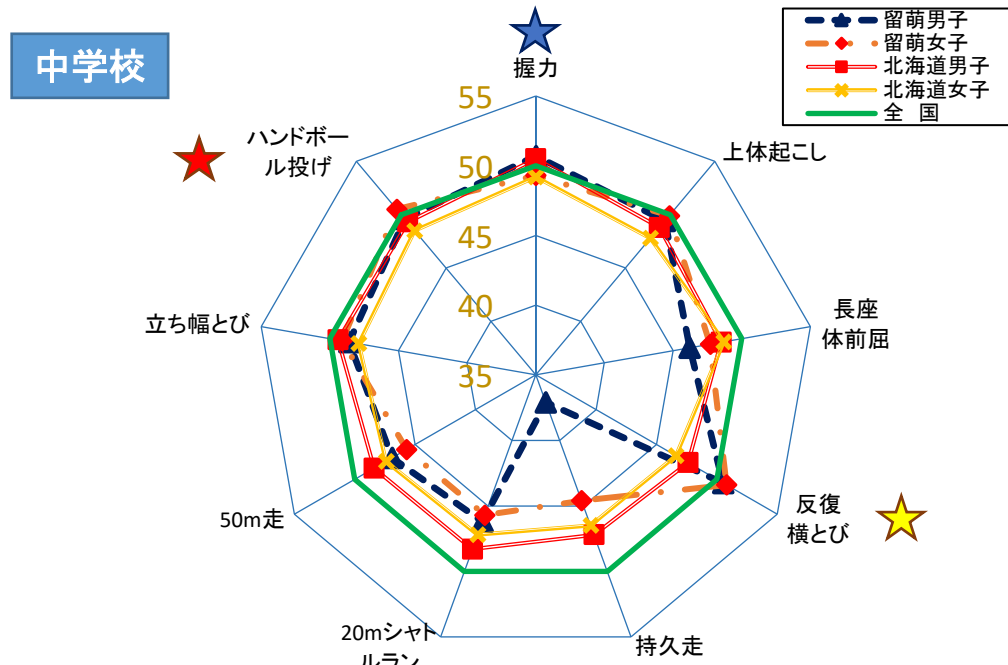
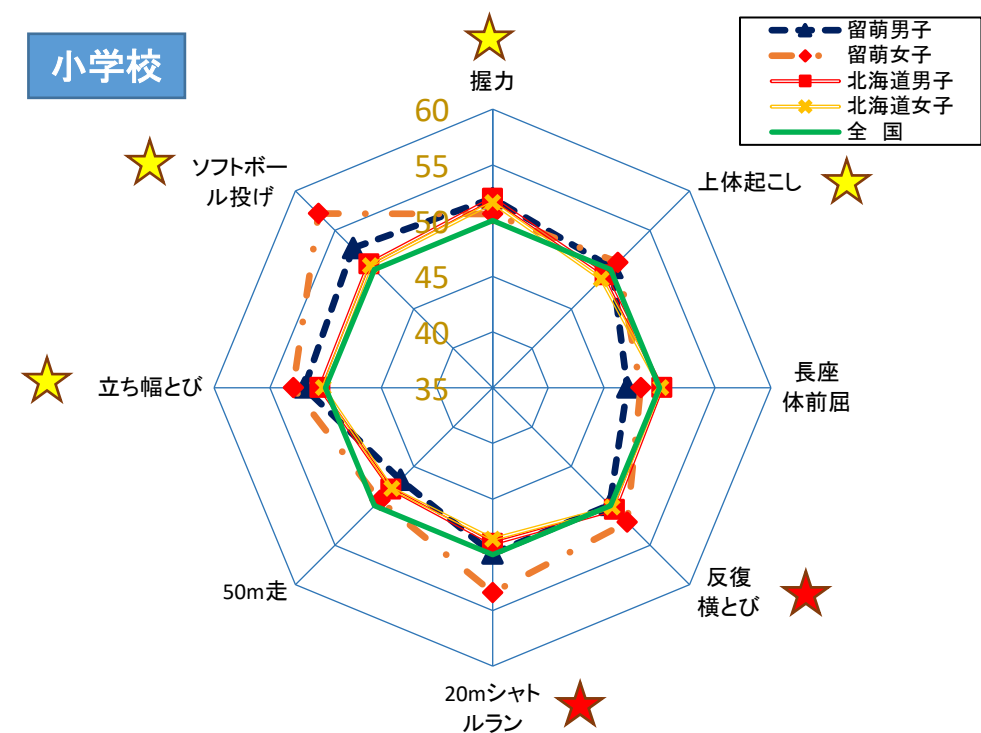
	男子	女子
留 萌	52.23	55.68
北海道	52.32	53.37
全 国	52.53	53.92

○ 中学校

	男子	女子
留 萌	39.84	44.53
北海道	40.18	43.96
全 国	41.86	47.37

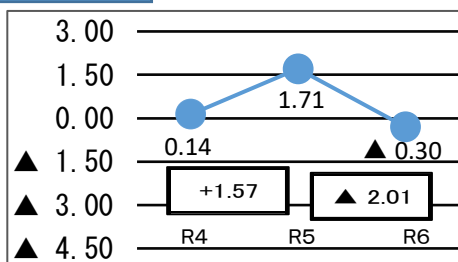
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ★ は男子のみ全国平均以上の種目 ★ は女子のみ全国平均以上の種目

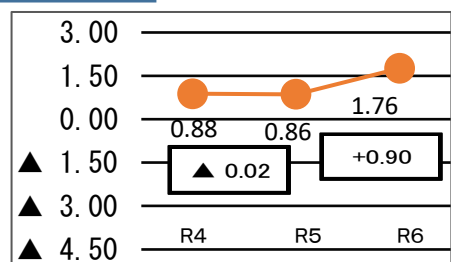


【体力合計点の全国との差とその推移】

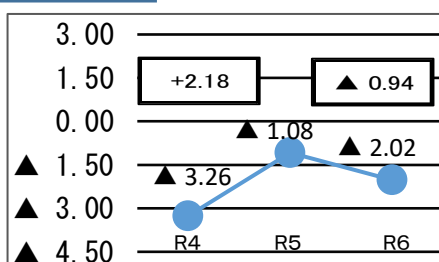
小学校男子



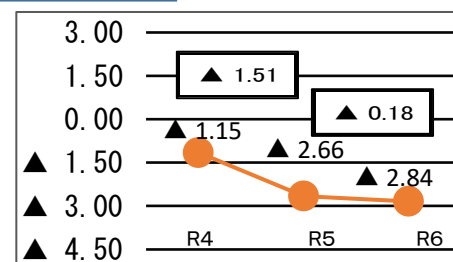
小学校女



中学校男子



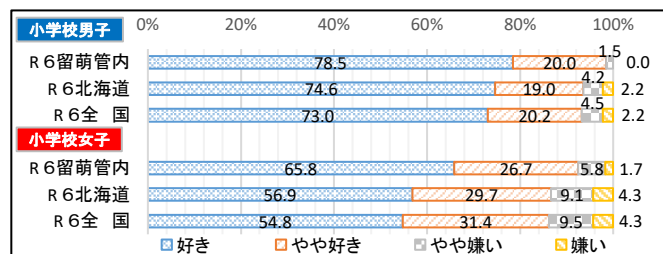
中学校女子



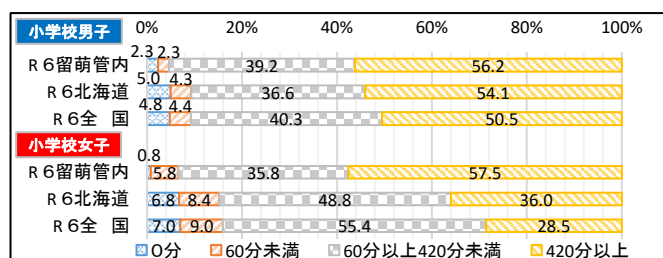
【質問紙調査の状況】

<児童生徒質問紙>

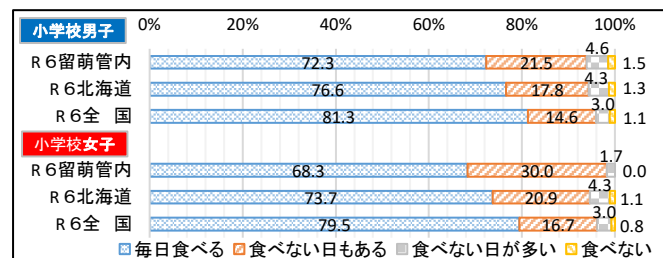
○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



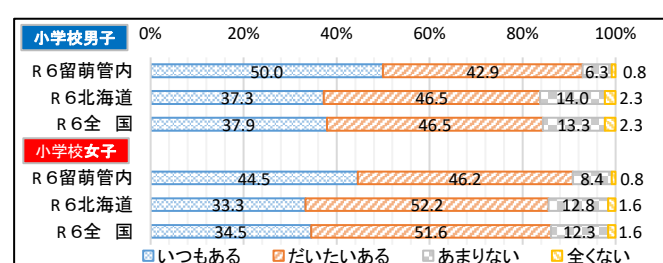
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそどのくらいの時間していますか。



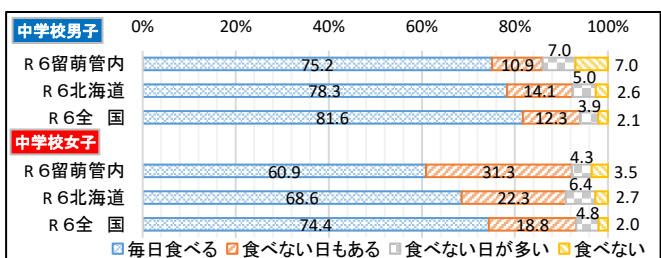
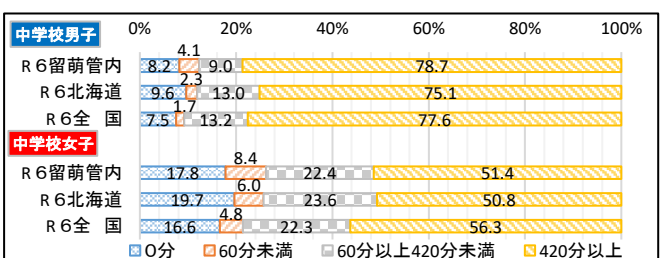
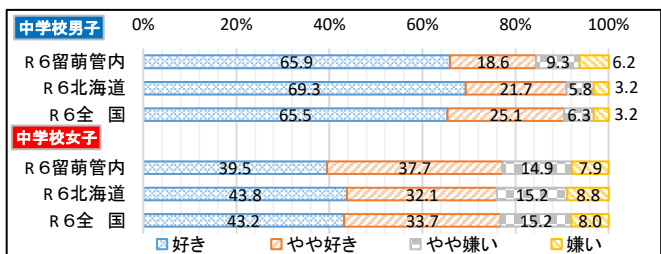
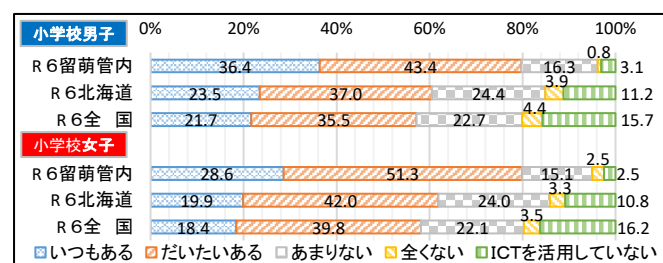
○ 朝食は毎日食べますか。



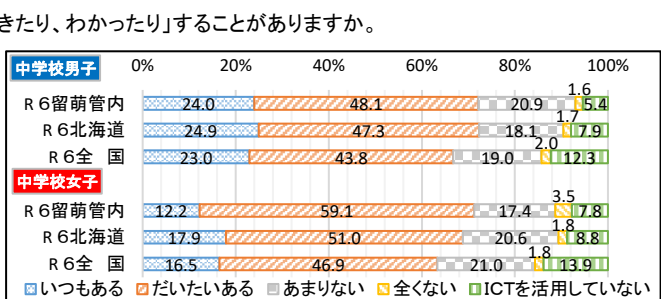
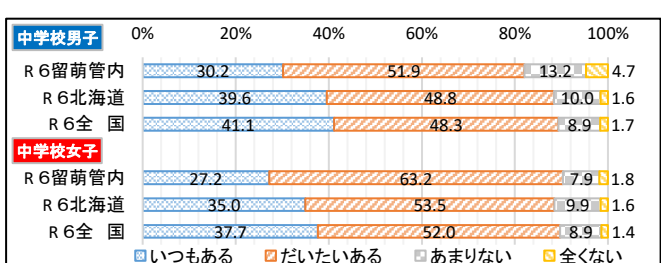
○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



○ 体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

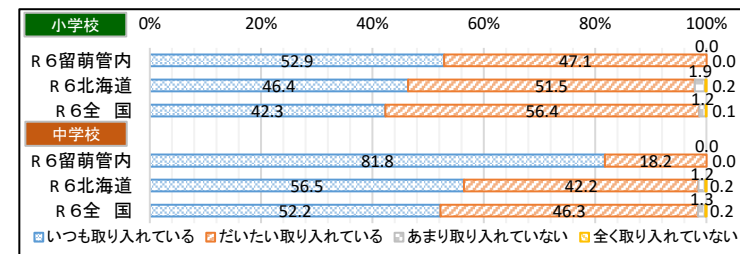


○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

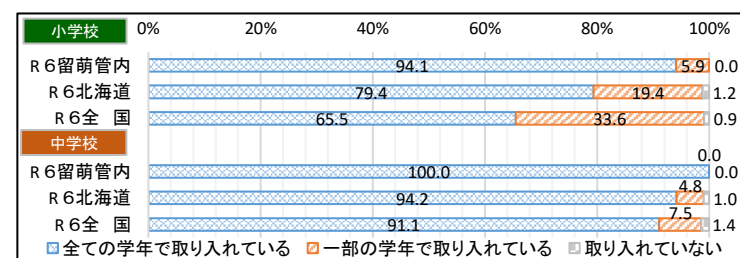


<学校質問紙>

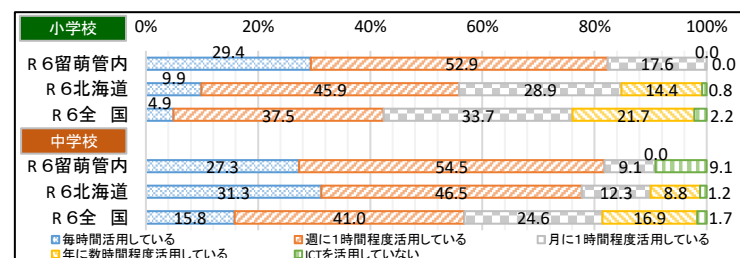
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れていますか。



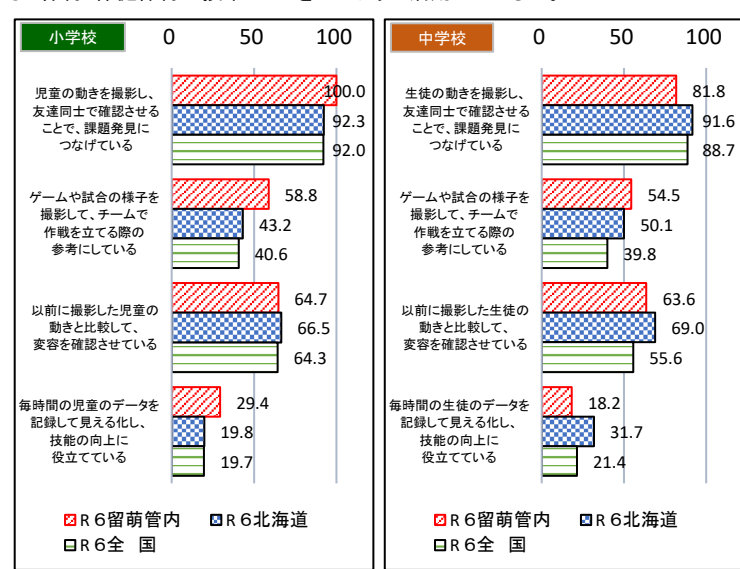
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で話し合う活動を取り入れていますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



実技調査及び質問紙調査の分析			
＜ 小 学 校 ＞		＜ 中 学 校 ＞	
実技調査	○ 多くの学校において、体育授業の目標を児童に示す活動及び振り返り活動をいつも取り入れるとともに、ICTを活用し、児童の動きを撮影し、友達同士で確認させたことにより、男子4種目、女子6種目において、全国平均を上回ったと考えられる。	実技調査	○ 多くの学校において、体育授業の目標を生徒に示す活動及び振り返り活動をいつも取り入れるとともに、ICTを活用し、生徒の動きを撮影し、友達同士で確認させたことにより、男女ともに2種目において、全国平均を上回ったと考えられる。
質問紙調査	○ 多くの学校において、令和5年度の調査結果を踏まえて、体育の授業改善に取り組んだことにより、運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは「好き」と回答した児童の割合が、男女ともに全国を上回ったと考える。 ○ 多くの学校において、体育の授業で、児童同士で話し合う活動を取り入れたことにより、体育の授業で友達と助け合ったり教え合ったりする学習でできたり、わかったりすることが「いつもある」と回答した児童の割合が、男女ともに全国を上回ったと考える。	質問紙調査	○ 多くの学校において、令和5年度の調査結果を踏まえて、保健体育の授業改善に取り組んだことにより、運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは「好き」と回答した生徒の割合が男子において全国を上回り、「好き、やや好き」と肯定的に回答した生徒の割合が女子において全国を上回ったと考えられる。 ○ 多くの学校において、保健体育の授業で、生徒同士で話し合う活動を取り入れたことにより、保健体育の授業で友達と助け合ったり教え合ったりする学習でできたり、わかったりすることが「いつもある、だいたいある」と肯定的に回答した生徒の割合が女子において全国を上回ったと考えられる。

留萌管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策
(1)A 体力・運動能力向上に向けた組織的な取組の推進 - 質問紙調査において肯定的な結果となっているが、必ずしも結果に結び付いていない状況 - 検証改善サイクルの質的向上を図る取組をヒアリングし、ポイントを明確化、発信 - エキスパート教員、推進教員、教育局で管内全体に指導助言及び支援 (2)B 体育・保健体育の授業改善 - ICTの活用や目標設定、教え合い、まとめなど資質能力の育成に向けた授業改善を継続して推進 - ICT活用を手段と位置付け、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力の明確化や適切な方法による学習状況の見取り、個に応じた指導など、指導と評価の一体化について指導助言 - 情報活用能力育成に係る全体計画や年間指導計画等を活用するなど、計画的な推進について指導助言 - エキスパート教員、推進教員、留萌管内学校体育研究会との連携による研修機会の充実 (3)C 望ましい生活習慣・学習習慣の確立 - 授業以外の運動時間やメディア等の時間に課題 - 学校・家庭・地域が連携した運動環境が構築されるよう、研修会・協議会等で情報提供・指導助言

2 具体的な取組			
月	(1)A 体力・運動能力向上に向けた組織的な取組の推進	(2)B 体育・保健体育の授業改善	(3)C 望ましい生活習慣・学習習慣の確立
4	・教育長会議・校長会議・教頭（主幹教諭）会議	・教育長会議・校長会議・教頭（主幹教諭）会議	・教育長会議・校長会議・教頭（主幹教諭）会議
5	・管内研究団体等での指導助言	・管内研究団体等での指導助言	・管内研究団体等での指導助言
6	・学校教育指導訪問（計画①、要請：年間随時） ・体育エキスパート教員の重点校指導訪問（～7月）	・学校教育指導訪問（計画①、要請：年間随時） ・体育エキスパート教員の重点校指導訪問（～7月）	・学校教育指導訪問（計画①、要請：年間随時） ・体育エキスパート教員の重点校指導訪問（～7月）
7	・第1回北海道体力向上推進会議	・第1回北海道体力向上推進会議	・第1回北海道体力向上推進会議
8			
9	・学校教育指導訪問（計画②、要請：年間随時）	・学校教育指導訪問（計画②、要請：年間随時）	・学校教育指導訪問（計画②、要請：年間随時） ・留萌管内PTA連合会研究大会
10	・エキスパート教員、推進教員、留萌管内学校体育研究会との協議 ・体育エキスパート教員の重点校指導訪問（～12月）	・エキスパート教員、推進教員、留萌管内学校体育研究会との協議 ・体育エキスパート教員の重点校指導訪問（～12月）	・エキスパート教員、推進教員、留萌管内学校体育研究会との協議 ・体育エキスパート教員の重点校指導訪問（～12月）
11	・第2回北海道体力向上推進会議 ・中学校授業実践・改善セミナー	・第2回北海道体力向上推進会議 ・中学校授業実践・改善セミナー	・第2回体力向上推進会議 ・中学校授業実践・改善セミナー
12	・教育長会議	・教育長会議	・教育長会議
1	・義務班だより等における好事例の提供	・義務班だより等における好事例の提供	
2	・管内校長会理事研修会 ・どさん子元気あっぷセミナー	・管内校長会理事研修会 ・どさん子元気アップセミナー	・管内校長会理事研修会 ・どさん子元気あっぷセミナー
3	・第3回北海道体力向上推進会議 ・教育長会議	・第3回北海道体力向上推進会議 ・教育長会議	・第3回北海道体力向上推進会議 ・教育長会議

3 取組の評価		
(1)A 体力・運動能力向上に向けた組織的な取組の推進 【留萌管内教育推進の重点】 体力・運動能力向上を目指した組織的な取組を推進した割合（0～3評価3の割合） 【目標値】（ ）内は、R5 数値 ・小学校 100%（88.2%） ・中学校 100%（90.9%） ・教育委員会 100%（100%） 【達成値】 ・小学校 94.1% ・中学校 90.9% ・教育委員会 87.5%	(2)B 体育・保健体育の授業改善 【全国体力・運動能力、運動習慣等調査学校質問紙調査】 体育・保健体育の授業でICTを毎時間または週 1 回活用している回答の割合 【目標値】（ ）内は、R5 数値 ・小学校 100%（82.4%） ・中学校 100%（54.6%） 【達成値】 ・小学校 82.4% ・中学校 81.8%	(3)C 学校・家庭・地域が一体となった運動機会の設定 【留萌管内教育推進の重点】 学校・家庭・地域との連携による生活習慣に係る取組の割合（0～3評価3の割合） 【目標値】（ ）内は、R5 数値 ・小学校 100%（70.6%） ・中学校 100%（54.5%） ・教育委員会 100%（50.0%） 【達成値】 ・小学校 64.7% ・中学校 72.7% ・教育委員会 62.5%

4 改善に向けた今後の方向性		
(1)A 体力・運動能力向上に向けた組織的な取組の推進 ■組織力と学校間連携の実質化 ・学力向上、校内研修、ICT活用との一体的な推進 ・小中のICT活用など異校種間の取組を学校間で共有	(2)B 体育・保健体育の授業改善 ■学びに応じたICTの利活用 ・自分の考えを精査・修正する学習機会の確保や教える場面と委ねる場面を明確化 ・留体研やエキスパート教員及び推進教員と連携して効率的に指導資料を共有 ■体育の授業が好きになる授業の再構築 ■保健・保健分野の授業の充実	(3)C 学校・家庭・地域が一体となった運動機会の設定 ■自主・自律的な運動習慣の確立 ・家庭・地域と連動して児童生徒の生活習慣に対する考えや取組を協議・実践

宗谷管内の状況

1市8町1村

(小学校数:34校 児童数:403人、中学校数:21校 生徒数:363人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

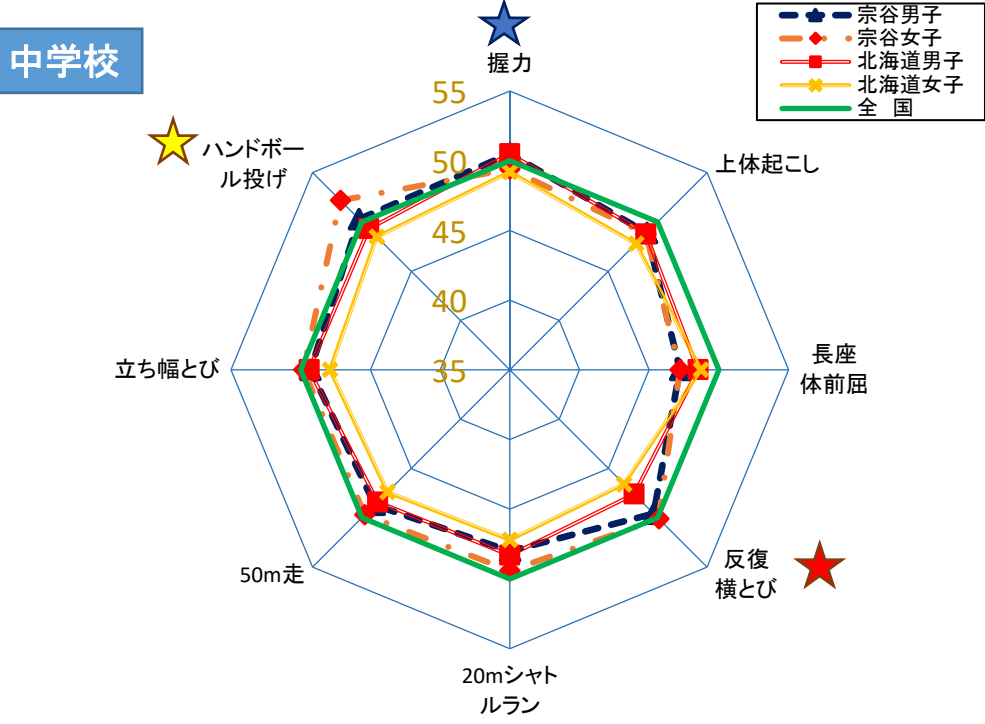
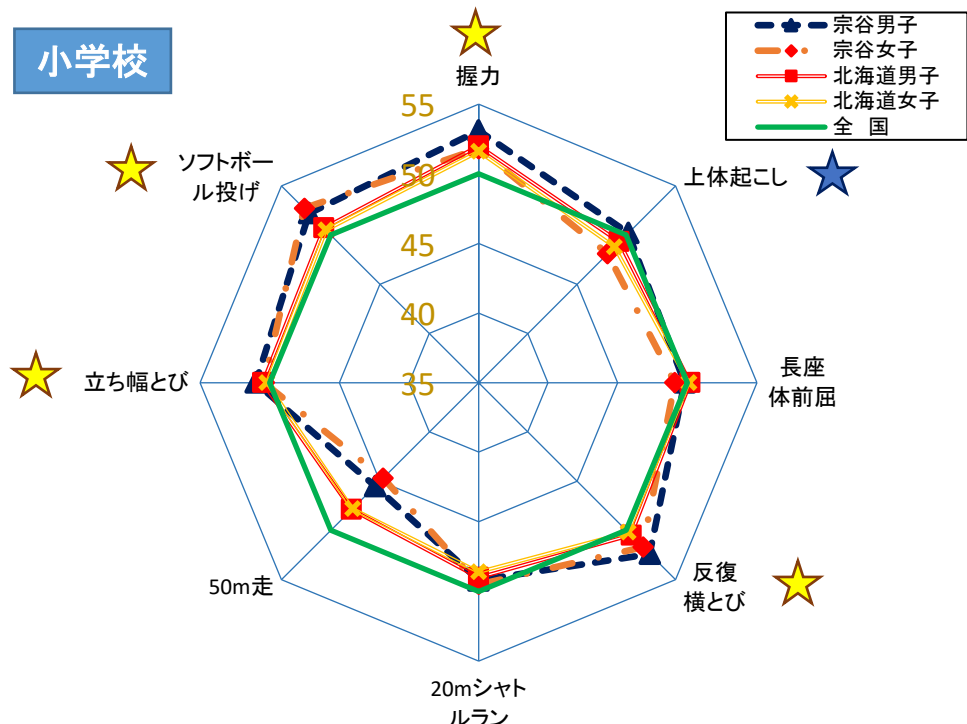
	男子	女子
宗 谷	53.21	53.72
北海道	52.32	53.37
全 国	52.53	53.92

○ 中学校

	男子	女子
宗 谷	40.05	46.29
北海道	40.18	43.96
全 国	41.86	47.37

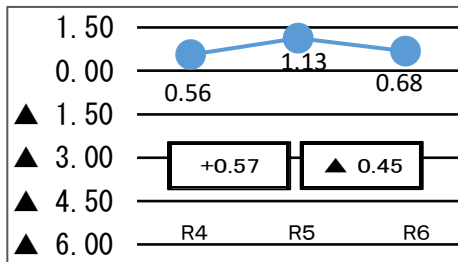
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ★ は男子のみ全国平均以上の種目 ★ は女子のみ全国平均以上の種目

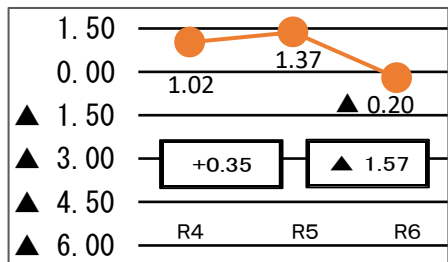


【体力合計点の全国との差とその推移】

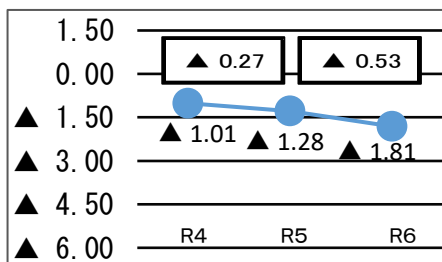
小学校男子



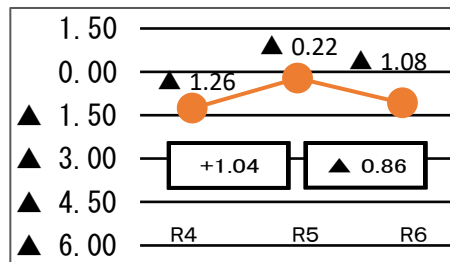
小学校女子



中学校男子



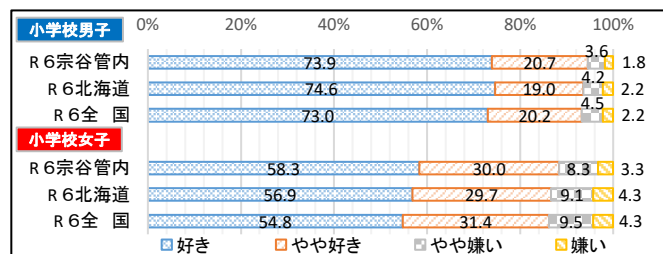
中学校女子



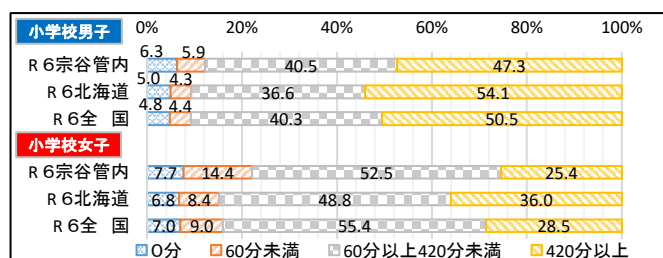
【質問紙調査の状況】

<児童生徒質問紙>

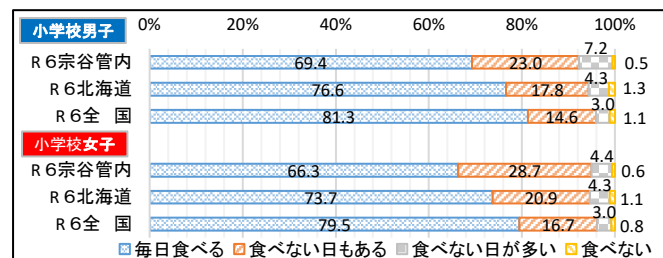
○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



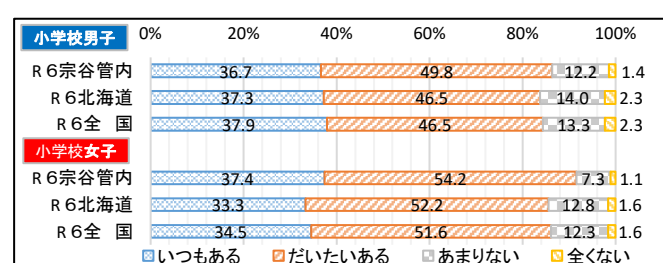
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそどのくらいの時間していますか。



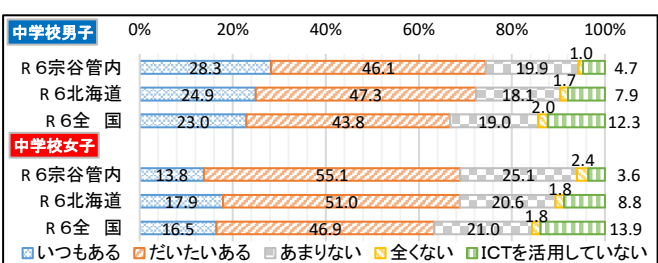
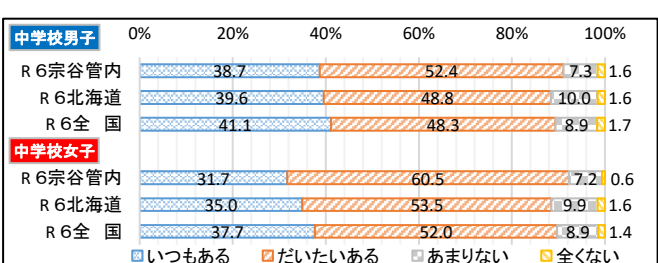
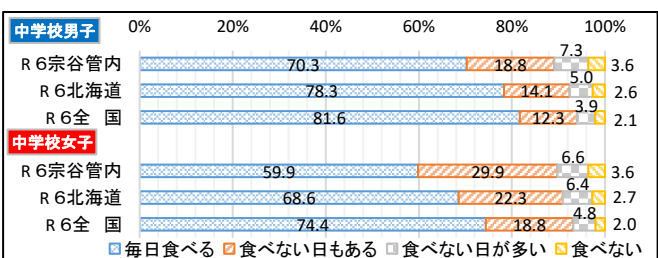
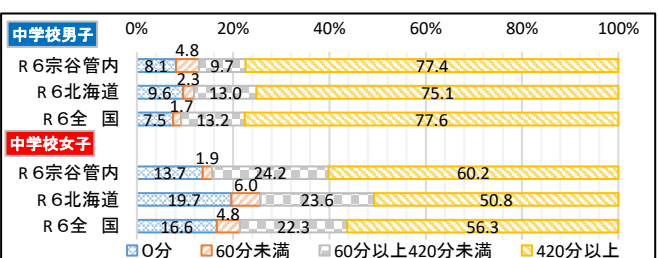
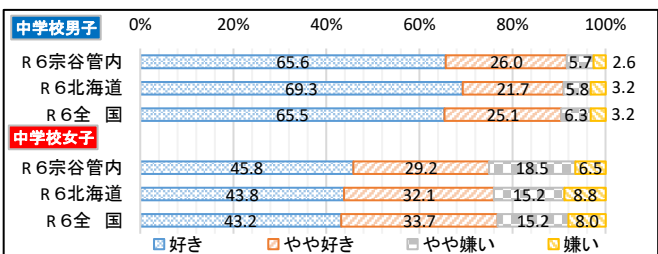
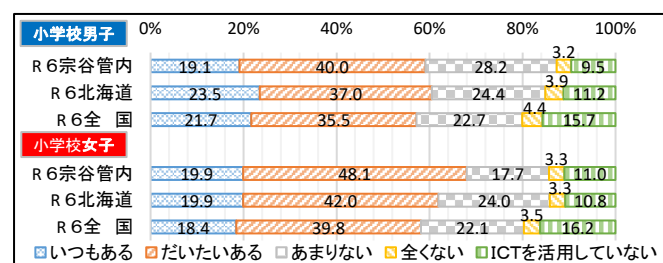
○ 朝食は毎日食べますか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

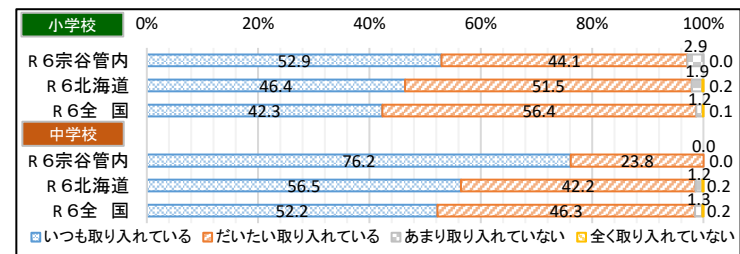


○ 体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

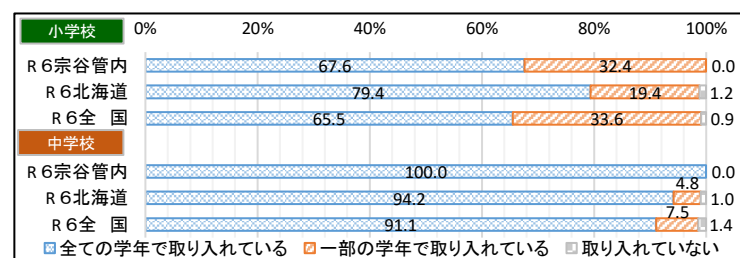


<学校質問紙>

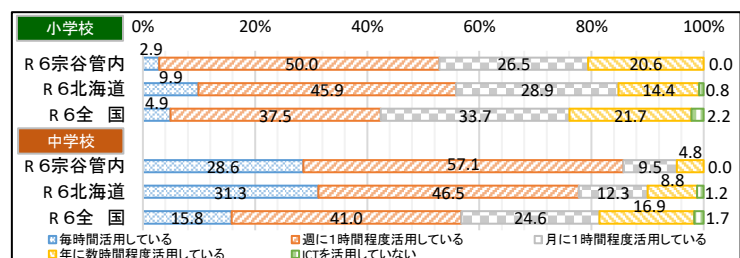
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れていますか。



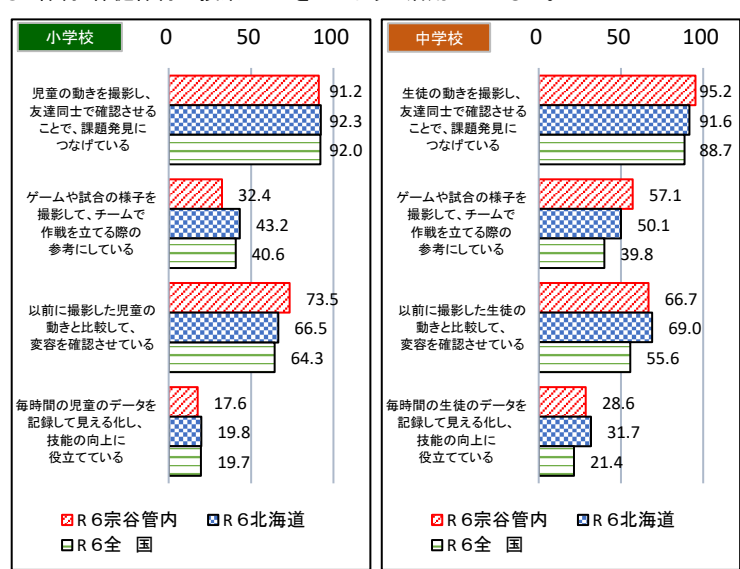
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で話し合う活動を取り入れていますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



実技調査及び質問紙調査の分析

＜ 小 学 校 ＞		＜ 中 学 校 ＞	
実技調査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が0.68ポイント上回り、女子が0.20ポイント下回った。 ○ 体力合計点は、男子は全国平均を上回っているものの、昨年度と比較して、0.45ポイント全国との差が縮まった。女子は、昨年度と比較して、1.57ポイント下降し、全国平均を下回った。 ○ 種目別で、男女ともに全国平均以上となった種目は4種目である。	実技調査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が1.81ポイント、女子が1.08ポイント下回った。 ○ 体力合計点は、昨年度と比較して、男子が0.53ポイント、女子が0.86ポイント全国との差が広がった。 ○ 種目別で、男女ともに全国平均以上となった種目は1種目であり、課題である。
質問紙調査	○ 「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好き。」と回答した児童の割合は全国と比較して男女とも上回っているが、「授業以外で、運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツを1週間で全く行っていない（0分）」と回答する児童の割合は、全国と比較して男子で1.5ポイント、女子で0.7ポイント高くなっており、課題である。	質問紙調査	○ 各学校において、「体育・保健体育の授業で毎時間ICTを活用している。」と回答した割合が、全国平均よりも12.8ポイント高くなっており、生徒も「体育・保健体育の授業で、タブレットなどのＩＣＴを使って学習することで、『できたり、わかったり』すること」に対して、肯定的に回答する割合が、男子は7.6ポイント、女子は5.5ポイント、全国平均を上回った。

宗谷管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1) 年間複数回の検証改善サイクルの確立
☐ 新体力テスト等の結果を活用した実態把握及び重点的な取組の明確化 ☐ 明確な目標指標を位置付けた「体力向上プラン」の作成・実施・改善及び中学校区での共有
(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改革
☐ 体育専科教員・中学校体育授業改善推進教員を活用した授業改革に資する研修会の実施 ☐ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育・保健体育の授業改革に関する指導資料の作成
(3) 日常的な運動機会の創出
☐ 家庭や地域と連携を図った運動機会の推進 ☐ 体育授業以外の運動に親しむ場の設定

2 具体的な取組

月	(1)年間複数回の検証改善サイクルの確立	(2)主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改革	(3)日常的な運動機会の創出
4	・第1回教育長会議及び校長会議における新体力テスト及び検証改善サイクルに係る説明		・令和5年度どさん子元気アップチャレンジの取組を周知
5	・学校教育指導訪問(2次訪問)における資料提供及び体力向上プランの確認		
6	・体育専科教員及び中学校体力向上推進教員との協議(管内の体力向上の現状と課題)	・第1回宗谷管内体力向上推進会議(今年度の予定確認及び新体力テストに向けたポイントの周知に係る意見交流)	
7			・どさん子元気アップチャレンジⅠ(体力向上チャレンジ及びSTチャレンジ)
8	全国体力・運動能力、運動習慣等調査による検証及び指導助言	・局独自オンライン研修「SOYA ALL」の実施	
9	・学校教育指導訪問(2次訪問)における資料提供及び新体力テストの全学年・全種目実施の確認	・第2回宗谷管内体力向上推進会議(局独自オンライン研修及び中学校授業改善・実践セミナーについて)	
10		・中学校授業改善・実践セミナーの実施	
11		・実践映像資料等の作成	・どさん子元気アップチャレンジⅡ
12	・北海道版結果報告書における管内市町村頁および管内頁作成	・第3回宗谷管内体力向上推進会議(体育専科指導事業の報告及び宗谷管内の体力向上の現状と課題について)	
1	体育・保健・安全に関する調査による検証及び指導助言		
2		・第4回宗谷管内体力向上推進会議(令和6年度の実践報告)	・どさん子元気アップチャレンジⅡの取組を周知
3			

3 取組の評価 ※（ ）は目標値

(1) 年間複数回の検証改善サイクルの確立	(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改革	(3) 日常的な運動機会の創出
① 体力テストの全学年・全種目実施 (小・中学校 100%) ■小学校・・・100% 中学校・・・100%	① 体育・保健体育の授業が楽しい (小・中学校 100%) ■小学校 男子・・・78.5% 女子・・・61.6% 中学校 男子・・・65.3% 女子・・・43.8%	① 運動（体を動かす遊びを含む）スポーツをすることが好き (小・中学校 100%) ■小学校 男子・・・72.4% 女子・・・58.0% 中学校 男子・・・68.5% 女子・・・37.8%
② 調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善 (小・中学校 90%以上) ■肯定的回答の割合 小学校・・・100% 中学校・・・95.2%	② 1人1台端末を学校全体で共通の活用方法や活用内容を設定して取り組んでいる (小・中学校 100%) ■毎時間活用している又は週に1時間の回答割合 小学校・・・52.9% 中学校・・・85.7%	② 授業以外で、全ての児童生徒に体力・運動能力向上に係る取組を行った (小・中学校 100%) ■小学校・・・100% 中学校・・・100%

4 改善に向けた今後の方向性

(1) 年間複数回の検証改善サイクルの確立	(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改革	(3) 日常的な運動機会の創出
○ 学校教育指導訪問等「体力向上プラン」の検証改善サイクルの確立に関する指導助言及びそれらを踏まえた指導資料の作成 ○ 体育専科教員及び中学校体力向上推進教員と連携した管内課題の詳細な分析と情報発信	○ 局独自オンライン研修「SOYA ALL」の積極的周知及び内容の工夫 ○ 授業におけるICT活用の好事例の紹介	○ 「管内どさん子元気アップチャレンジ」の計画的実施と種目選択などの内容の工夫 ○ 体力向上に向け、学校・家庭・地域が連携した取組の好事例の収集と紹介

オホーツク管内の状況

3市14町1村

(小学校数:74校 児童数:1,890人、中学校数:49校 生徒数:1,850人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

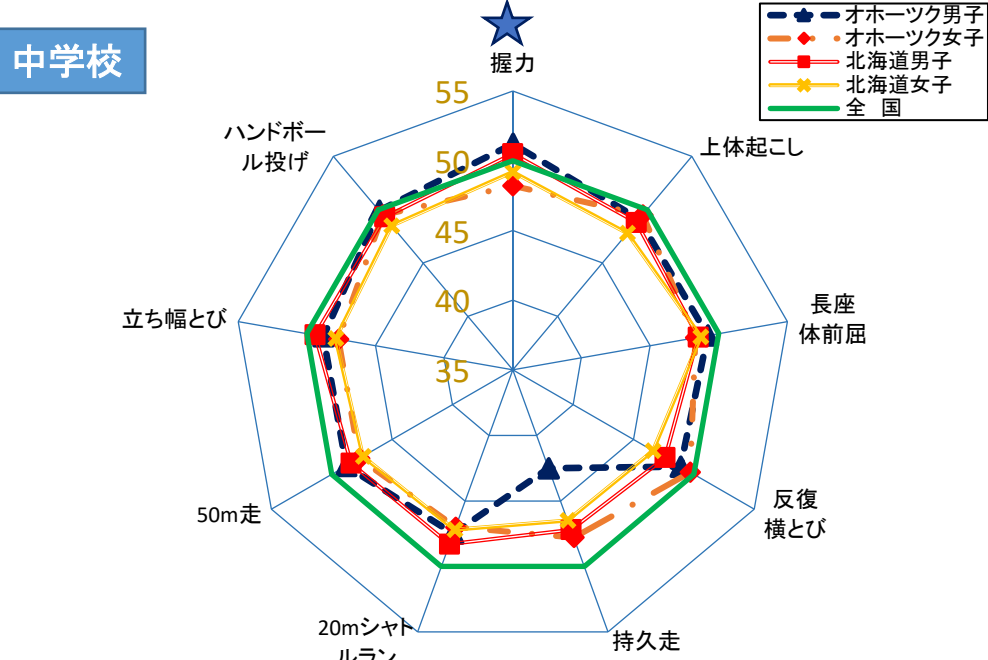
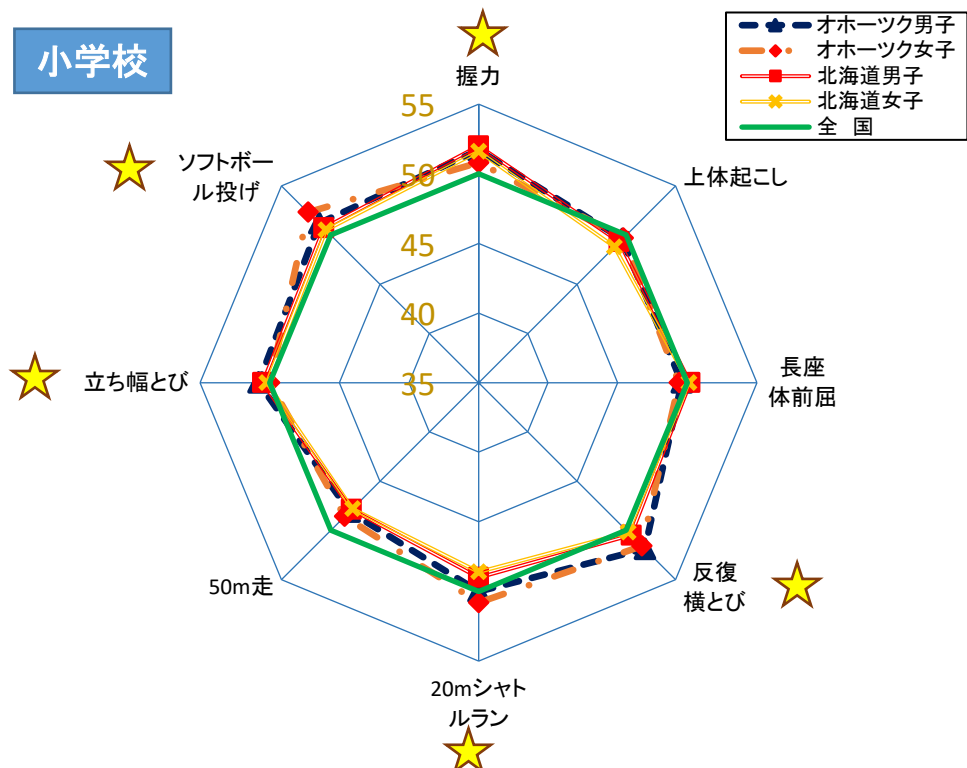
	男 子	女 子
オホーツク	52.84	54.21
北海道	52.32	53.37
全 国	52.53	53.92

○ 中学校

	男 子	女 子
オホーツク	40.79	44.90
北海道	40.18	43.96
全 国	41.86	47.37

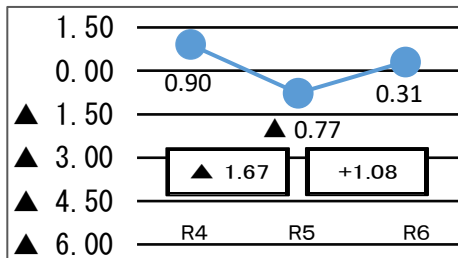
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ★ は男子のみ全国平均以上の種目 ★ は女子のみ全国平均以上の種目

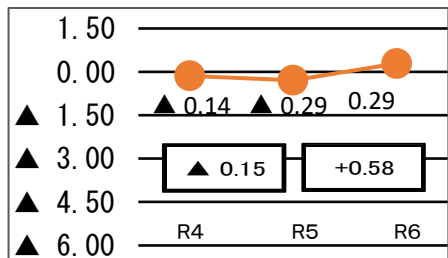


【体力合計点の全国との差とその推移】

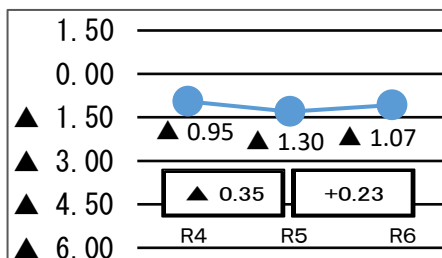
小学校男子



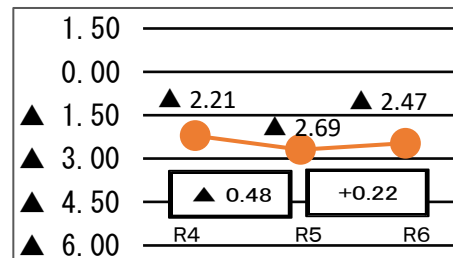
小学校女



中学校男子



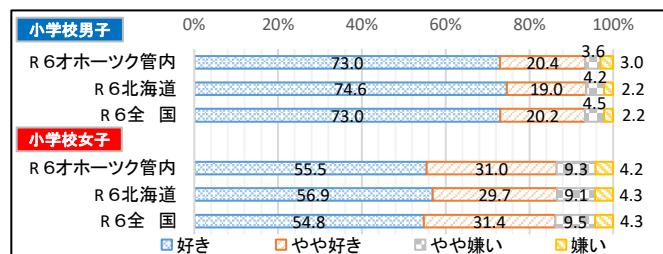
中学校女子



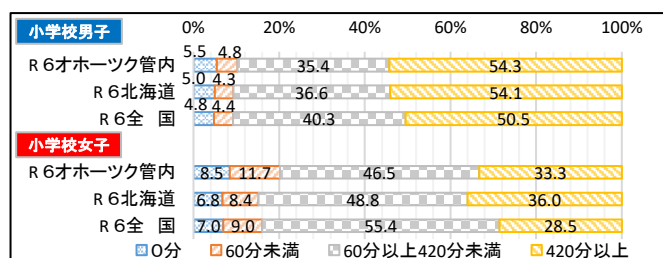
【質問紙調査の状況】

<児童生徒質問紙>

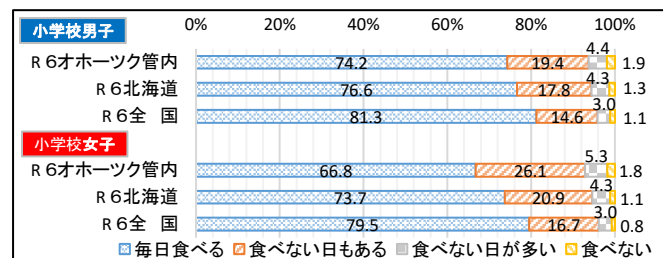
○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



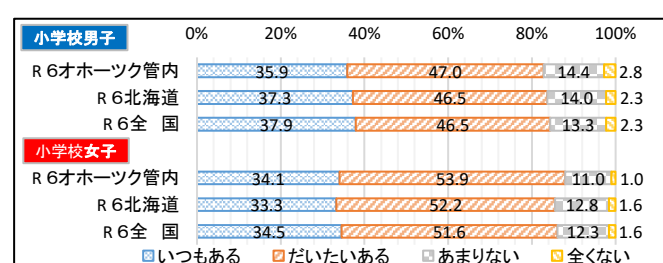
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそどのくらいの時間していますか。



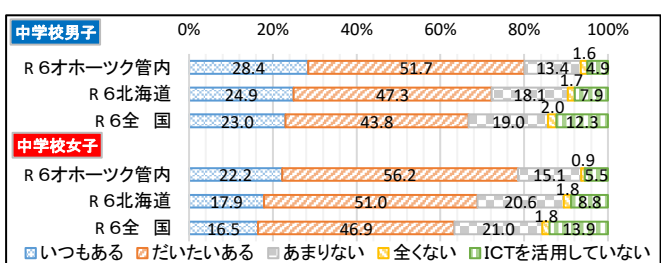
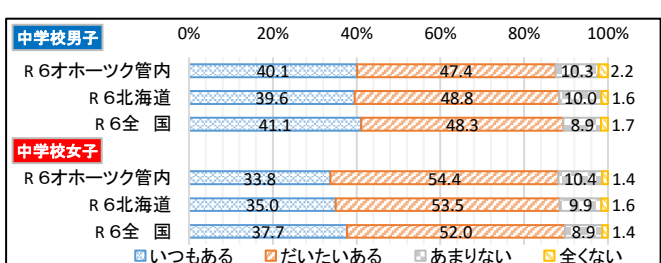
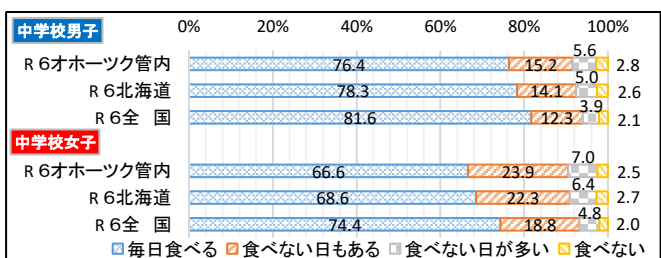
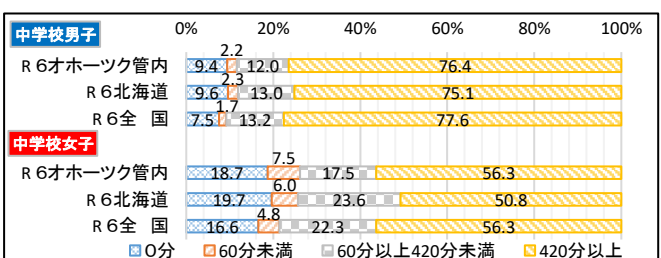
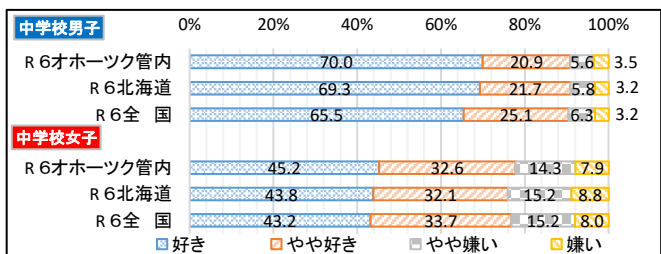
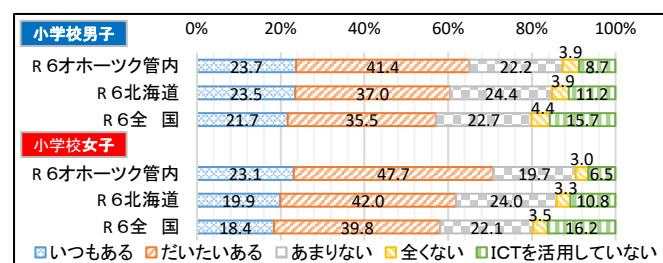
○ 朝食は毎日食べますか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

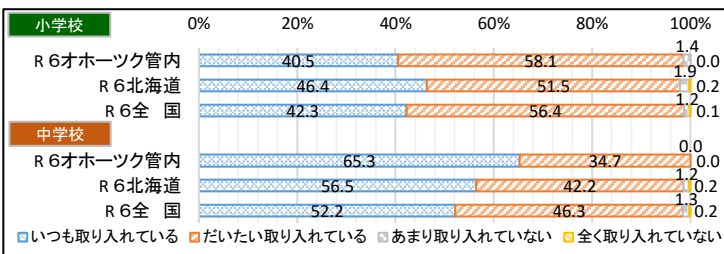


○ 体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

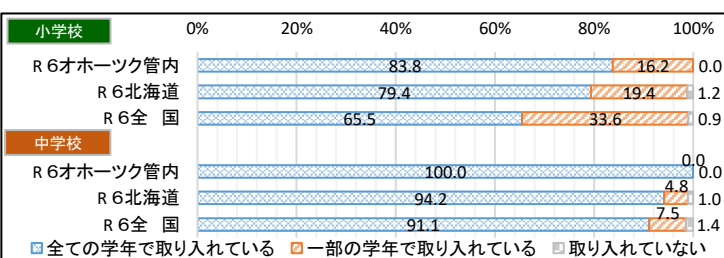


<学校質問紙>

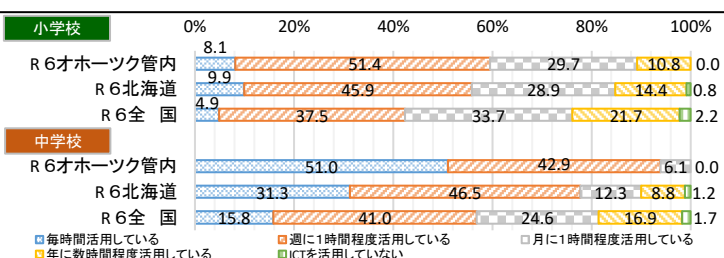
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れていますか。



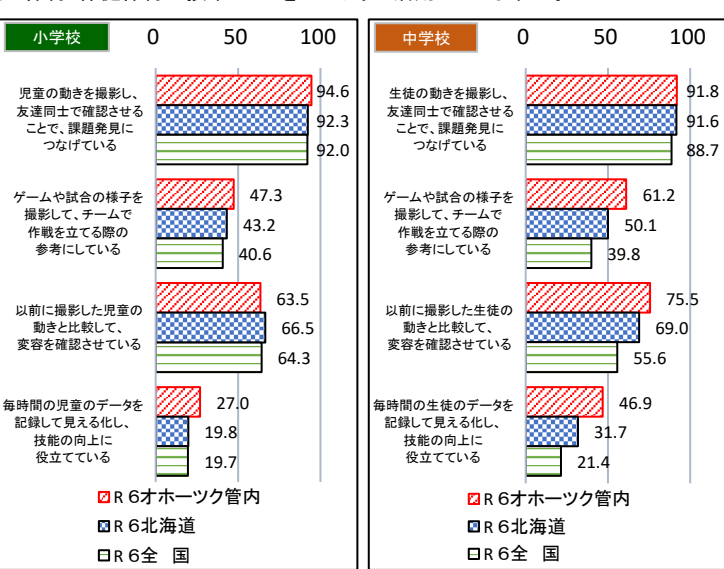
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で話し合う活動を取り入れていますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用していますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用していますか。



実技調査及び質問紙調査の分析			
＜ 小 学 校 ＞		＜ 中 学 校 ＞	
実技調査	○ 体力合計点は、男女ともに全国を上回り、全国と比較して、男子が0.31ポイント高く、女子が0.29ポイント高かった。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男女ともに４種目であり、昨年度の３種目を上回った。	実技調査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が1.07ポイント、女子が2.47ポイント低く、課題である。 ○ 体力合計点は、昨年度と比較して、男子が0.23ポイント、女子が0.22ポイント、全国との差を縮めた。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男子が１種目である。
質問紙調査	○ 「体育の授業で、児童同士で話し合う活動を全ての学年で取り入れている」と回答した学校の割合は、全国と比較して、18.3ポイント高いが、「体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、『できたり、わかったり』することがいつもある」と回答した児童の割合は、全国と比較して、男子で2.0ポイント、女子で0.4ポイント低く、課題である。	質問紙調査	○ 「保健体育の授業で、生徒同士で話し合う活動を全ての学年で取り入れている」と回答した学校の割合は、全国と比較して、8.9ポイント高いが、「保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、『できたり、わかったり』することがいつもある」と回答した生徒の割合は、全国と比較して、男子で1.0ポイント、女子で3.9ポイント低く、課題である。

オホーツク管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1)A 新体力テスト等の結果の分析を踏まえた体育・保健体育科の授業改善 (課題：●、改善策：□) ● 「運動やスポーツが苦手（嫌い）な傾向がある児童・生徒への指導の充実のためにしている取組として研究授業、授業研究を行っている」と回答した学校の割合が小学校で30％、中学校で60％程度にとどまっていることから、個に応じたきめ細かな指導の充実等、学校全体で授業改善を図る必要がある。 □ 新体力テスト等の結果を踏まえ、学校教育指導において体力・運動能力の向上に向けた学校全体の取組の充実に向け、継続的な指導助言を行う。 □ 体育エキスパート教員及び体育専科教員と連携し、学校訪問等において、学校課題の改善状況の確認と取組への指導助言を行う。	
(2)B 体育・保健体育授業以外の学校の創意工夫による取組の充実 ● 「体育・保健体育授業以外の学校の創意工夫による体力・運動能力の向上の取組を推進し、成果が表れた、もしくは成果が期待できる」と回答した学校の割合に小・中で差が見られることから、P D C Aサイクルの確立など、一層の取組の充実を図る必要がある。 □ 各種調査結果等を踏まえ「オホーツク運動プログラム」等の活用や、研修事業等を活用した授業改善の取組の充実が図られるよう指導助言を行う。	
(3)C 家庭や地域と連携を図った取組の充実 ● 「中学校進学後（卒業後）、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思う」と回答した児童生徒の割合が60％程度であることから、地域と連携した取組の一層の充実を図る必要がある。 □ 社会教育指導班と連携し、教育委員会及び地域住民への運動習慣形成に係る情報提供を行うとともに、学校と地域が連携した実践事例を、教育局W e b ページに掲載する。	

2 具体的な取組

月	(1)A 新体力テスト等の結果の分析を踏まえた体育・保健体育科の授業改善	(2)B 体育・保健体育授業以外の学校の創意工夫による取組の充実	(3)C 家庭や地域と連携を図った取組の充実
4		「オホーツク運動プログラム」取組（通年）	
5	学校教育指導（１次協議）において、学校課題を把握及び指導助言	学校教育指導（１次協議）において、「オホーツク運動プログラム」の活用を推進	「オホーツク運動プログラム」を教育局W e b 頁に掲載し、家庭での運動機会の確保を啓発
6	体育エキスパート教員及び体育専科教員による学校訪問に指導主事が同行し、学校課題の改善状況の確認及び指導助言	体育エキスパート教員及び体育専科教員による学校訪問において指導主事が同行し、「オホーツク運動プログラム」の活用状況を確認	「オホーツク管内スポーツ推進委員会連絡協議会」の実施及び各市町村における課題の明確化
7	↓	↓	市町村と連携した保護者向け研修会等の実施
8			
9	↓	↓	↓
10	学校教育指導（２次協議）において、学校課題の改善状況を確認	学校教育指導（２次協議）において、「オホーツク運動プログラム」の活用を推進	
11	体育エキスパート教員及び体育専科教員による学校訪問において、学校課題の改善状況の情報共有及び指導助言	体育エキスパート教員及び体育専科教員による学校訪問において、「オホーツク運動プログラム」の活用状況について情報共有	↓
12	↓ ↓	↓ ↓	
1			
2			「オホーツク管内スポーツ推進委員会連絡協議会」における成果及び課題の確認
3	新体力テスト等の結果を踏まえ、学校全体で体力・運動能力の向上を図る実践事例を教育局W e b 頁に掲載	「オホーツク運動プログラム」を活用した実践事例を教育局W e b 頁に掲載	体力向上に係る学校と地域が連携した実践事例を教育局W e b 頁に掲載

3 取組の評価

(1)A 新体力テスト等の結果の分析を踏まえた体育・保健体育科の授業改善 ①「運動やスポーツが苦手（嫌い）な傾向がある児童生徒への指導の充実のためにしている取組として研究授業、授業研究を行っている」 （R 6 全国調査<学校質問紙調査>） ■達成値：小…33.8％、中…63.3％ ②「調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善を行っている」 （R 6 全国調査<学校質問紙調査>） ・現 状：小… 92.2％、中…81.6％ ・目 標：小…100.0％、中…90.0％ ■達成値：小… 87.8％、中…77.6％	(2)B 体育・保健体育授業以外の学校の創意工夫による取組の充実 ①「体育・保健体育授業以外の学校の創意工夫による体力・運動能力の向上の取組を推進し、成果が表れた、もしくは成果が期待できる」（R 6 管内教育推進の取組柱 1 ⑦(2)） ・現 状：小… 89.6％、中…73.5％ ・目 標：小…100.0％、中…80.0％ ■達成値：小… 94.6％、中…85.8％ ②「体育授業以外で、全ての児童生徒の体力・運動能力の向上に係る取組を行った」(R 6 全国調査<学校質問紙調査>) ・現 状：小… 89.6％、中…67.3％ ・目 標：小…100.0％、中…70.0％ ■達成値：小… 90.5％、中…75.5％	(3)C 家庭や地域と連携を図った取組の充実 ①「中学校進学後（卒業後）、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思う」 （R 6 全国調査<児童生徒質問紙調査>） ・現 状：小（男子）…63.7％、小（女子）…52.1％ 中（男子）…61.7％、中（女子）…41.1％ ・目 標：小・中（男子）…70.0％ 小・中（女子）…60.0％ ■達成値：小（男子）…64.6％、小（女子）…57.1％ 中（男子）…62.8％、中（女子）…42.0％
---	---	--

4 改善に向けた今後の方向性

【●：課題、□：改善策】 ● 令和６年度全国調査学校質問紙調査において、「調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善を行っている」と回答した学校の割合が、小・中学校ともに昨年度に比べ低下している。 □ 新体力テスト等の各種調査結果の分析を踏まえ、体育・保健体育科の授業改善に学校全体で取り組むよう学校教育指導等で指導助言するとともに、各学校の状況に応じて、小学校体育エキスパート教員巡回事業等の好事例を示すなど、授業改善に向けた働き掛けを行う。	【●：課題、□改善策】 ● 令和６年度オホーツク管内教育推進の取組に係る年度末評価において、「体育・保健体育授業以外の学校の創意工夫による体力・運動能力の向上の取組を推進し、成果が表れた、もしくは成果が期待できる」と回答した学校の割合が、小学校において目標値を下回っている。 □ 「どさん子元気アップチャレンジ」の取組や「オホーツク運動プログラム」の活用等、授業以外の学校の創意工夫による１校１実践の取組の確実な実施等の体力向上策を推進し、運動機会の充実が図られるよう指導助言するとともに、P D C Aサイクルの確立に向けた働き掛けを行う。	【●：課題、□改善策】 ● 令和６年度全国調査児童生徒質問紙調査において、「中学校進学後（卒業後）、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思う」と回答した児童生徒の割合が昨年度に比べ上昇しているが、小・中学校ともに目標値を下回っている。 □ 社会教育指導班と連携し、地域と連携した取組の一層の充実を図るとともに、児童生徒の体力向上に向けた資料や運動を促すリーフレットを各研修会等で普及及び活用するなど、児童生徒の日常的な運動習慣の形成を図る。
---	---	--

十勝管内の状況

1市16町2村

(小学校数:83校 児童数:2,473人、中学校数:48校 生徒数:2,355人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

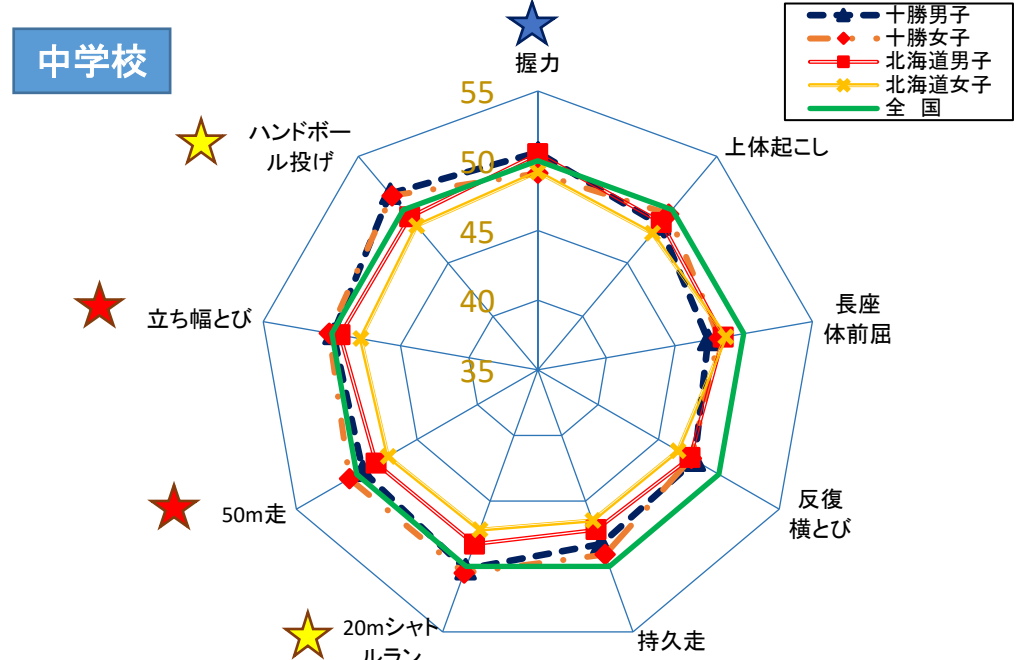
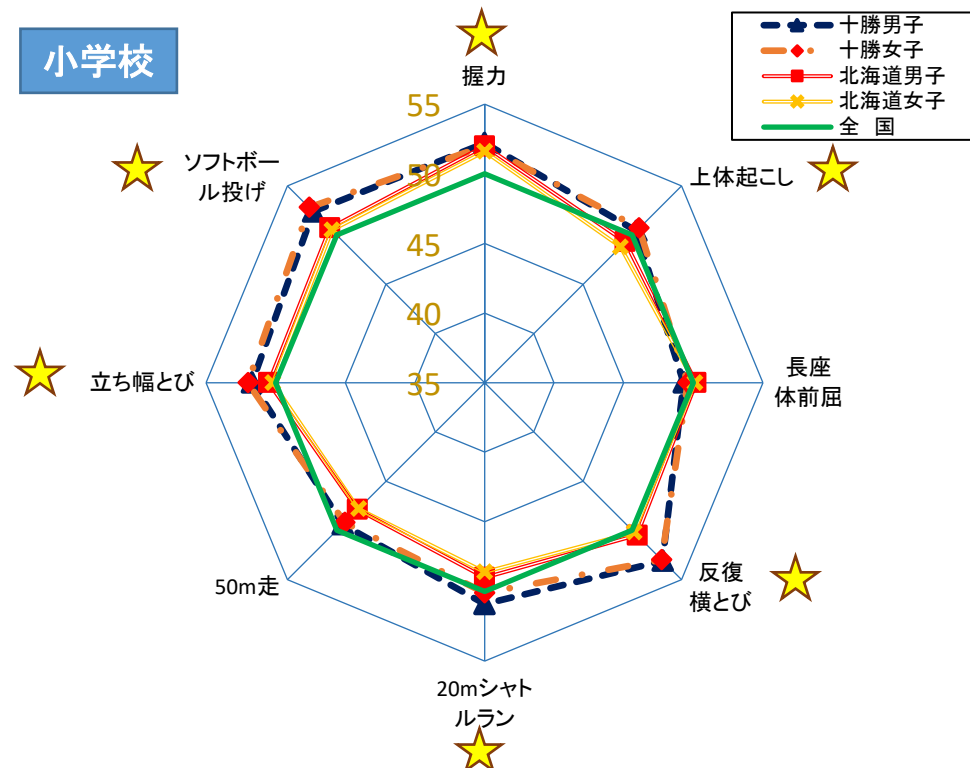
	男子	女子
十勝	53.84	55.27
北海道	52.32	53.37
全国	52.53	53.92

○ 中学校

	男子	女子
十勝	41.01	46.82
北海道	40.18	43.96
全国	41.86	47.37

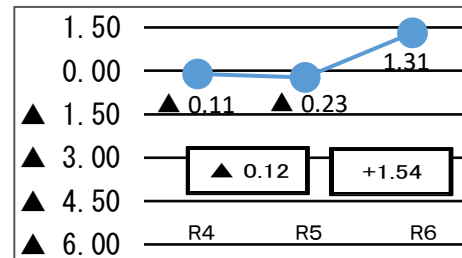
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ★ は男子のみ全国平均以上の種目 ★ は女子のみ全国平均以上の種目

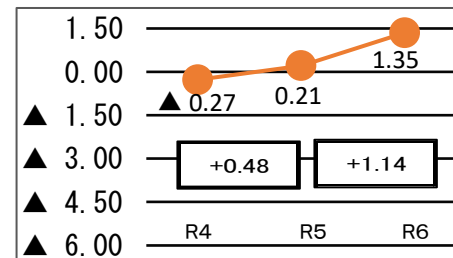


【体力合計点の全国との差とその推移】

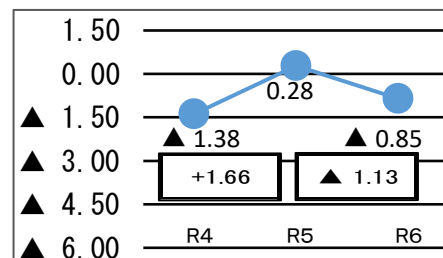
小学校男子



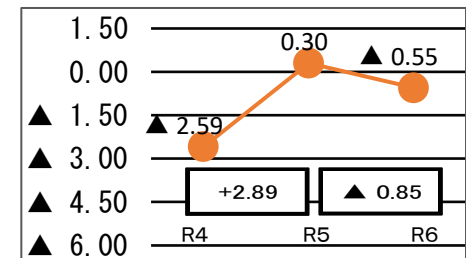
小学校女子



中学校男子



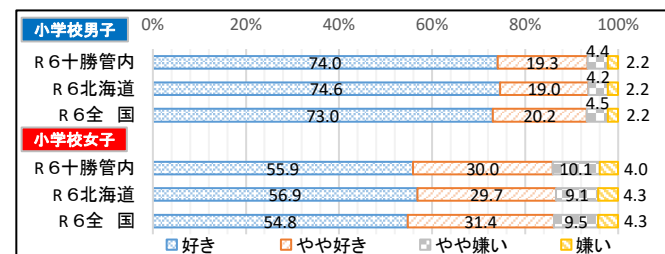
中学校女子



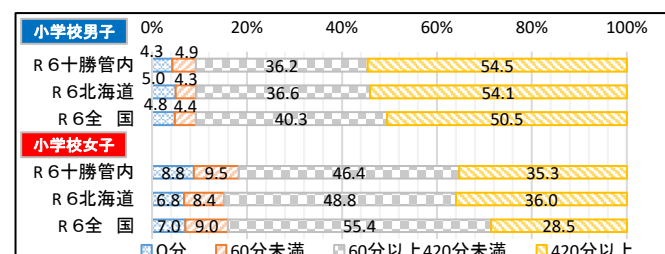
【質問紙調査の状況】

<児童生徒質問紙>

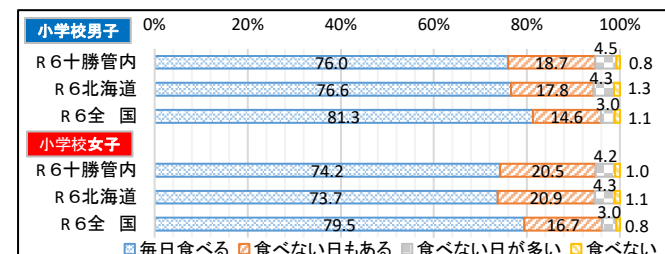
○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



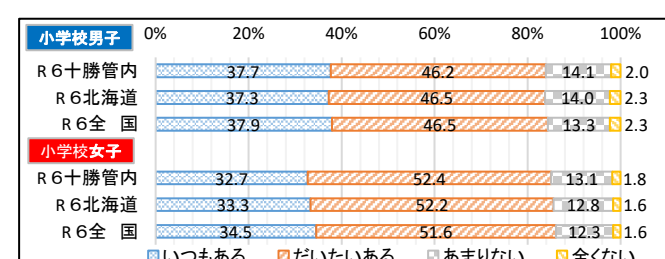
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそどのくらいの時間していますか。



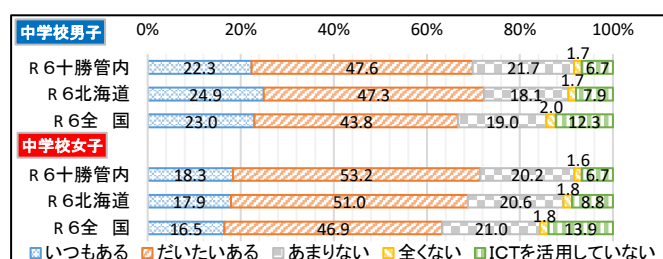
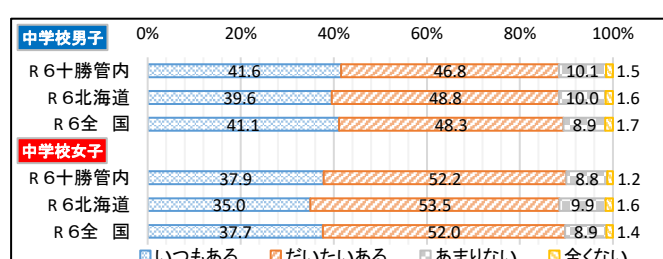
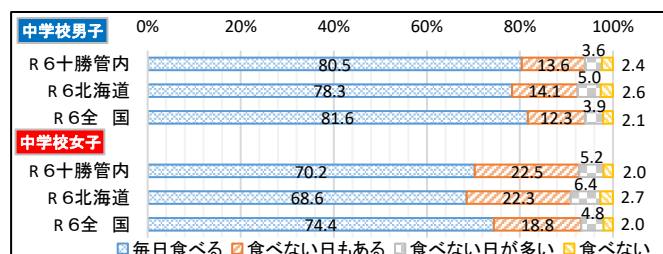
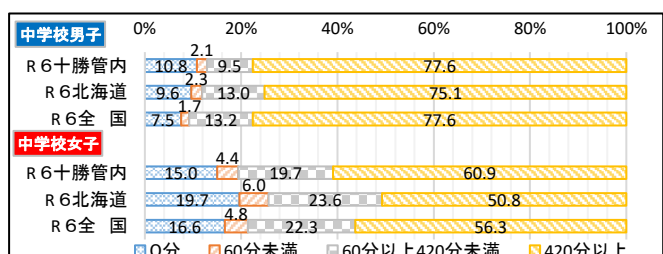
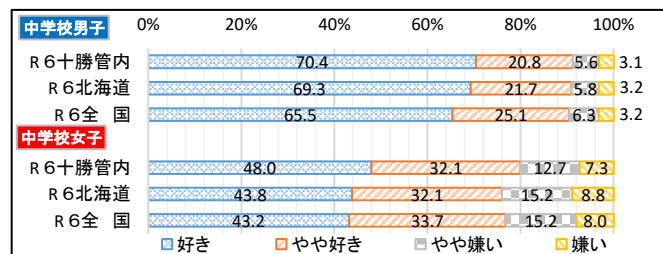
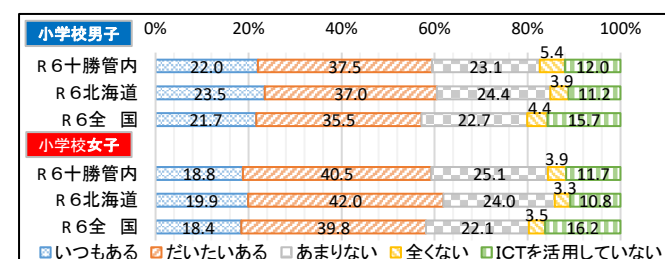
○ 朝食は毎日食べますか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

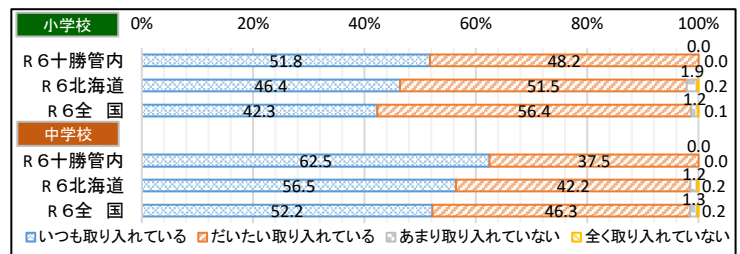


○ 体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

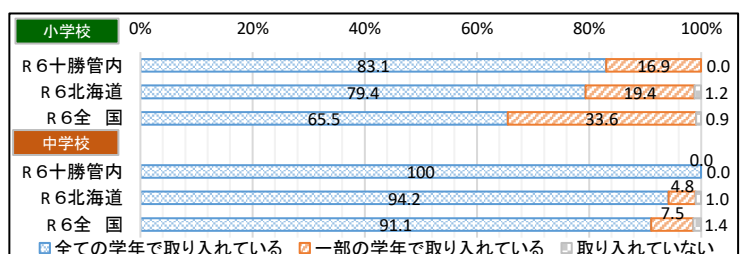


<学校質問紙>

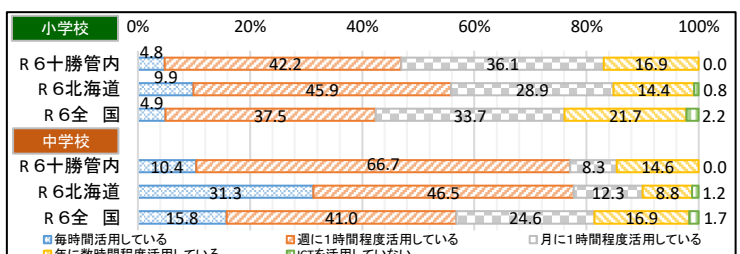
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れていますか。



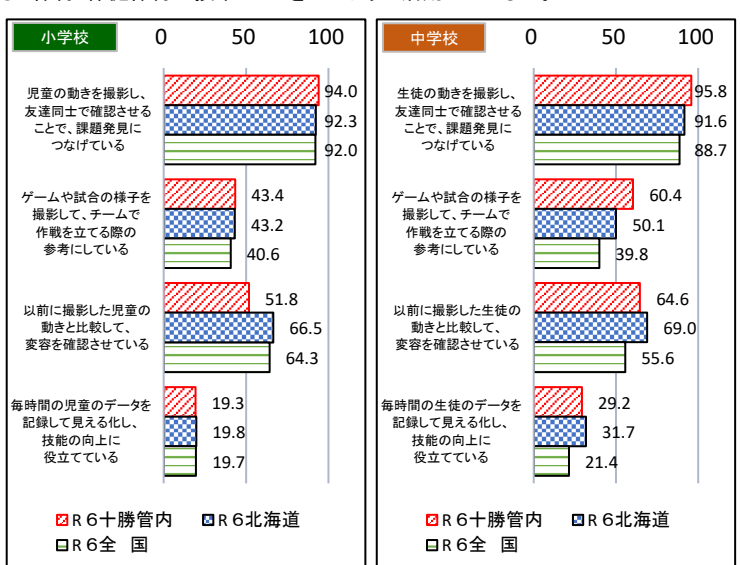
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で話し合う活動を取り入れていますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



実技調査及び質問紙調査の分析			
< 小 学 校 >		< 中 学 校 >	
実 技 調 査	各学校において、体育の授業で、児童同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れるとともに、ＩＣＴを活用し、児童の動きを撮影し、友達同士で確認させることで、課題発見につなげる活動を行ったことにより、「筋力」「筋持久力」「敏捷性」「全身持久力」「瞬発力」「巧緻性」に係る６種目において男女ともに全国平均を上回ったと考える。	実 技 調 査	各学校において、保健体育の授業で、生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れるとともに、ＩＣＴを活用し、ゲームや試合の様子を撮影して、チームで作戦を立てる際の参考にしたことにより、「全身持久力」「瞬発力」「巧緻性」に係る２種目において、男女ともに全国平均を上回り、「筋力」に係る１種目において男子が全国平均を上回り、「スピード」「瞬発力」に係る２種目において女子が全国平均を上回ったと考える。
質 問 紙 調 査	各学校において、体育の授業で、児童同士で話し合う活動を取り入れたことにより、男女ともに、運動やスポーツをすることは好きと回答した児童の割合が全国平均を上回るとともに、授業以外で運動やスポーツを１週間で420分以上していると回答した児童の割合が全国平均を上回ったと考える。	質 問 紙 調 査	各学校において、保健体育の授業で、生徒同士で話し合う活動を取り入れたことにより、男女ともに、運動やスポーツをすることは好きと回答した生徒の割合が全国平均を上回るとともに、保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがいつもあると回答した生徒の割合が全国平均を上回ったと考える。

十勝管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1)A 検証改善サイクルの実質化・迅速化 ■児童生徒の体力・運動能力の向上のための学校全体の目標を設定している学校の割合が100%となっていないことから、全国体力・運動能力、運動習慣等調査や新体力テストの結果を踏まえた検証改善サイクルの実質化・迅速化を組織的に推進する必要がある。 ☐ 新体力テストの全学年、全種目、複数回実施による同集団の変容への着目に向けた指導助言 ☐ 総合評価がD、Eの児童生徒への手立ての検討・実施に係る指導助言	
(2)B 授業改善の推進 ■体育、保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」すると感じる児童の割合が全国平均を下回ったことから、児童生徒が達成感をもてるよう、ICTを活用した授業改善を図る必要がある。 ☐ 小学校体育専科教員、エキスパート教員、スペシャリスト教員の学校訪問による授業改善に資する指導助言 ☐ ICTの効果的な活用に係る研修に役立つ動画の作成やそれに基づく授業改善に資する指導助言	
(3)C 運動習慣形成のための環境整備 ■体育の授業以外の運動やスポーツの時間が一週間で0分の児童生徒の割合が10%以上であることから、児童生徒が日常的に体を動かしていることを実感できる環境を意図的に整備する。 ☐ 小学校体育専科教員、エキスパート教員、スペシャリスト教員の学校訪問による児童生徒が日常的に体を動かしていることを実感できる取組についての情報提供 ☐ 管内教科研究団体と連携し、児童生徒が日常的に体を動かしていることを実感できている好事例の情報を共有するとともに、学校教育指導訪問で情報提供	

2 具体的な取組

月		(1)A 検証改善サイクルの確立	(2)B 授業改善の推進	(3)C 運動習慣形成のための環境整備
4	C			
5			小学校体育専科教員、エキスパート教員、スペシャリスト教員の学校訪問による授業改善に資する指導助言を行うとともに、管内教科研究団体と連携し、児童生徒が日常的に体を動かしていることを実感できている好事例の情報を共有する。	
6	A	学校教育指導訪問において、新体力テストの全学年、全種目、複数回実施による同集団の変容への着目及び総合評価がD、Eの児童生徒への手立ての検討・実施に係る指導助言を行う。 ☐		学校教育指導訪問において、児童生徒が日常的に体を動かしていることを実感できる取組状況について把握する。
7	P	全国体力・運動能力、運動習慣等調査及び新体力テストの実施		
8	D			
9			新体力テストの実施	
10	C		学校教育指導訪問において、十勝教育局が作成した思考力・判断力・表現力等を見取る授業改善に資する動画資料に基づく指導助言を行う。	学校教育指導訪問において、児童生徒が日常的に体を動かしていることを実感できる好事例の情報提供を行う。
11				
12	A	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の提供等		
1	P	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の北海道における調査結果を基に管内の調査結果を分析するとともに、体力向上に係る取組の方向性の検証を行う。		
2	D	教育委員会訪問において、全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を踏まえた年間指導計画の改善状況及び各学校における組織的な体力向上マネジメントの進捗状況を管理職と共有し、次年度の取組の方向性を明確にする。		
3				

3 取組の評価

(1)A 検証改善サイクルの実質化・迅速化 ①生徒の体力・運動能力の向上のための学校全体の目標を設定していた学校の割合 ・現状 小・・・96.4% 中・・・93.8% ・目標 小・・・100.0% 中・・・100.0% ・達成 小・・・100.0% 中・・・100.0% ②全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を踏まえた取組を行った学校の割合 ・現状 小・・・88.1% 中・・・75.0% ・目標 小・・・90.0% 中・・・80.0% ・達成 小・・・91.6% 中・・・91.7%	(2)B 授業改善の推進 ①体育、保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」すると感じる児童生徒の割合 ・現状 小・・・82.6% 中・・・88.7% ・目標 小・・・90.0% 中・・・90.0% ・達成 小・・・84.5% 中・・・89.2% ②体育及び保健体育の授業は楽しいと考える児童生徒の割合 ・現状 小・・・68.8% 中・・・56.2% ・目標 小・・・70.0% 中・・・60.0% ・達成 小・・・65.9% 中・・・50.2%	(3)C 運動習慣形成のための環境整備 ①体育の授業以外の運動やスポーツの時間が一週間で60分以上の児童生徒の割合 ・現状 小・・・86.1% 中・・・82.6% ・目標 小・・・90.0% 中・・・90.0% ・達成 小・・・86.3% 中・・・84.0% ②運動は大切なものだ実感できている児童生徒の割合 ・現状 小・・・72.6% 中・・・66.0% ・目標 小・・・80.0% 中・・・70.0% ・達成 小・・・72.3% 中・・・63.3%
---	--	---

4 改善に向けた今後の方向性

(1)A 検証改善サイクルの実質化・迅速化 ・令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査学校質問紙調査において、生徒の体力・運動能力の向上のための学校全体の目標を設定し、全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を踏まえた取組を行った学校の割合が小・中学校ともに目標値を達成したことから、引き続き全国体力・運動能力、運動習慣等調査や新体力テストの結果を踏まえた検証改善サイクルの実質化・迅速化の組織的な推進に向け、新体力テストの全学年、全種目、複数回実施による同集団の変容への着目や総合評価がD、Eの児童生徒への手立ての検討・実施を進める。	(2)B 授業改善の推進 ・令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査児童生徒質問紙調査において、体育、保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」すると感じる児童生徒の割合が増加するなど授業改善の推進が図られているが、目標値を達成してないことや、体育及び保健体育の授業は楽しいと考える児童生徒の割合が減少したことから、児童生徒が達成感をもてるよう、ＩＣＴを活用した授業改善や作成した動画に基づく授業改善を図る。	(3)C 運動習慣形成のための環境整備 ・令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査児童生徒質問紙調査において、体育の授業以外の運動やスポーツの時間が一週間で60分以上の児童生徒の割合が増加する一方、0分の生徒の割合が10%以上であるとともに、運動は大切なものだ実感できている児童生徒の割合が減少したことから、児童生徒が日常的に体を動かしていることを実感できるよう、体育を専科とする教員、小学校体育エキスパート教員、中学校体育授業実践スペシャリストの学校訪問において児童生徒が日常的に体を動かしていることを実感できる取組について情報提供を行うとともに、管内の教科研究団体と連携し、好事例の情報の共有を進める。
---	--	---

釧路管内の状況

1市6町1村

(小学校数:54校 児童数:1,377人、中学校数:36校 生徒数:1,301人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

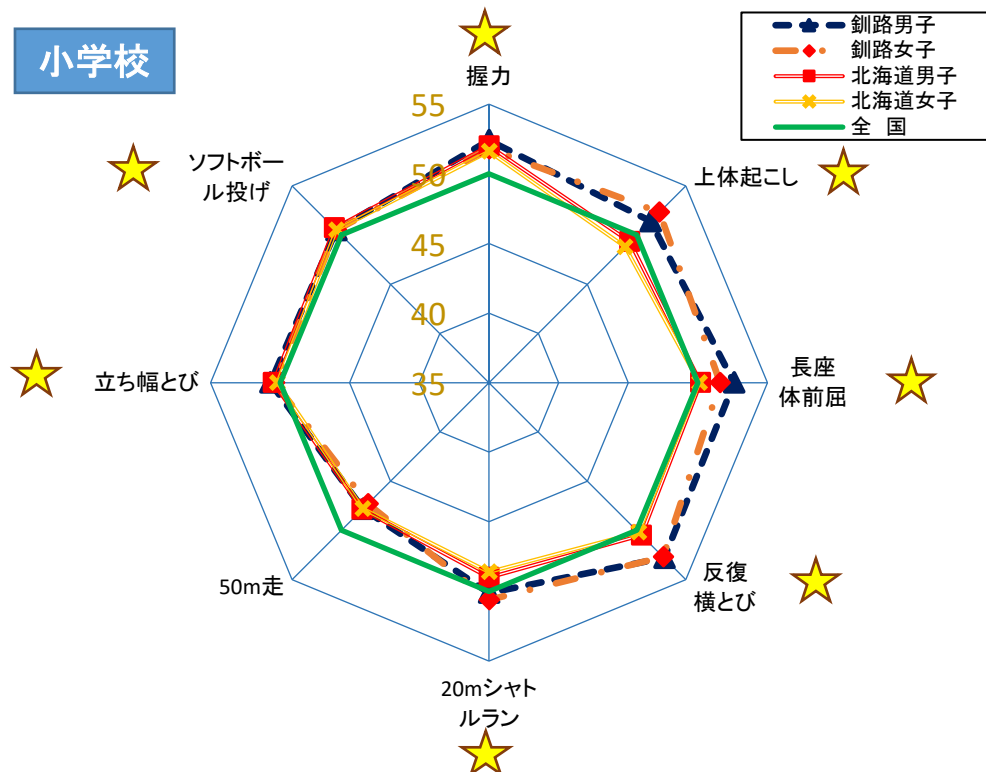
	男子	女子
釧路	53.78	55.02
北海道	52.32	53.37
全国	52.53	53.92

○ 中学校

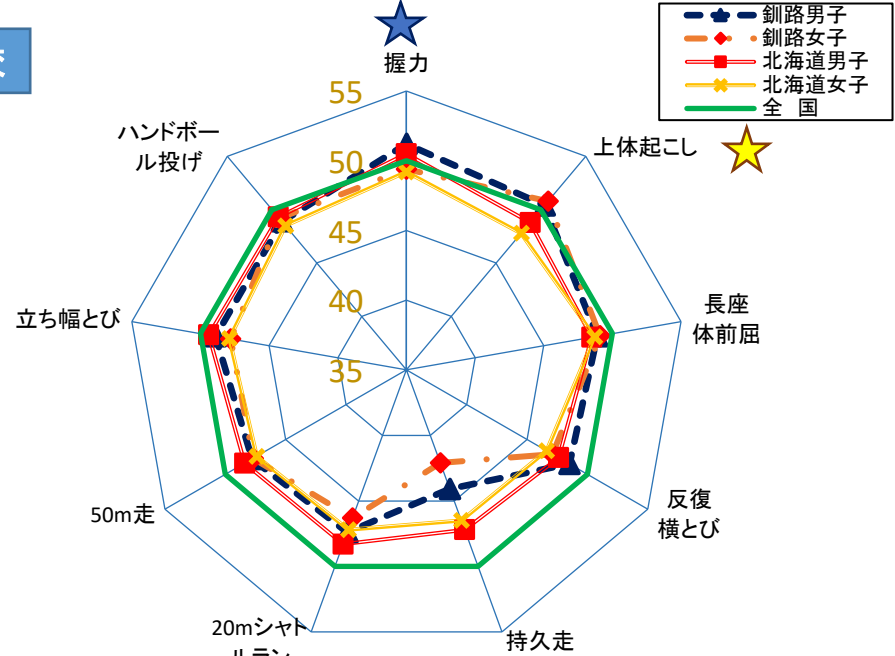
	男子	女子
釧路	40.42	44.44
北海道	40.18	43.96
全国	41.86	47.37

【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ★ は男子のみ全国平均以上の種目 ★ は女子のみ全国平均以上の種目

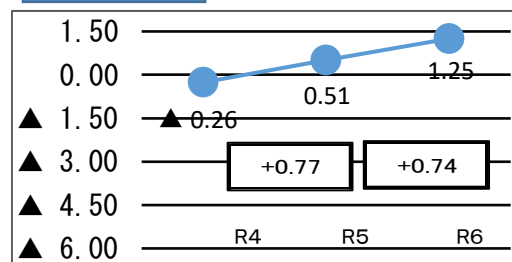


中学校

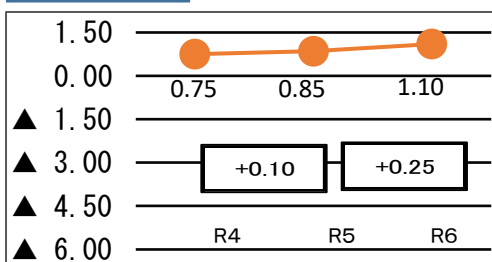


【体力合計点の全国との差とその推移】

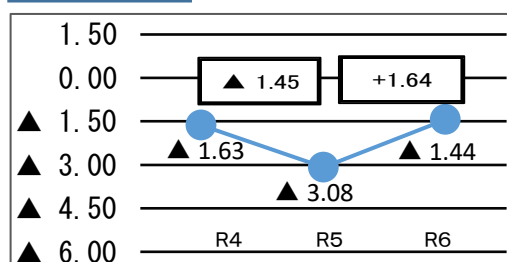
小学校男子



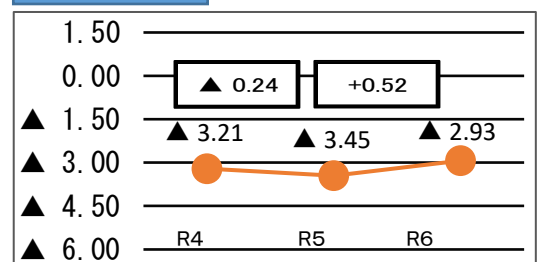
小学校女子



中学校男子



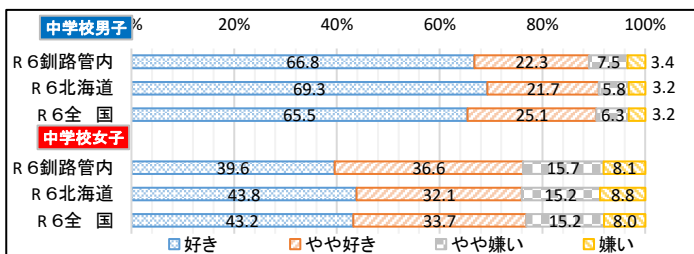
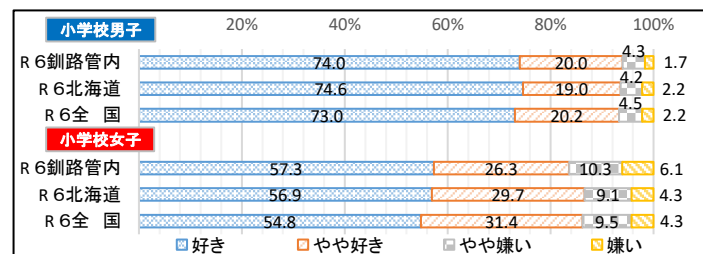
中学校女子



【質問紙調査の状況】

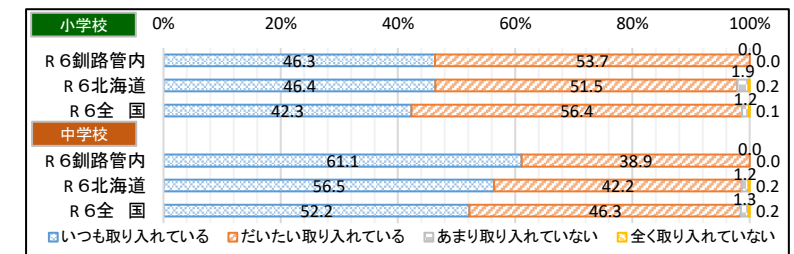
<児童生徒質問紙>

○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。

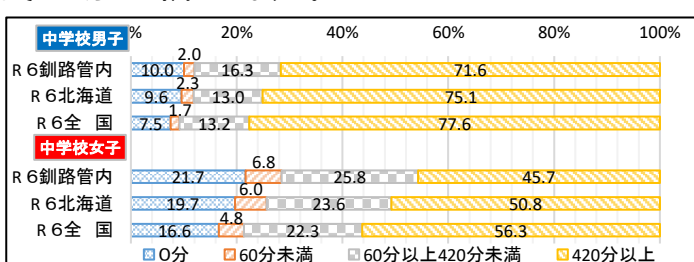
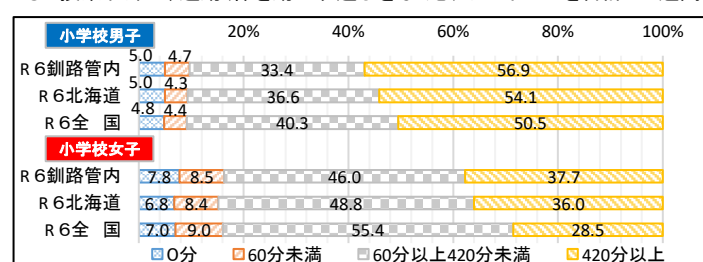


<学校質問紙>

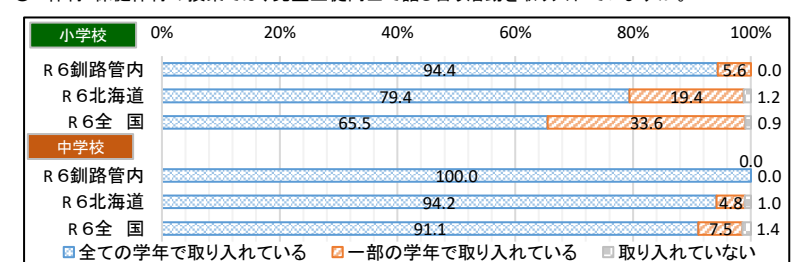
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れていますか。



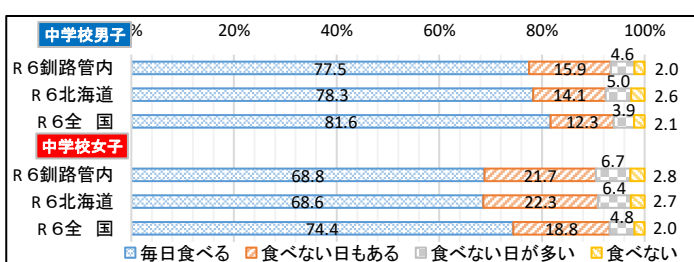
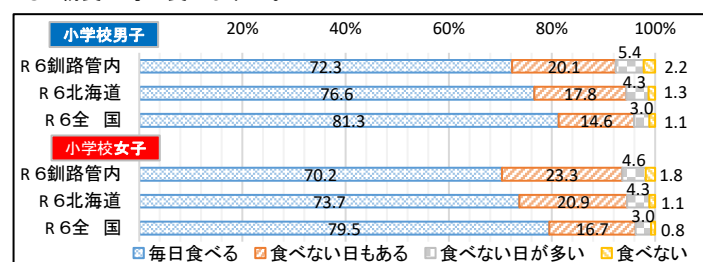
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそどのくらいの時間していますか。



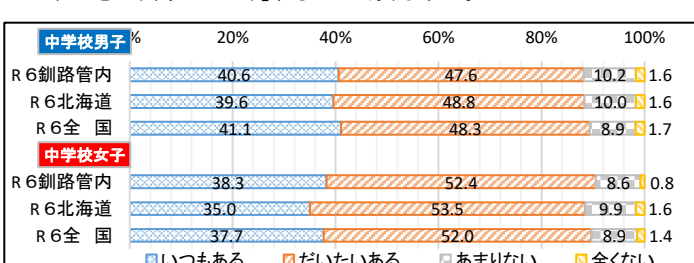
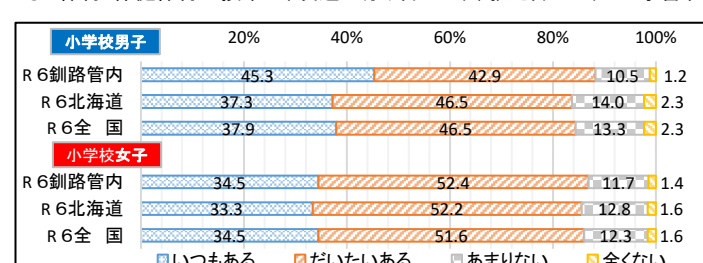
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で話し合う活動を取り入れていますか。



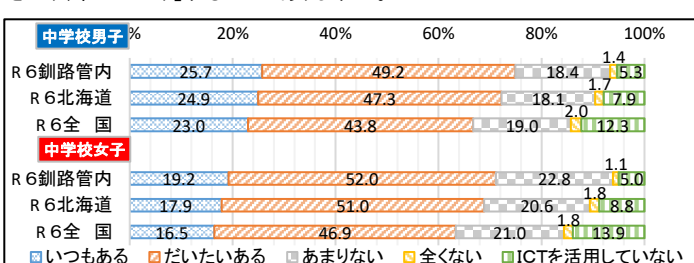
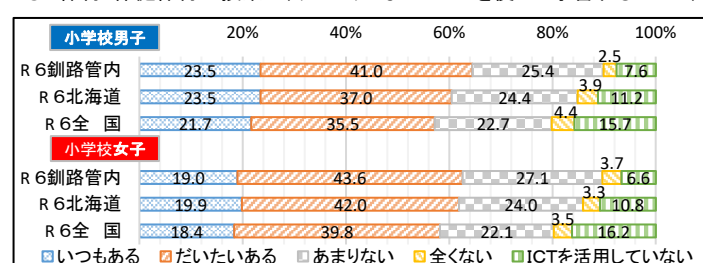
○ 朝食は毎日食べますか。



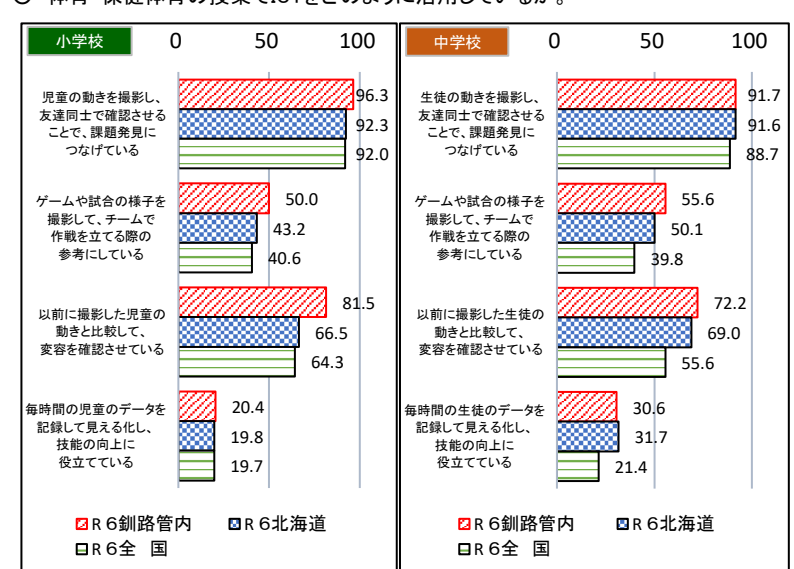
○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



○ 体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



実技調査及び質問紙調査の分析			
＜ 小 学 校 ＞		＜ 中 学 校 ＞	
実 技 調 査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が1.25ポイント、女子が1.10ポイント高い。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男子、女子ともに7種目である。 ○ 体力合計点は、男女ともに継続して全国を上回っている。	実 技 調 査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が1.44ポイント、女子が2.93ポイント低い。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男子2種目、女子1種目である。 ○ 体力合計点は、男女ともに継続して全国を下回っているものの、男女ともに、差が縮小している。
質 問 紙 調 査	○ 「令和5年度の調査の結果を踏まえた取組をしている」と回答した学校の割合は、全国を上回っている。「体育の授業で進んで参加している」と回答した児童の割合は、男女ともに全国を上回っている。 ○ 体育授業において「目標を児童に示す活動」「振り返り活動」「児童同士で話し合う活動」をしていると回答した学校の割合は全国を上回っており、「体育の授業で目標を意識した学習で『できたり、わかったり』する」と回答した児童の割合は、男女ともに全国を上回っている。 ○ 「体育授業以外で、全ての児童の体力・運動能力の向上に係る取組を行った」と回答した学校の割合は全国を上回っており、「卒業後も授業以外で自主的に運動したい」と回答した児童の割合は、女子で全国を上回っているが、男子で全国を下回っている。また、「平日、学習以外で、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ている時間が5時間以上」と回答した児童の割合は、男女ともに全国を上回っている。	質 問 紙 調 査	○ 「令和5年度の調査の結果を踏まえた取組をしている」と回答した学校の割合は、全国を上回っており、「運動は好き」「運動は大切」と回答した児童の割合は、男子で全国を上回っているが、女子で全国を下回っている。 ○ 体育授業において「目標を生徒に示す活動」「振り返り活動」「生徒同士が助け合い、役割を果たす活動」「生徒同士で話し合う活動」をしていると回答した学校の割合は全国を上回っているが、「保健体育の授業は楽しい」「保健体育の授業で、進んで学習に参加している」と回答した生徒の割合は男女ともに全国を下回っている。 ○ 「体育授業以外で、全ての児童の体力・運動能力の向上に係る取組を行った」と回答した学校の割合は全国を上回っているが、「卒業後も自主的に運動したい」と回答した生徒の割合は、男女ともに全国を下回っている。また、「授業以外で運動やスポーツを合計で1週間に420分以上している」と回答した生徒の割合は、男女ともに全国を下回っている。

釧路管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1)A 検証改善サイクルの充実など、カリキュラムマネジメントの推進 ■ 「調査結果を踏まえた取組を行った」と回答した学校の割合は小・中ともに全国以上であるが、実技調査の経年変化では、中学校において多くの項目で全国平均を下回る状況が続いているとともに、小学校の段階よりも体力合計点の低下が見られる。 □ 重点校等における体力向上に係る学校課題の改善に向けた方向性と具体策を明確化し、学校の自走を促すとともに、教育支援課便りによる好事例の発信を通して、管内の体力向上に係る検証改善サイクルの確立を促す。	
(2)B 体育・保健体育科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ■ 「体育・保健体育の授業が楽しい」と回答した児童生徒の割合は、全国平均を上回っているものの、「目標を意識して学習することで『できたり、わかったり』することがある」と回答した児童生徒の割合は、小学校及び中学校男子で全国平均を下回っており、体力合計点も多くの項目で下回っていることから、授業における指導事項と活動が正対していない可能性がある。 □ 学校教育指導や体育専科教員、体育エキスパート教員、推進教員等を講師とした局独自研修会を実施し、児童生徒が運動やスポーツの特性や魅力に応じて楽しさや喜びを味わうことができる「指導と評価の計画」への共通理解を図る。	
(3)C 日常的に運動に親しむ環境づくりの充実 ■ 「体育の授業以外での、体力・運動能力の向上に係る取組を全ての児童生徒に対して行った」と回答した学校の割合は全国以上であるが、「運動やスポーツをすることが（やや）好き」と回答した児童生徒は、小学校で全国平均を下回り、「授業以外で、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツを合計で1週間60分以上している」と回答した割合は、小学校男子、中学校男女で全国平均を下回っている。 □ どんさん元気アップチャレンジやリズム運動動画作成の推奨、児童生徒が日常的に運動に親しむ環境づくりに係る「一校一実践」を教育支援課便りで発信し、授業づくりとの往還を図る。	

2 具体的な取組

月	(1)A検証改善サイクルの充実など、カリキュラムマネジメントの推進	(2)B 体育・保健体育科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	(3)C日常的に運動に親しむ環境づくりの充実
4	ASIRU 体力向上推進プロジェクト		
5	学校経営指導、学校教育指導、オンライン相談、「教育支援課便りASIRU」の発行、具体的な3つの改善策に係る具体的な取組を関連付けた一体的な取組を通して、管内の体力向上を図る。	児童生徒が運動やスポーツの特性や魅力を実感する授業の充実に向けた基盤づくり ○授業における発達支持的生徒指導の充実 ○体力向上プランに基づく具体的な実践	
6	検証改善サイクルの確立に向けた基盤づくり ○小学校体力向上等推進事業に係る訪問指導①	学校教育指導訪問(計画訪問①)5月～8月	
7			どんさん元気アップチャレンジの実施
8			
9	オンライン相談等による取組の検証改善 ・小学校体力向上等推進事業指定校・協力校 ・中学校体力向上推進事業推進校	児童生徒が運動やスポーツの特性や魅力を実感する授業の充実に向けた手立ての具体化 ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実① ○中学校授業実践・改善セミナー	児童生徒が運動やスポーツの特性や魅力を実感する授業の充実に向けた環境整備① ○教育支援課便り「ASIRU」による好事例の発信
10			
11	学校教育指導訪問(計画訪問②)10月～12月		
12	検証改善サイクルの質的向上に向けた取組の共有化 ○小学校体力向上等推進事業に係る訪問指導② ○EBE体育協議会	児童生徒が運動やスポーツの特性や魅力を実感する授業実践の共有化 ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実② ○釧路管内体育授業改善研修会	児童生徒が運動やスポーツの特性や魅力を実感する授業の充実に向けた環境整備② ○教育支援課便り「ASIRU」による好事例の発信
1			
2	教育支援課便り「ASIRU」の発行による体力向上に係る取組の成果の発信・普及		
3	各学校における児童生徒が運動やスポーツの特性や魅力を実感する授業の充実に向けた検証改善サイクルの確立		

3 取組の評価 ※（ ）は目標値

(1)A 検証改善サイクルの充実など、カリキュラムマネジメントの推進 ●推進の重点に基づく自己評価＊各項目4点満点 ①体力向上に向けた検証改善サイクルの継続的な推進 (小学校3.60、中学校3.60) ■小学校3.41、中学校3.56 ②体力・運動能力の課題や子どもの実態を踏まえた体力向上の取組における検証改善サイクルの充実 (小学校3.60、中学校3.60) ■小学校3.52、中学校3.25	(2)B 体育・保健体育科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ●推進の重点に基づく自己評価＊各項目4点満点 ①運動等が好きな子どもの育成を目指した体育・保健体育授業の改善・充実（小学校3.60、中学校3.60） ■小学校3.59、中学校3.47 ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 (小学校3.60、中学校3.60) ■小学校3.33、中学校3.33	(3)C 日常的に運動に親しむ環境づくりの充実 ●推進の重点に基づく自己評価＊各項目4点満点 ①体力・運動能力の課題や子どもの実態を踏まえた体力向上の取組の充実（環境づくり） (小学校3.60、中学校3.60) ■小学校3.52、中学校3.25
□ 重点校における独自アンケートで「体育の授業が好き」「運動やスポーツをすることが好き」の設問に肯定的に回答した児童生徒の割合（7割以上） a.体育の授業が好き ■小学校体力向上等推進重点校75.8% b.運動やスポーツをすることが好き ■小学校体力向上等推進重点校69.7%		

4 改善に向けた今後の方向性

(1) 検証改善サイクルの充実など、カリキュラムマネジメントの推進 □ 「体力向上に向けた検証改善サイクルの継続的な推進」については、小・中ともに昨年度より低下している。 →学校教育指導訪問等における指導主事等の指導助言を通して、体力向上に向けた学校課題の改善に向けた方向性と具体策を明確にするとともに、取組の充実を図る。 □ 「体育・運動能力の課題や子どもの実態を踏まえた体力向上の取組における検証改善サイクルの充実」については、小・中ともに低下している。 →小学校体力向上等推進事業に係る指導訪問を実施し、児童生徒の体力や運動習慣等に関わる現状把握や分析方法、評価時期や評価方法、年度途中の取組改善の在り方などについて、普及啓発を図る。	(2) 体育・保健体育科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 □ 「運動等が好きな子どもの育成を目指した体育・保健体育授業の改善・充実」については、小学校は昨年度より改善しているが、中学校は昨年度より低下している。 →小学校体力向上等推進事業に係る訪問指導を通して、児童生徒が運動の特性や魅力に応じて、運動の楽しさや喜びを味わうことができる「指導と評価の計画」への共通理解を図る。 □ 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」については、小・中ともに目標値との差が大きい。 →児童が自己の課題に応じて主体的に取り組んだり、友達と関わりながら意思決定する場面を意図的・計画的に位置付けるなどの単元デザインの工夫や、ICTを適切に活用した授業改善への共通理解を図る。	(3) 日常的に運動に親しむ環境づくりの充実 □ 「体力・運動能力の課題や子どもの実態を踏まえた体力向上の取組の充実」については、中学校において目標値との差が大きい。 →どんさん元気アップチャレンジやリズム運動動画作成の推奨、道立ネイバル等と連携した地域の自然を生かした体験活動の推進を通して、好事例を支援課便りで共有する。
--	---	--

根室管内の状況

1市4町

(小学校数:24校 児童数:541人、中学校数:20校 生徒数:471人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

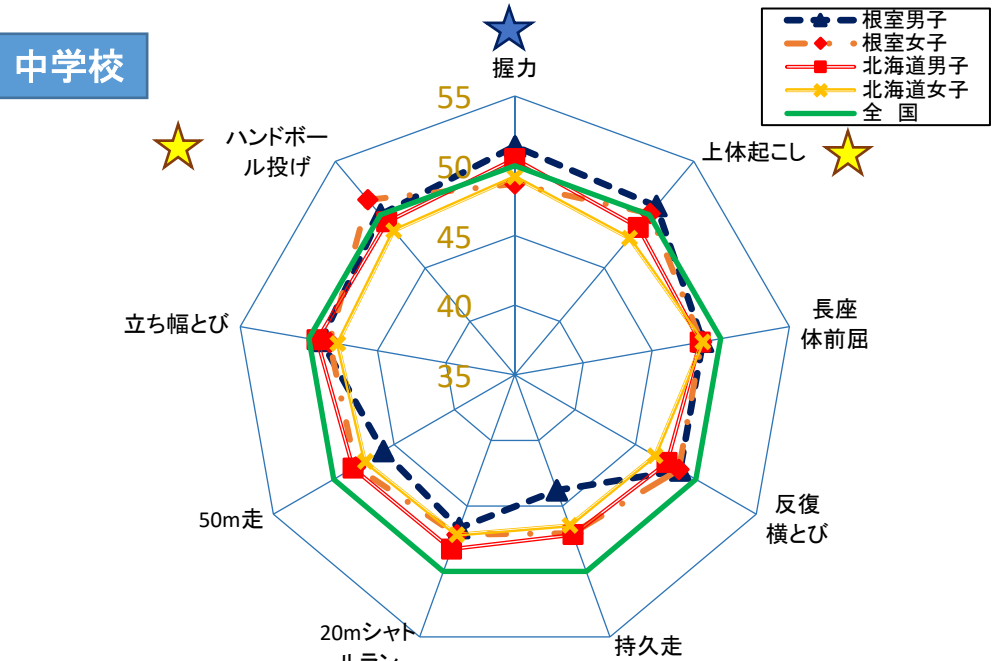
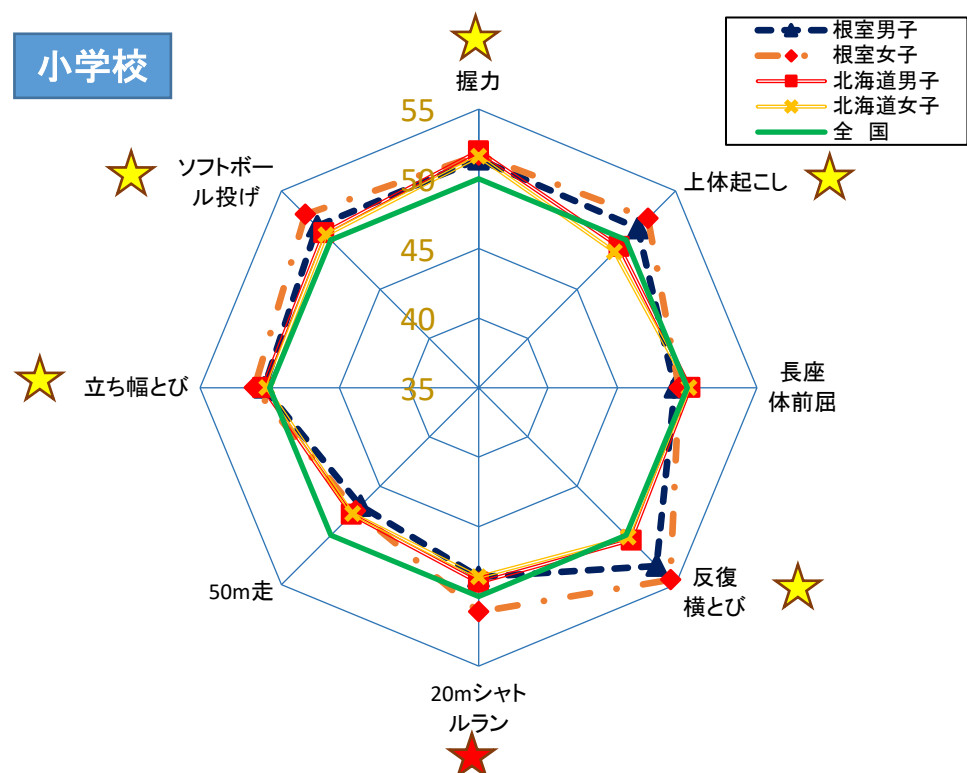
	男子	女子
根 室	52.58	55.82
北海道	52.32	53.37
全 国	52.53	53.92

○ 中学校

	男子	女子
根 室	40.71	46.01
北海道	40.18	43.96
全 国	41.86	47.37

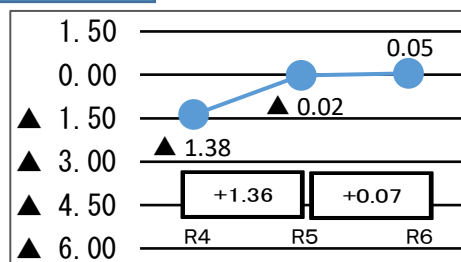
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ★ は男子のみ全国平均以上の種目 ★ は女子のみ全国平均以上の種目

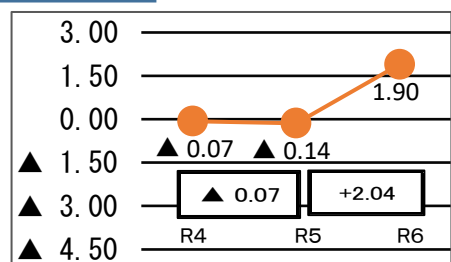


【体力合計点の全国との差とその推移】

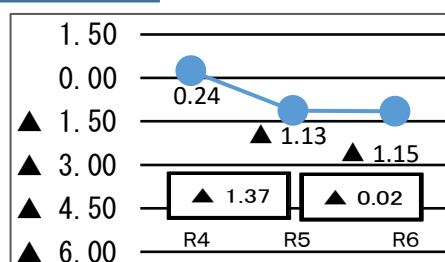
小学校男子



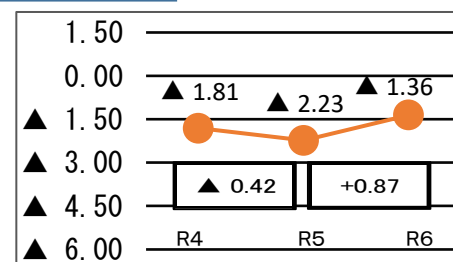
小学校女



中学校男子



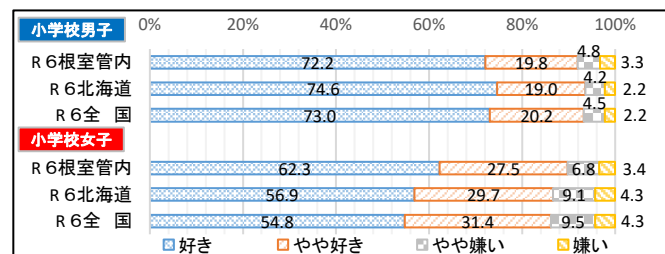
中学校女子



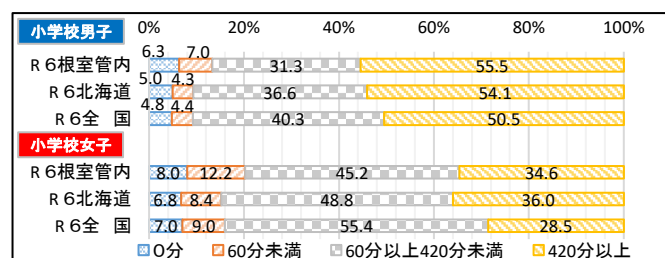
【質問紙調査の状況】

<児童生徒質問紙>

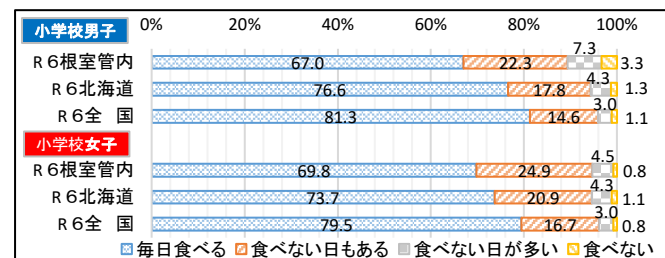
○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



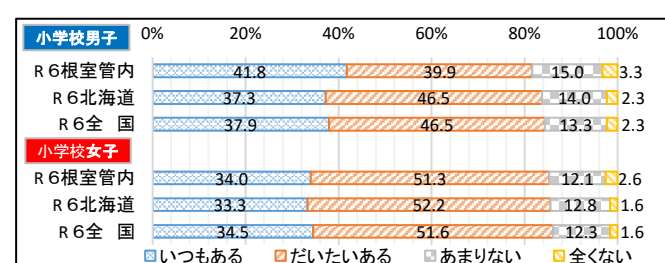
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそどのくらいの時間していますか。



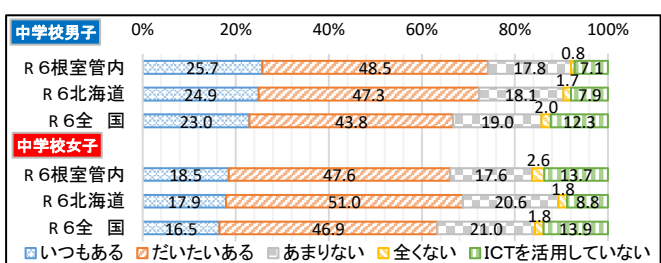
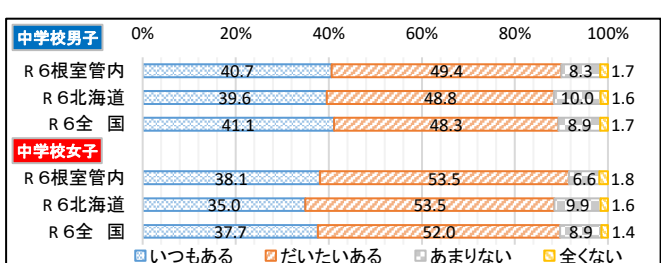
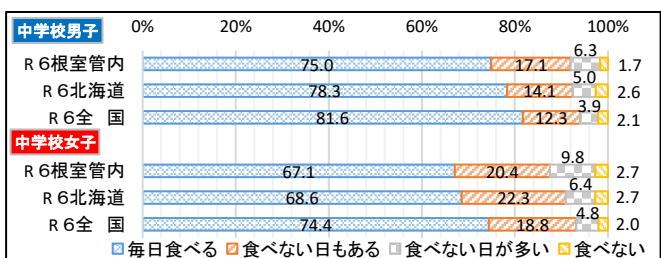
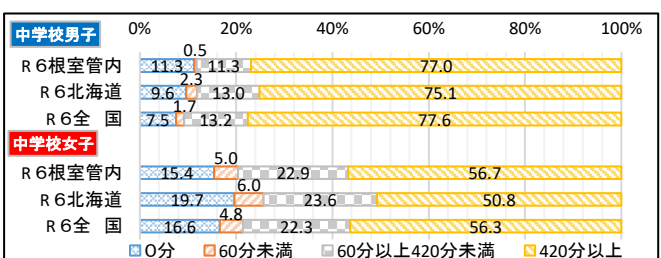
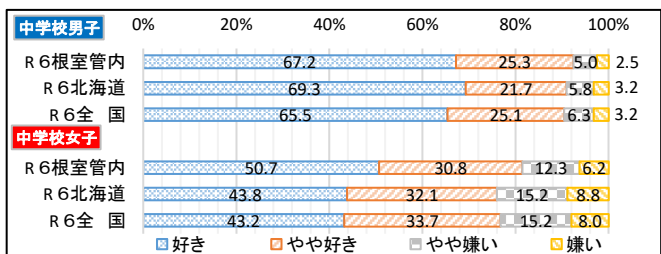
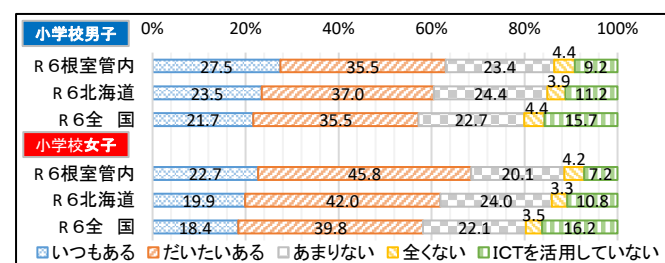
○ 朝食は毎日食べますか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

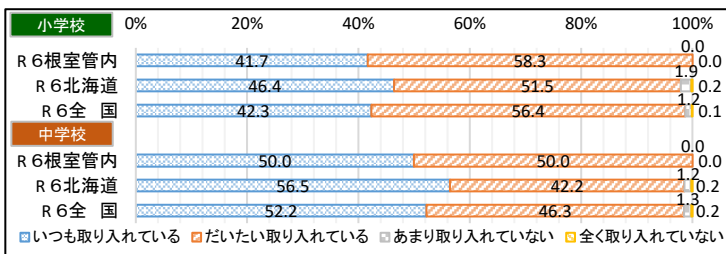


○ 体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

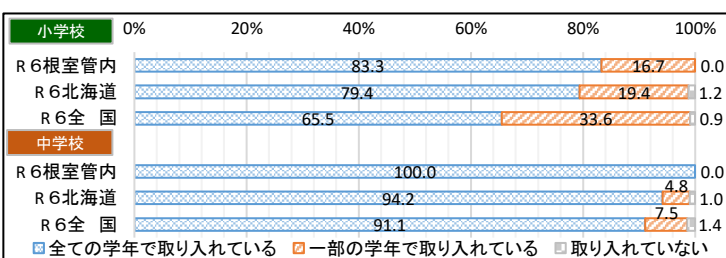


<学校質問紙>

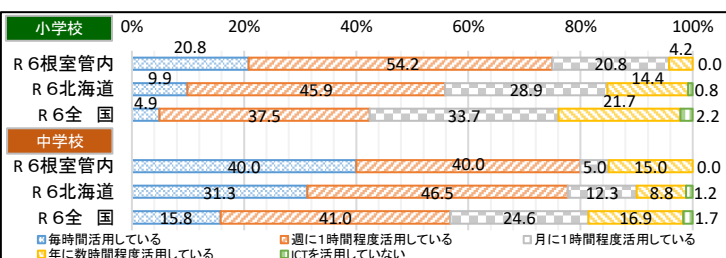
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れていますか。



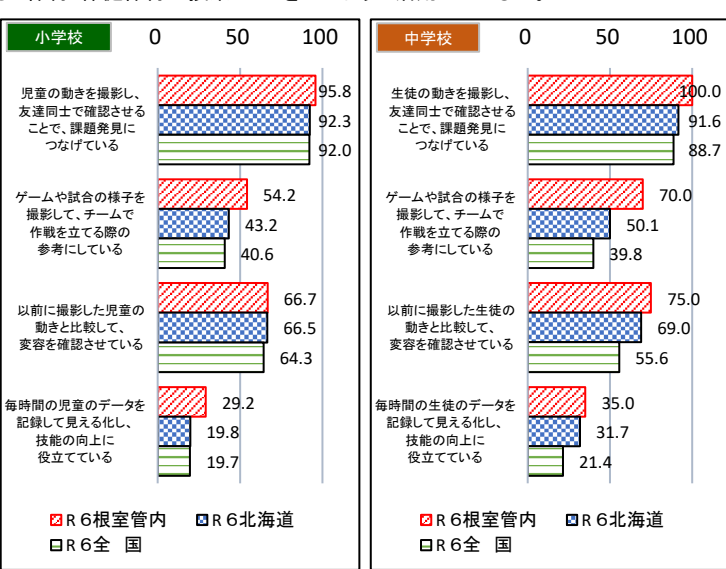
○ 体育・保健体育の授業では、児童生徒同士で話し合う活動を取り入れていますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



実技調査及び質問紙調査の分析

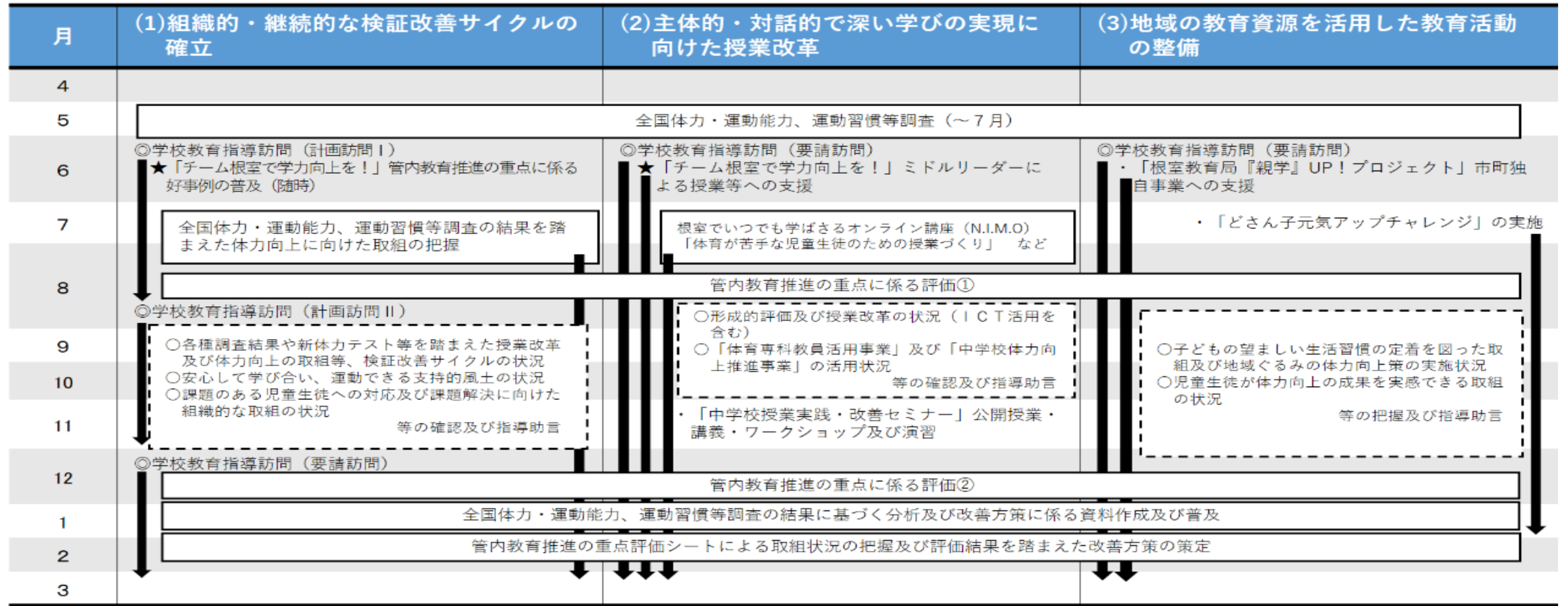
＜ 小 学 校 ＞		＜ 中 学 校 ＞	
実技調査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が0.05ポイント、女子が1.90ポイント高い。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男子が5種目、女子が6種目である。	実技調査	○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が1.15ポイント、女子が1.36ポイント低く、課題である。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男子が3種目、女子が2種目である。
質問紙調査	○ 体育の授業で、ICTを毎時間活用していると回答した学校の割合は20.8%であり、全国と比べて15.9ポイント高い。 ○ 体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、できたり、わかったりすることがいつもあると回答した児童の割合は、全国と比べて男子が5.8ポイント、女子が4.3ポイント高い。	質問紙調査	○ 保健体育の授業で、ICTを毎時間活用していると回答した学校の割合は40.0%であり、全国と比べて24.2ポイント高い。 ○ 保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、できたり、わかったりすることがいつもあると回答した生徒の割合は、全国と比べて男子が2.7ポイント、女子が2.0ポイント高い。

根室管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1)組織的・継続的な検証改善サイクルの確立
□新体力テスト分析ツール等を効果的に活用し、体育・保健体育の授業及び体力向上の各種方策を見直すよう学校及び市町教育委員会に指導助言し、学校又は市町全体で、教育目標や各種調査結果を踏まえた体力向上の取組の改善を図る。 □課題のある児童生徒への対応の状況を振り返り、校内で共有するよう指導助言し、課題解決に向けた組織的な取組の日常化を図る。 □局独自に実施している「根室管内教育推進の評価（4点満点）」を分析し、重点的な改善策のマネジメントをする。
(2)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改革
□学校教育指導訪問等で、児童生徒一人一人のつまづきや伸びについての形成的評価及び授業改革について指導助言し、体育・保健体育の授業改革や体力向上に関する各種取組の充実・強化を図る。 □「体育専科教員活用事業」で、体力向上等推進重点校に指導助言や支援を行い、体育・保健体育の授業改革や体力向上に関する各種取組の充実・強化を図る。 □「中学校体力向上推進事業」で、保健体育科の教員を対象とした授業実践・改善セミナーを実施し、教員の指導力向上を図る。 □「ミドルリーダーによる教員への支援」で、ミドルリーダーと指導主事を学校に派遣し、授業改革や体力向上についての研修の質の向上を図る。
(3)地域の教育資源を活用した教育活動の整備
□教育資源を活用し、学習・読書・運動習慣等を含む子どもの望ましい生活習慣の定着を図った好事例を管内に周知し、地域ぐるみの体力向上策の推進を図る。 □「どさん子元気アップチャレンジ」等の活用を推奨し、児童生徒が体力向上の成果を実感できる取組の推進を図る。 □学校教育指導の内容を教育委員会と共有し、市町の体力向上の取組を加速させる。

2 具体的な取組



3 取組の評価 ※（ ）は目標値

(1)組織的・継続的な検証改善サイクルの確立	(2)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改革	(3)地域の教育資源を活用した教育活動の整備
①根室管内教育推進の評価「子どもの変容を即時的に評価する継続的な検証改善サイクルの確立」（全小・中学校3.2点以上） ■小：3.37（4点中）中：3.13（4点中） ②根室管内教育推進の評価「子ども一人一人の個性や多様性を認め合う支持的な風土で学びが展開される環境の整備」（全小・中学校3.2点以上） ■小：3.58（4点中）中：3.40（4点中）	①根室管内教育推進の評価「実践の指導力や専門性の向上を図り、主体的に学び続ける教員の育成」（全小・中学校3.2点以上） ■小：3.42（4点中）中：3.33（4点中） ②根室管内教育推進の評価「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改革」（全小・中学校3.2点以上） ■小：3.37（4点中）中：3.20（4点中）	①根室管内教育推進の評価「地域の教育資源を活用した教育活動の整備」（全小・中学校3.2点以上） ■小：3.68（4点中）中：3.53（4点中）

4 改善に向けた今後の方向性

(1)組織的・継続的な検証改善サイクルの確立	(2)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改革	(3)地域の教育資源を活用した教育活動の整備
○ 授業改革マネジメントシート等を活用し、体力向上の状況を把握して指導の見直しを図る取組を日常的に継続するなど、検証改善サイクルの実質化 ○ 体力向上に係る取組状況を異校種間で共有し、児童生徒の強みを生かした異校種間連携及び一貫教育の推進	○ 指導内容の明確化・重点化を図った単元計画等に基づく、全ての児童生徒が意欲的に取り組み、3つの資質・能力をバランスよく育成することのできる学習活動の充実 ○ ミドルリーダー等指導力の高い教員の活用による効果的な体力向上策の普及 ○ 学習ツールとしてのICTの活用	○ 家庭や地域と連携した児童生徒の生活習慣、学習習慣の確立に向けた取組の推進 ○ 「どさん子元気アップチャレンジ」の活用を含む学校の特色を生かした体力向上の取組の推進

どさん子元気アップチャレンジ「ダブルダッチ全道大会」

「一人でトライ」

- 実施方法
 - ・ロープを回す人は児童生徒のほか、教員も可とする。
 - ・「はじめ」の合図で跳び始め、**60 秒間**経過した時点で「終わり」の合図をする。
※ロープに入るまでの時間を含めて計測する。
 - ・「終わり」の合図をした時点までの、跳躍に成功した回数の合計を記録する。
※失敗しても時間内は続けて行うことができ、失敗以降の回数も加算してカウントする。
- 記録
跳んだ回数の合計を記録とする。

<「一人でトライ」説明動画>

<https://youtu.be/dnc.jjRZfUqY>



「みんなでトライ」

- 実施方法
 - ・同学年または異学年 3 人以上（跳ぶ人）でチームをつくる。なお、ロープを回す人はチーム以外の児童生徒のほか、教員も可とする。
 - ・ロープの外で待機し、「はじめ」の合図で 1 人ずつにロープに入り跳び始める。
※ロープに入るまでの時間を含めて計測する。
 - ・3 回以上跳躍したらロープから抜け、次の人がロープに入る。
 - ・**60 秒間**経過した時点で「終わり」の合図をする。
 - ・「終わり」の合図をした時点までに、3 回以上跳躍をしてから抜けた人数の合計を記録する。
※失敗しても時間内は続けて行うことができ、失敗以降の人数も加算してカウントする。
- 記録
3 回以上跳躍をしてから抜けた人数の合計を記録とする。

<「みんなでトライ」説明動画>

https://youtu.be/QvDWgkyly_0

